



商法草案第一編第七章以下及第二編第三編

1277



414  
A 2679



商法草案目錄

第七章 商事契約

第一節 契約ノ種類

第二節 契約ノ取結

第三節 契約ノ履行

第四節 價額賠償損害賠償及七割引

第五節 違約金

第六節 代理人

第七節 時効

第八節 交互計算

第九節 質權

第十節 留置權

第十一節 指圖證券及七無記名證券

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

第八章 代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及運送人

第一節 總則

第二節 代辦人

第三節 仲立人

第四節 取引所仲立人

第五節 仲買人

第六節 運送取扱人

第七節 運送人

第八節 旅客運送

第九章 賣買

第一節 賣買契約

第二節 供給契約

第三節 競賣

第四節 取戻權

第十章 信用

第一節 消費貸借

第二節 信用約束

第三節 寄託

第十一章 保險

第一節 總則

第二節 火災及地震ノ保險

第三節 土地ノ產物ノ保險

第四節 運送保險

第五節 生命保險、病傷保險及年金保險

第六節 保險營業ノ公行

第十二章 爲替證券及引出切手

總則

第一節 爲替手形

第一款 振出

第二款 裏書

第三款 引受

第四款 榮譽引受

第五款 保證

第六款 支拂

第七款 榮譽支拂

第八款 償還請求

第九款 拒證書作成

第十款 逆爲替手形

第十一款 資金

第二節 約束手形

第三節 引出切手

第二編 海商

第一章 船舶

第二章 船舶所有者

第一節 船舶所有者ノ取得及ヒ移轉

第二節 船舶所有者ノ權利及ヒ義務

第三章 船舶債權者

第四章 船長及ヒ船員

第一節 船長

第二節 船員

第五章 運送契約

第一節 船舶貸借契約

第二節 船荷證書

第三節 運送貨

第四節 旅客運送

第六章 海損

第七章 冒險貸借

第八章 保險

第一節 保險契約ノ取結

第二節 保險者及被保險者ノ權利義務

第三節 委棄

第九章 時効

第三編 破産

第一章 破産宣告

第二章 破産ノ効力

第三章 別除權

第四章 保全處分

第五章 財團ノ管理及ヒ換價

第六章 債權者

第一節 債權ノ届出及ヒ確定

第二節 特種ノ債權者

第三節 債權者集會

第七章 協諧契約

第八章 配當

第九章 有罪破産

第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果

第十一章 支拂猶豫

第七章 商事契約

第一節 契約ノ種類

第二百七十四條 商事契約ハ明示又ハ默示ニテ之ヲ取結フコトヲ得

第二百七十五條 商事契約ノ旨趣ハ當事者ノ眞實及ヒ確定ナル共通ノ意思ニ依リテ定マルモノトス其意思ハ商慣習ト商人タル者ノ當然ノ思考トニ從ヒテ解釋ス可シ

第二百七十六條 明示ノ契約ハ書面、口頭又ハ容態ニテ之ヲ取結フコトヲ得

第二百七十七條 主タル目的物カ五十圓ノ價額ヲ超ユル契約ハ其履行ヲ即時ニ爲サ、ルキハ之ヲ書面ニ作成シテ交付ス可シ  
第十八條 書面補強ノ要件ハ合致ス、其後書面ニ記載スル本法中或ル契約ニ關スル特別ノ規定ハ前項ノ爲メニ妨ケラ

ル、ヲ無シ

第二百七十八條 書面作成ノ要件ハ合式ノ契約證書ヲ以テモ義務者又ハ其代人ノ署名若クハ之ニ代ハル可キ氏名アル書簡、電報、勘定書、切符、其他ノ各書類ヲ以テモ之ヲ充タスヲ得  
第二百七十九條 第二百七十七條ニ掲ケタル契約ノ旨趣ニ付テノ證據又ハ反對證據ハ書面ヲ以テスルモノニ限り之ヲ許ス但第二百七十五條ニ從ヒテ爲ス契約條款ノ解釋ニ關スルモノ又ハ錯誤、強暴若クハ詐欺ノ證明ニ關スルモノ又ハ羈束スルノ意思ナクシテ契約書ニ掲ケタル事實ニ關スルモノハ此限ニ在ラス

第二百八十條 第二百七十七條ニ掲ケタル契約ハ書面ニ作成セスト雖モ後ニ至リ當事者ニ於テ殊ニ雙務契約ノ場合ニ在テハ其雙方ニ於テ實際之ヲ履行シ又ハ書面ヲ以テ之ヲ承認

シタルモノハ法律上其効力アリ

第二百八十一條 默示ノ契約ハ契約提供ニ對シテ默示ノ承諾

アル場合ニ存シ又事ヲ爲シ又ハ爲サ、ルニ因リテ法律上若クハ商慣習上義務又ハ請求權ノ生スル總テノ場合ニ存ス

第二百八十二條 契約提供ニ對スル默示ノ承諾ハ一般ニ商慣

習若クハ誠實信用ニ因リ殊ニ被提供者ノ特別ナル業體又ハ雙方間ノ平常ノ取引關係ニ因リテ承諾シタルモノト通例推定ス可キ場合ヲ除クノ外ハ決シテ存スルモノト看做スヲ得

第二百八十三條 雙務ノ契約ニ在テハ相手方ノ行爲ニ對スル

承諾ハ其承諾シタル一方ニ於テモ履行ス可キ默示ノ承諾ヲ

第二百八十四條 契約上ノ義務ハ明示ト默示トヲ問ハス合法

ノ原因アルニ非サレハ成立スルヲ得ス  
第二百八十五條 契約上ノ義務ヲ將來ノ事件ノ不確定ナル發  
生又ハ不發生ニ繫ラシムル場合ニ於テハ契約ハ其事件ノ發  
生セサルキ又ハ發生シタルキハ當然消滅ス  
第二百八十六條 契約ニ加ヘタル未必條件又ハ期限ハ此カ爲  
メ利益ヲ受ク可キ者ノ明示ノ拋棄ニ因ルニ非サレハ無効ト  
爲スヲ得ス  
第二百八十七條 商事契約ニ依リ二人以上共同シテ債權ヲ取  
得シ又ハ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ反對ヲ明示シタルニ  
非サレハ其債權ハ各債權者ヨリ又其債務ハ各債務者ニ對シ  
連帶且無條件ニテ其効用ヲ致サシムルヲ得  
第二百八十八條 前條ノ規定ハ保證義務ノ場合ニ於テモ之ヲ  
適用ス殊ニ一人ノ保證人ニ對スル二人以上ノ債權者ニ關シ

テモ一人ノ債務者ノ爲メニスル二人以上ノ保證人ニ關シテ  
モ二人以上ノ債務者中ノ一人ノ爲メニスル保證人ニ關シテ  
モ之ヲ適用ス  
第二百八十九條 商事ニ於テ他人ニ對シ責ニ任スル注意ハ別  
段ノ規定又ハ契約アルニ非サレハ辨識アリ且勉勵ナル商人  
カ履行地ノ慣例ニ從ヒテ爲ス可キ注意ナリトス  
第二百九十條 不適法ノ意思又ハ甚シキ怠慢ニ出テタル行爲  
ニ付テノ責任ハ豫メ契約ヲ以テ之ヲ免カル、ヲ得ス  
第二百九十一條 意外ノ事ニ因ル危險及ヒ至重ナル注意ハ本  
法ニ規定ナキモ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ引受クルヲ得  
第二百九十二條 契約ノ取結  
第二百九十二條 契約ハ一方ノ提供ヲ他ノ一方ニ於テ異議ナ  
ク承諾シタルキ直ニ之ヲ取結ヒタルモノトス但默示ノ承



諾ノ存セサルキハ適當ノ方式ヲ以テ提供者ニ承諾ヲ述フル  
ヲヲ要ス  
第二百九十三條 契約ノ提供ハ即時ニ又ハ被提供者ニ許與シ  
タル期間ニ承諾ヲ述ヘサルキハ之ヲ拒絕シタルモノト看做  
ス  
第二百九十四條 提供ノ默示ノ承諾ヲ推定スルヲ得ル場合  
ニ於テハ被提供者カ即時又ハ許與セラレタル期間ニ拒絕ヲ  
述ヘサルキハ其提供ヲ承諾シタルモノト看做ス  
第二百九十五條 地ヲ隔テタル者ノ間ニ於テハ提供者ニ對ス  
ル承諾ノ陳述ハ遅クモ提供ヲ受取リタル翌日正午マテニ普  
通ノ送達方法ヲ以テ提供者ニ其陳述ヲ發シタルキハ即時ニ  
之ヲ爲シタリト看做ス但其翌日カ一般ノ休日ナルキハ更ニ  
其翌日ニ於テスルヲ得

第二百九十六條 契約提供ニ對シテ條件ヲ付シ又ハ變更ヲ加  
ヘテ爲ス承諾ニ在テハ提供者ハ其選擇ヲ以テ之ヲ純粹ノ拒  
絶ト看做シ又ハ被提供者ヨリ更ニ爲シタル提供ト看做ス  
ヲ得  
第二百九十七條 提供者ハ被提供者カ通常ノ情况ニ於テ即時  
又ハ期間ニ承諾ヲ述フルヲ得ル時ニ至ルマテハ被提供者  
ニ對シテ其提供ニ羈束セラル、モノトス然レモ提供ノ被提  
供者ニ達スル以前又ハ達スルト同時ニ反對ノ通知ヲ以テ其  
提供ヲ取消スヲ得  
第二百九十八條 契約提供ノ承諾ヲ述ヘタルキハ他ノ一方ノ  
同意ヲ得ルニ非サレハ其承諾ヲ取消スヲ得然レモ地ヲ  
隔テタル者ノ間ニ於テハ取消カ承諾陳述ノ達スル以前又ハ  
達スルト同時ニ提供者ニ達スルキハ其取消ヲ有効トス

第二百九十九條 契約取結ニ關スル通信ヲ爲スニ當リ送達人ノ過誤及ヒ遲延ニ付キ送達人ニ其責任ヲキキハ送達ノ爲メ利益ヲ受クル者其責ニ任ス

第三百條 見本、代價附其他契約提供ヲ媒介スル物ニシテ契約提供ト共ニ送付シ若クハ別ニ送付スルモノハ其提供ノ拒絕セラル、場合ト雖モ被提供者ノ方ニ留マルヲ通例トス其他ノ商品ニ在テハ被提供者ハ提供者カ更ニ處分ヲ爲スニ至ルマテ相當ノ方法ヲ以テ之ヲ貯藏ス可シ然レモ第三百七十三條ノ規定ニ從ヒ相當ノ期間ニ其商品ヲ賣却シテ立替金及ヒ口錢ノ辨濟ニ充ツルヲ得

第三百一條 商事契約ハ強暴、詐欺又ハ錯誤アル場合ニ於テハ之ニ對シテ異議ヲ述フルヲ得然レモ大ナル欠損ニ因リ殊ニ代價其他ノ報償ノ不相當ナルニ因リテ異議ヲ述フルヲ得

得ス

第三節 契約ノ履行

第三百二條 契約ノ履行ハ一方カ他ノ一方ノ同意ヲ得テ明示又ハ默示ニテ頁ヒタル義務ヲ完全ニ辨濟スルニ在リ

第三百三條 債務者ノ義務ノ旨趣及ヒ範圍殊ニ債務ノ目的物ノ性質及ヒ品位ニ付テハ履行地ニ行ハル、定例ニ依リテ之ヲ定ム但別段ノ契約又ハ商慣習アルキハ此限ニ在ラス

第三百四條 十分ナル債務辨濟ヲ適當ノ方法ヲ以テ債權者ニ言込ムモ債權者其承諾ヲ拒絕スルキハ債務者ハ其辨濟ス可キモノヲ債權者ノ計算及ヒ危險ニ於テ處分スルヲ得此場合ニ於テハ債務者ハ不適法ノ意思又ハ甚シキ怠慢ニ付テノ債權者ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百五條 債權者ハ一分ノ履行又ハ遲延セタル履行ヲ承諾

スルヲ要セス但割拂ノ契約又ハ慣習アルキハ此限ニ在ラ  
ス  
第三百六條 契約ノ履行ハ契約上ノ満期日又ハ其他定マリタ  
ル満期日ニ之ヲ爲サ、ルキハ遅延シタリトス  
第三百七條 満期日ハ日ヲ指シテ之ヲ定メ又ハ期間ヲ設ケテ  
之ヲ定ムルヲ得  
第三百八條 期間ヲ定ムルニ日數ヲ以テシタルキハ其期間ノ  
末日ヲ満期日ト看做シ週數、月數又ハ年數ヲ以テシタルキハ  
最後ノ週、月又ハ年ニ於テ結約ノ日ニ應當スル日ヲ満期日ト  
看做ス  
第三百九條 日ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニ付テハ結約ノ日  
ハ之ヲ算入セス  
第三百十條 半个月ハ十五個日ノ期間ト看做ス

第三百十一條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルキハ其翌日ヲ満期  
日ト看做ス  
第三百十二條 特別ノ情况アルキノ外ハ履行地ニ於ケル慣習  
上ノ取引時間ヲ以テ履行ニ付テノ一日ノ時間ト看做ス  
第三百十三條 或ル期間ノ經過中ニ履行ヲ爲スノ契約ナルキ  
ハ其履行ハ期間内何レノ取引日ニテモ之ヲ爲シ又ハ之ヲ求  
ムルヲ得  
第三百十四條 前條ノ場合ニ於テ疑ハシキキハ期間ノ定ニ因  
リテ利益ヲ受ク可キ一方カ履行日ヲ擇ムヲ得通例此ノ如  
キ一方ト看做ス可キ者ハ商品ノ受取人又金錢ニ係ル債權ニ  
在テハ債務者トス  
第三百十五條 期間ヲ延ヘタル場合ニ於テ別ニ定ムル所アル  
ニ非サレハ其新期間ハ舊期間ノ滿了ヨリ起算ス

第三百十六條 契約其他ニ履行期日ノ定ナクシテ債務者其履行ヲ相當ノ期間ニ爲サ、ルキハ債權者ハ滿期日ヲ定ムルヲ得

第三百十七條 別段ノ履行地ヲ定メス又ハ取引ノ性質若クハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ推知スルヲ得サルキハ履行ハ債權者若クハ受取ノ權利アル者ノ指定シタル地若シ指定セサルキハ其住地殊ニ營業場ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第三百十八條 債務者ノ負擔セル送付ノ義務ハ債權者ノ指定シタル運送場若シ指定セサルキハ適當ノ運送場ニ交付スルヲ以テ之ヲ履行シタルモノトス

第三百十九條 當事者雙方カ同地ニ住スル場合ニ於テ別段ノ契約ナキキハ債務者カ債務ノ目的物ヲ送付ス可キヤ又ハ債權者カ之ヲ取寄ス可キヤハ其地ノ慣習又ハ取引ノ性質ニ依

リテ之ヲ定ム

第三百二十條 別段ノ契約ナキキハ債務ノ目的物ノ送付ハ債權者ノ危險ニ於テ之ヲ爲スヲ通例トス但債務者カ自己又ハ其使用人ノ過失ニ付テ負フ責任ハ此カ爲メニ妨ケラル、ヲ無シ

第三百二十一條 度量衡、距離、期間、休日、支拂貨幣ノ本位并ニ種類其他履行ノ細目ハ履行地ニ行ハル、定例ニ從ヒテ之ヲ定ム

第三百二十二條 但別段ノ契約又ハ商慣習アルキハ此限ニ在ラス

第三百二十三條 債權者カ其債務ノ履行ヲ正當期日ニ爲サ、

ルキハ債權者ハ契約ヲ解除シ又ハ價額賠償若クハ損害賠償ヲ求ムルヲ得

第三百二十四條 價額賠償ハ金錢ニ係ル債務ニ付テハ債務額ノ外満期日ヨリ其債務ヲ辨濟スル日マテノ遅延利息ヲ支拂フニ在リ總テ其他ノ債務ニ付テハ債務ノ目的物カ満期日ノ後ニ有セシ最高ノ價額ト其價額ヲ定メタル時ヨリ辨濟ノ日マテノ遅延利息トヲ支拂フニ在リ但債權者ニ於テ債務ノ目的物カ満期日ニ有セシ價額ト此日ヨリノ遅延利息ノ賠償トヲ得ント欲スルキハ此限ニ在ラス

第三百二十五條 債權者ハ債務者ノ過失ヲ證明シ又ハ債務者ノ不履行ニ因リ自己ニ加ヘラレタル損害ヲ證明スル無クシテ價額賠償ヲ求ムルヲ得但義務ノ性質及ヒ範圍ニ因リテ債務者カ不履行ニ付キ責任ヲ負フキニ限ル

第三百二十六條 第三百二十四條ノ規定ニ從ヒテ査定ス可キ債務ノ目的物ノ價額ハ其普通ノ市場價額又取引所ニ於テ賣買スル物ニ在テハ其取引所相場ニ加フルニ遲延ニ因リテ生シタル費用及ヒ立替金ヲ以テシタルモノトス支出金ノ額

第三百二十七條 第三百四條ニ掲ケタル承諾ヲ遲延シタル債權者ハ亦遲延ニ因リテ生シタル費用及ヒ立替金ヲ債務者ニ賠償ス可シ

第三百二十八條 故意又ハ怠慢ノ行爲ニ因リテ不適法ニ損害ヲ他人ニ加ヘタル者ハ其損害ニ付キ十分ノ賠償ヲ爲スノ義務アリ

第三百二十九條 損害賠償ハ生シタル損失及ヒ失ヒタル利益ノ辨償ヲ包括ス

第三百三十條 利益トハ一方ノ加害ノ行爲ヲカリシキハ他ノ

一方カ爲シ得ヘカリシヲ證明シ得ヘキ取得ヲ謂フ此取得ハ豫見シ得ヘキモノナリシト否ト又ハ通常ノモノナリシト否トヲ問フコト無シ

第三百三十一條 損害賠償ヲ査定スルニハ偶然推測若クハ將來ノ利益若クハ損失又ハ他ノ情况ノ加ハルニ因リテ生スルコト有ル可キ利益若クハ損失ハ之ヲ問フコト得ス

第三百三十二條 契約ヲ以テ豫メ價額賠償又ハ損害賠償ノ額ヲ定メタルキハ之ニ從フヲ通例トシ實際ノ情况ヲ援用シテ其豫定ノ額ヲ増減セント主張スルコト得ス

第三百三十三條 費用、立替金、前貸金其他此類ノ支出金ノ賠償及ヒ損害ノ賠償ヲ爲ス可キ者ハ權利者ノ求ニ依リ其各金額ノ割合ニ應シテ辨償ス可キ日ヨリノ利息ヲ支拂フ可シ

第三百三十四條 遅延利息其他ノ利息ニシテ法律又ハ契約ニ

於テ歩合ヲ定メサルモノハ年百分ノ七トス

第三百三十五條 金錢ニ係ル債務ヲ満期前ニ支拂フキハ債務者ハ契約又ハ商慣習アルキニ限り其満期前ノ時間ニ應シテ割引ヲ求ムルコト得

第三百三十六條 契約不履行ニ因リテ債權者ヨリ契約ヲ解除スルキハ債務者ハ既ニ爲シタル一分ノ辨濟ヲ現狀ニテ取戻シ其受取リタル報償ヲ全額又ハ全價額ヲ以テ債權者ニ償還ス可シ

第五節 違約金

第三百三十七條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フノ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコト得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百三十八條 履行又ハ賠償ヲ求ムル債權者ノ權利ハ違約金ノ爲メニ廢止セラレスト雖モ疑ハシキハ違約金ト共ニ損害賠償ヲ求ムルヲ得ス

第三百三十九條 過失アル不履行ニ因リテ債權者ニ加ヘタル損害カ違約金ノ額ヲ超ユルキハ違約金ノ外此超過額ニ付キ損害賠償ヲ求ムルヲ得

第三百四十條 違約金ノ契約ニシテ差額取引又ハ不法ナル博奕若クハ賭事ノ取引ヲ隱蔽セントスルノ目的ヲ以テスルモノハ無効トス

#### 第六節 代理

第三百四十一條 商取引ノ取結ノ爲メニスル委任ハ總テノ場合ニ於テ其取引取結ノ爲メニスル代理ト看做ス但委任者カ代理人ノ行爲ニ承諾ヲ與フルヲ要スル旨ヲ明示シタル中

ハ此限ニ在ラス

代理人ハ委任ヲ行フノ際至重ノ注意ヲ爲スノ義務アリ

第三百四十二條 委任者ノ名ヲ以テシタルト否トナ問ハス委任者ノ爲メニ代理人ノ取結ヒタル商取引ニ因リ委任者ハ直

接ニ第三者ニ對シテ權利ヲ得義務ヲ負フ

第三百四十三條 委任又ハ事後ノ承諾ヲ受クルヲ無クシテ第三者ノ爲メニ或人ト取引ヲ取結フ者ハ其人ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十四條 取引取結ノ際其委任ノ權限ヲ踰越スル者ハ第三者カ其踰越ヲ知ラス又ハ知ルヲ能ハサリシキハ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十五條 代理人カ他人ノ爲メ商取引ヲ取結ヒタル場合ニ於テ相手方カ自己ノ過失ニ非スシテ代理ナルヲ知ラ

ス又ハ委任者ヲ知ラサリレキハ其相手方ハ委任者ノ不履行ニ因リテ被フリタル損害ニ付キ其代理人ニ對シテ賠償ヲ求ムルノ權利アリ

第三百四十六條 代理ハ委任者又ハ代理人ノ死亡ニ因リテ解除スルモノニ非ス

第三百四十七條 代理ハ委任者ノ承諾アリ又ハ其承諾ヲ得ヘキモノト推定ス可キ情况アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ轉付スルヲ得ス

第三百四十八條 他人ノ爲メニ其委任又ハ事後ノ承諾ヲ受ケテ商取引ヲ取結フ者ハ明約ナキハト雖モ計算書ヲ示シテ其取引取結ニ付キ正當ニ爲シタル前貸金立替金并ニ費用ヲ賠償セシメ及ヒ慣習上ノ利息手数料又ハ口錢ヲ求ムルノ權利アリ

第七節 時効

第三百四十九條 商事ニ於ケル債權ハ滿期日ヨリ若シ此期日ノ定ナキハ其債權ノ生シタル日ヨリ六个月ノ滿了ニ因リテ時効ニ罹ル但法律上別段ノ時効期間ヲ規定シタルハ此限ニ在ラス

第三百五十條 時効ハ履行ノ爲メ債務者ニ明示シテ爲シタル催告又ハ債權ノ取立若クハ擔保ノ爲メ債務者ニ對シテ爲シタル債權者ノ裁判上若クハ裁判外ノ行爲又ハ書面上ノ支拂約束又ハ主タル物若クハ從タル物ニ關シ債務者ノ爲シタル一分ノ支拂ニ因リテ中斷ス

第三百五十一條 受取證ヲ記シ又ハ記セサル計算書ノ送付ノミニテハ之ヲ催告ト看做スコヲ得ス

第三百五十二條 滿了シタル時効ノ効力ハ主タル物及ヒ從タ



ル物ニ付テノ債權全ク消滅シ債權者ヨリ直接ニモ間接ニモ復タ之ヲ主張スルヲ得サルニ在リ

### 第八節 交互計算

第三百五十三條 相互ノ間ニ絶ヘス債權及ヒ債務カ生スル所ノ平常ノ取引關係ヲ有スル者ハ期間ヲ定メテ互ニ差引計算ヲ爲シ其債權及ヒ債務ヲ消却スルヲ得

第三百五十四條 交互計算ノ關係ハ明示又ハ默示ノ契約ニ因リテ生ス然レモ長キ時間與信用ヲ繼續シタルモ此カ爲メニ交互計算ノ關係ヲ生スルヲ無シ

第三百五十五條 差引計算ノ期間ハ一个年トス但契約ヲ以テ此ヨリ短キ期間ヲ定メタルモ此限ニ在ラス

第三百五十六條 各當事者ハ毎期間ノ終ニ計算ヲ閉鎖シ且約定又ハ相當ノ期間ニ其計算書ヲ承認又ハ異議申述ノ爲メ互

ニ送付スルノ義務アリ

第三百五十七條 異議ヲ起サス又ハ異議ヲ起シタルモ留保ヲ爲サスシテ交互計算ノ關係ヲ繼續スルモハ計算ヲ默認シタルモノト看做ス

第三百五十八條 交互計算ニ屬スル各債權ハ交互計算ノ關係ヲ解キ又ハ計算ニ對シテ異議ヲ述フルモ非サレハ各箇ニ之ヲ主張スルヲ得ス

第三百五十九條 計算カ承認セラレタルモハ其計算ニ依ルニ非サレハ差引殘額ヲ請求スルヲ得ス

第三百六十條 毎期間ノ終ニ生スル差引殘額ハ之ヲ新ナル債務計目トシテ次ノ計算ニ移ストヲ得但反對ノ契約アルモハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 別段ノ契約又ハ慣習アラサルモハ商事ヨリ

生スル相互ノ債權及ヒ債務ハ種類ノ何タルヲ問ハス交互計算ヲ以テ取扱フヲ得

第三百六十二條 一方ニ於テノミ債權ヲ生シ他ノ一方ハ其債權ノ計算ノ爲メニ時時支拂ヲ爲シテ絶ヘス取引スル者ノ間ニ交互計算ノ關係ヲ生スルキハ其計算ニ屬スル債權ハ期間ニ從ヒ且交互計算ノ全部ニ依ルニ非サレハ之ヲ主張スルヲ得ス

第三百六十三條 交互計算ニ繰込ミタル債權ハ契約上ノ定ナキキト雖モ其繰込ノ日ヨリ之ニ相當ノ利息ヲ付ス可シ

第三百六十四條 各計算期間ニ生スル差引殘額ニ付テハ期間ノ末日ヲ滿期日ト看做ス

第三百六十五條 交互計算ノ關係ハ其計算ニ繰込ミタル債權及ヒ債務ニ付テハ第三者ニ對シテ其効ヲ有セス

第三百六十六條 交互計算ノ關係ハ當事者ノ一方カ何時ニテモ之ヲ辭スルノ外死亡又ハ破産ニ因リテ解除ス

第九節 質權

第三百六十七條 商取引ヨリ生スル債權ノ擔保ノ爲メニスル動産質權ノ設定ハ總テノ場合ニ於テ書面契約ヲ以テ之ヲ爲ス可シ其契約ハ擔保セラル可キ債權ノ日附、數量并ニ其合法ノ原因及ヒ質權設定ノ日附并ニ目的物ヲ逐一記載セサルキハ無効トス

第三百六十八條 質權設定ニ因リ債權者ハ質物ヲ賣却シテ其債權ノ辨償ニ充ツルノ權利ヲ取得ス但質物ノ占有カ自己又ハ其代人ニ移リタルキニ限ル

第三百六十九條 船荷證書、倉荷證書其他裏書ヲ以テ所載商品ノ處分權ヲ移轉スルヲ得ル證券ノ裏書讓渡ハ物ノ占有ノ

移轉ト同一ナリトス

第三百七十條 指圖證券カ質權設定ノ目的物ナルキハ其證券ニ質入ノ旨ヲ附記シテ債權者ニ裏書讓渡ス可シ

第三百七十一條 債務者カ其債務ノ辨濟ヲ遅延シタルキハ債權者ハ債務者ニ對シ訴ヲ起ス可ク無クシテ質契約書ヲ差出シ裁判所ノ命令ヲ得タル後質物ノ賣却ニ着手スルヲ得

此命令ハ債權者ヨリ遅延ナク債務者ニ之ヲ通知ス可シ

第三百七十二條 債務者カ契約書ヲ以テ賣却ノ承諾ヲ明示シタルキ又ハ指圖證券ヲ質入シタルキハ債權者ハ裁判所ノ命令ヲクシテ賣却ヲ爲ス可ク得

第三百七十三條 前二條ノ場合ニ於ケル賣却ハ仲立人又ハ競賣人カ競賣ヲ以テ之ヲ爲シ又取引所ニ於テ賣買スル商品ニ在テハ取引所ニ於テ公ノ呼上ヲ以テ之ヲ爲シ且賣却期日ノ

少ナクモ八日前ニ其爲サントスル賣却ヲ債務者ニ通知ス可シ

第三百七十四條 前條ニ掲ケタル期間ノ滿了スルマテハ債務者ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シテ質物ノ還付ヲ求ムルノ權利アリ

第三百七十五條 債務額ニ利息及ヒ必要ノ費用并ニ立替金ヲ加ヘタル額ヲ超コル賣却代價ノ過剩ハ賣却ノ諸費用ヲ引去

リタル後之ヲ債務者ニ還付ス可シ

第三百七十六條 債務者ハ質權ノ設定ニ因リテ質物ヲ他ニ讓渡スノ權利ヲ失フ可ク然レモ質債務ノ全額ニ滿ツルマテ

其代價ヲ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十七條 買主ニシテ其買入レタル物ニ付キ第三者ニ質權ノ存スルヲ知ル者ハ質債務ノ全額ニ滿ツルマテ其代

價ノ存スルヲ知ル者ハ質債務ノ全額ニ滿ツルマテ其代

價ノ存スルヲ知ル者ハ質債務ノ全額ニ滿ツルマテ其代

價ノ存スルヲ知ル者ハ質債務ノ全額ニ滿ツルマテ其代

價ヲ直接ニ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フキハ亦前條ノ刑ニ處ス

第三百七十八條 同一ノ物ニ付キ質權ヲ二人以上ニ設定シタルキハ其物ノ占有者カ賣却ノ優先權ヲ有ス但強暴若クハ隱密ニテ又ハ隨時返還ノ條件ヲ以テ其占有ヲ得タルキハ此限ニ在ラス

第三百七十九條 二人以上ノ質債權者中一人ハ現物ヲ占有シ他ノ者ハ其物ニ付テノ處分證券ヲ占有スルキハ孰レニテモ其占有ヲ先キニ得タル者カ賣却ノ優先權ヲ有ス

第三百八十條 動産ニ付テノ有効ナル質權ハ質債權者ノ善意ナルキニ限り所有者ニ於テ又ハ物ヲ處分スル爲メ所有者ヨリ委託セラレタル代人ニ於テ又ハ正當ナル取得ニ因リ物ノ占有ヲ得タル各人ニ於テ之ヲ設定スルヲ得但其物カ盜品

又ハ紛失品ナルキハ此限ニ在ラス

第三百八十一條 所有者ニ非サル者ノ質入シタル物ハ賣却執行ノ終ニ至ルマテハ所有者ヨリ質債權者ニ十分ナル辨償ヲ爲シテ其取戻ヲ求ムルヲ得

第三百八十二條 質入シタル物ヲ賣却シ其代價ノ支拂アリタルキハ從來其物ニ付キ存セシ所有權又ハ質權ハ總テ消滅ス

第三百八十三條 質權ハ第三者ニ於テモ債務者ノ爲メ之ヲ設定スルヲ得

第三百八十四條 質權ハ將來ノ債權ノ爲メ豫メ之ヲ設定スルヲ得

第三百八十五條 質物賣却ノ裁判上ノ停止ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シタリトノ抗辯ヲ以テ之ヲ爲サシムルヲ得但其抗辯ヲ

直ニ信認セシメ得ルキニ限ル

第三百八十六條 指圖證券又ハ無記名證券ニ因リテ生シタル債權ヲ質入スルニハ債務者ニ通知ヲ爲スヲ要セス  
質債權者ハ質ニ取リタル債權ヲ賣却ニ代ヘテ直接ニ取立ツルヲ得又金錢ニ係ル債權ニ非サルキハ目的物ヲ質物トシテ取扱フヲ得

第十節 留置權

第三百八十七條 商取引ニ因リテ他人ノ物ヲ占有シ其物ニ付キ勞力、費用、前貸金、立替金、手數料又ハ利息ニ關シテ滿期ト爲リタル債權ヲ有スル者ハ其債權ノ完全ナル辨濟又ハ擔保ヲ得ルマテハ其物又ハ其賣得金ヲ留置スルノ權利アリ  
第三百八十八條 交互計算ヨリ生スル差引殘額ニ付テハ債權ノ爲メ又ハ債務者支拂ヲ停止シタルキハ未ダ滿期ト爲ラサ

第三百八十九條 留置權ハ占有ヲ喪失ニ因リテ消滅ス但權利者カ自己ノ利益ヲ爲メ其物ヲ處分シタルモ其留置權アルヲ新所持人ニ告知セシキハ此限ニ在ラス  
第三百九十條 留置權ハ債權カ時効其他ノ事由ニ因リテ消滅シタルカ爲メニ消滅スト雖モ物ノ所有權カ債務者ノ意ヲ以テ又ハ意ヲシテ他人ニ移リタルカ爲メニハ消滅セス  
第三百九十一條 留置權ハ債權者ヨリ之ヲ他人ニ移スヲ得ス  
第三百九十二條 留置權ノ行使ヲ債務者ニ通知シタルモ仍ホ相當ノ期間ニ辨濟又ハ擔保ヲ得サル者ハ留置シタル物ヲ第三百七十一條及ヒ第三百七十三條ノ規定ニ從ヒテ賣却シ其

賣得金ヲ以テ辨濟ニ充ツルヲ得

第三百九十三條 雙務ノ契約ニ依リテ其履行ヲ求ムルヲ得ル者ハ他ノ一方カ履行ヲ爲スマテハ自己ノ義務ノ目的物ヲ留置スルヲ得但反對ノ契約又ハ商慣習アルキハ此限ニ在ラス

第十一節 指圖證券及ヒ無記名證券

第三百九十四條 或ル金額又ハ商品ノ引渡ニ係ル書面契約ヨリ生スル債權ハ契約書カ其明文又ハ商慣習ニ從ヒテ指圖式ナルキハ裏書ヲ以テ之ヲ第三者ニ讓渡スヲ得

第三百九十五條 指圖證券ノ發行人又ハ裏書讓渡人ハ其證券ニ指圖式ニ非サル旨ヲ明記シテ裏書讓渡スヲ得サルモノト爲スヲ得

第三百九十六條 指圖證券及ヒ其裏書ニハ日附ヲ爲シ發行人

第三百八十九條 留置權ヲ占有シ喪失ニ因リテ消滅ス但權利

第三百九十條 留置權ハ債權カ時効其他事由ニ因リテ消滅スルカ爲シニ消滅スト雖モ物ノ所有權カ債務者同意ヲ以テ又ハ意ヲクシテ他人ニ移リタルカ爲シニハ消滅セス

第三百九十一條 留置權ハ債權者ヨリ之ヲ他人ニ移スヲ得

第三百九十二條 留置權ノ行使ヲ債務者ニ通知セタルモ仍ホ相當ノ期間ニ辨濟又ハ擔保ヲ得サル者ハ留置セタル物ヲ第三百七十一條及ヒ第三百七十三條ノ規定ニ從ヒテ賣却シ其

賣得金ヲ以テ辨濟ニ充ツルヲ得  
第三百九十三條 雙務ノ契約ニ依リテ其履行ヲ求ムルヲ得  
ル者ハ他ノ一方カ履行ヲ爲スマテハ自己ノ義務ノ目的物ヲ  
留置スルヲ得但反對ノ契約又ハ商慣習アルキハ此限ニ在  
ラズ  
第十一節 指圖證券及ヒ無記名證券  
第三百九十四條 或ル金額又ハ商品ノ引渡ニ係ル書面契約ヨ  
リ生スル債權ハ契約書カ其明文又ハ商慣習ニ從ヒテ指圖式  
ナルキハ裏書ヲ以テ之ヲ第三者ニ讓渡スヲ得  
第三百九十五條 指圖證券ノ發行人又ハ裏書讓渡人ハ其證券  
ニ指圖式ニ非サル旨ヲ明記シテ裏書讓渡スヲ得サルモノト  
爲スヲ得  
第三百九十六條 指圖證券及ヒ其裏書ニハ日附ヲ爲シ發行人

又ハ裏書讓渡人之ニ署名捺印ス可シ  
第三百九十七條 發行又ハ裏書讓渡ノ緣由タル契約ノ合法ノ  
原因ハ之ヲ證券ニ掲クルヲ要セス但第三百七十條ノ規定  
ヲ妨ケス  
第三百九十八條 指圖證券ハ白地ニテ之ヲ發行シ又ハ裏書讓  
渡ヲ爲スヲ得  
第三百九十九條 指圖證券ノ發行人ハ受取證ヲ記シタル指圖  
證券ノ呈示及ヒ交付ヲ受ケタルキハ豫メ引受ヲ爲サスト雖  
モ其證券ニ記載シタル金額又ハ商品ヲ裏書讓受人ニ引渡ス  
ノ義務アリ但第三百八十七條ニ依リテ留置權ノ原因タル反  
對債權ヲ有スル場合ニ於テハ其辨濟ヲ受ケタルキニ限ル  
第四百條 指圖證券ノ發行人ハ呈示人ノ眞偽ヲ調査スルノ權  
利アルモ其義務ナシ然レモ惡意又ハ甚シキ怠慢ニ付テハ此

同時ニ雙方ヲ代理スルヲ得サルヲ通例トス

第四百八條 代辨ノ契約ハ一箇ノ取引ノ爲メ又ハ一種類若クハ數種類ノ取引ノ爲メ有期ト無期ト又明示ト默示トヲ問ハス之ヲ取結フヲ得又其契約ハ何時ニテモ一方ヨリ之ヲ解クヲ得然レモ其契約ヨリ生シタル權利及ヒ過失ニ出ツル解除ニ因リテ被ムラシメタル損害ヲ賠償スルノ義務ハ契約ヲ解キタルカ爲メニ妨ケラル、ヲ無シ

第四百九條 代辨人ハ特ニ委任者ノ求ナキモ其委任セラレタル取引ノ範圍内ニ於テ委任者ノ利益ヲ謀ルノ義務アリ然レモ滿期ト爲リタル自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ其任務ヲ續行スルヲ要セス

第四百十條 委任者ニ對スル代辨人ノ代理權ノ範圍ハ委任者ヨリ與ヘタル委任又ハ事後ノ承諾ニ依リテ之ヲ定ム常囑ノ

代辨人ニ在テハ其事後ノ承諾ヲ以テ引續ノ委任ト看做ス但

反對ノ情况又ハ明示アルモハ此限ニ在ラス

第四百十一條 代辨人ハ明示ノ委任ヲ受クルニ非サレハ契約ノ取結ヲ爲スヲ得サルヲ通例トス

第四百十二條 取引ノ取結ヲ爲スノミノ委任ヲ受ケタル代辨人ハ支拂ノ金錢若クハ差戻ノ商品ヲ受取り又ハ異議ヲ承諾スルノ權利ナシ

第四百十三條 代辨人ハ別段ノ委任ヲ受クルニ非サレハ和解決約ヲ取結ヒ又ハ訴訟ヲ爲スノ權利ナシ

第四百十四條 商品ノ引渡其他契約履行ノ爲メ委任ヲ受ケタル代辨人ハ其代價ノ支拂ヲ受クルノ權利アリト看做ス但委任者其反對ヲ明示シタルモハ此限ニ在ラス

第四百十五條 代辨人ハ其取扱ヒ又ハ取結ヒタル取引ニ關シ



テハ過失アルキ又ハ別段ニ義務ヲ負擔シタルキニ限り第三者ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ其別段ニ義務ヲ負擔シタル場合ニ於テハ第二百八十八條ノ規定ヲ適用ス

第四百十六條 常囑ノ代辨人其行爲ニ付キ第三者ノ間ニ對シテ已レニ其權アリト明言シタルキ又ハ其行爲カ慣習上委任ノ範圍内ニ在ルキハ委任者ハ善意ナル第三者ニ對シテ責任ヲ負フ

第四百十七條 代辨人其行爲ニ付キ第三者ヨリ口錢、報酬又ハ償金ヲ受クルキハ之ヲ委任者ノ計算ニ歸ス可シ然ラサルキハ委任者其行爲ニ付キ責任ヲシト述フルコトヲ得

第四百十八條 代辨人ハ自己ノ受取ル可キ手數料、前貸金、立替金、費用及ヒ利息ノ爲メ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條

ノ規定ニ從ヒ委任者ニ對シテ留置權ヲ有ス又其現ニ支拂ヒタル立替金及ヒ費用ニ付テハ商慣習又ハ實際ノ必要ニ依リ又ハ委任者ノ利益ノ爲メ正當ト認ム可キモノニ限り之ヲ委任者ノ負擔ニ歸スルコトヲ得

第三節 仲立人  
第四百十九條 仲立人ハ官ノ認可ヲ受ケ他人間ノ商取引ノ媒介ヲ爲スヲ營業トスル商人ニシテ取引所ナキ地ニ於テハ商品、有價證券、貨幣及ヒ爲替ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公ニスルノ專權ヲ有ス其仲立人ノ行爲ハ總テ公ノ信用アルモノトス  
第四百二十條 仲立人ハ一般又ハ或ル部類ノ商取引ノ爲メニ認可セラル、コトヲ得

仲立人ハ仲立營業外ノ商業ヲ爲スコトヲ得然レモ其地ノ情況ニ因リテ二箇以上ノ仲立營業部類ヲ一人ニ兼テシムルコト

及ヒ仲立人ヲシテ取引所ニ於テ其營業ヲ爲サシムルヲ官  
ヨリ又ハ取引所定款ニ於テ許スヲ得

第四百二十一條 何人ニテモ年齢滿二十五歳ニ達シ少ナクモ

五年間一般又ハ其部類ノ商ニ從事シ且聲聞ニ瑕瑾ナキ者ニ

限リ仲立人ト爲ルヲ得但破産シタル者ハ復權ヲ得タル後

ニ非サレハ仲立人ト爲ルヲ得ス

第四百二十二條 仲立人ハ其業務ヲ始ムル以前ニ保證金ヲ差

出ス可キモノトス其額ハ各地及ヒ各商部類并ニ二箇以上ノ

仲立營業部類ヲ兼テシムル場合ノ爲メ省令ヲ以テ之ヲ定ム

然レモ二萬圓ヲ超ユルヲ許サス

第四百二十三條 仲立人ノ員數ハ各地ノ爲メ及ヒ其地ノ各商

部類ノ爲メ其需用ニ應シテ之ヲ定ムルヲ得

第四百二十四條 仲立人ハ其資格アル者ニ其營業ヲ讓渡シ又

ハ相續セシムルヲ得ルト雖モ其承繼人ハ官ノ認可ヲ受ケ

及ヒ保證金ヲ差出シタル後ニ非サレハ其營業ヲ行フヲ得

第四百二十五條 一地ノ仲立人又ハ一地ニ於ケル或ル商部類

ノ仲立人十人以上アルキハ其仲立人ハ官ノ認可ヲ受ケタル

後組合ヲ成スヲ得此場合ニ於テハ其組合中ヨリ一个年ノ

任期ニテ少ナクモ三人ノ取締役ヲ選舉ス可シ總テ其地ノ仲

立人ハ此組合ニ加入スルノ權利及ヒ義務アリ

第四百二十六條 仲立人及ヒ仲立人組合ハ共通計算ヲ以テ仲

立營業ヲ爲スヲ許サス之ニ背クキハ仲立人ニ在テハ其營

業ヲ禁止シ組合ニ在テハ其組合ヲ解散シ尙ホ其組合員ノ營

業ヲ禁止ス然レモ仲立人組合ハ其組合定款ニ從ヒテ各組合

員ノ爲メニ共同保證ヲ引受クルヲ得

第四百二十七條 仲立人組合ハ多數決ヲ以テ其營業ヲ行フ爲  
メノ定款ヲ設ク可シ此定款ハ商業會議所及ヒ取引所又ハ其  
一ノ存スル地ニ在テハ其承諾ヲ經且官ノ認可ヲ受クルヲ  
要ス各組合員ハ其定款ヲ遵守スルノ義務アリ  
前項ノ規定ハ定款變更ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス  
定款ハ法律、命令、商慣習及ヒ其地ノ取引所定款ニ背戾スル  
ヲ得ス  
第四百四十八條ノ規定ハ取締役ノ決議ニ付テモ之ヲ適用ス  
第四百二十八條 取締役ハ左ニ掲クル權利及ヒ義務アリ  
第一 仲立人カ其職務範圍内ニ屬スル取引ニ於テ法律、命  
令及ヒ仲立人組合定款ヲ遵守スルヤヲ監視スル  
第二 組合員中ニ違犯者アルキハ之ヲ懲責シ且必要ノ場  
合ニ於テハ其處罰及ヒ除名ヲ申立ツル

第三 取引所ナキ地ニ於テハ各組合員ヨリ提出スル覺書  
ニ基キ少ナクモ一週日毎ニ爲替相場及ヒ貨幣、商品并ニ  
有價證券ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公告スルヲ全ク  
第四 其定メタル相場ヲ絶ヘス記入スル爲メ帳簿ヲ備ヘ  
且求ニ應シテ公定ノ相場書ヲ交付スル  
第五 裁判所又ハ官廳ノ求ニ應シテ商ノ情况ヲ開陳シ又  
慣習ニ付キ意見ヲ陳述スル  
第六 仲立人ノ認可及ヒ員數ノ増減ニ付キ意見ヲ陳述ス  
ル  
第七 總テ組合内部ノ事務ヲ管理スル  
第四百二十九條 仲立人ハ其媒介スル取引ニ於テ雙方ヲ代理  
スルノ權利アリ  
仲立人ハ正當ノ理由アルニ非サレハ何人ノ委任タリヒ之ヲ

拒ムコトヲ得ス

第四百三十條 仲立人ハ自己又ハ他人ノ計算ノ爲メニスルモ自己又ハ他人ノ名義ヲ以テスルモ自己ニ直接又ハ間接ノ利害アル取引ヲ爲スコトヲ得ス  
仲立人ハ他人ノ爲メニ支拂若クハ保證其他ノ擔保ヲ受ケ又ハ爲シ又ハ他人ノ爲メニ商品ニ對シテ前貸ヲ爲スコトヲ得ス  
仲立人ハ代務人又ハ商業使用人タルノ資格ヲ以テ他人ノ用ヲ辨スルコトヲ得ス  
前三項ノ規定ヲ犯シテ仲立人ノ爲シタル取引ハ總テ無効トス  
第四百三十一條 仲立人ハ委任者ニ對シテ詳悉、完全及ヒ正實ニ必要ノ申告ヲ爲スコシ其申告ニ付キ殊ニ其媒介シタル取引ニ關シテハ委任者ノ人違ニ非サルコト無能力者ニ非サルコト

及ヒ署名捺印ノ真正ナルコトニ付キ責任アルモノトス又其地ノ顯著ナル商人ニ於テ人違ニ非サルコトヲ擔保スルニ非サレハ面識ナキ人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ取引ヲ媒介スルコトヲ得ス  
第四百三十二條 仲立人ハ委任者ノ求ニ應シテ事ヲ秘スルノ義務アリ  
第四百三十三條 仲立人ハ其媒介シタル取引ニ付キ自ラ其商品ノ存在、品位及ヒ買主ノ支拂資力ヲ確認シ且其受取りタル雛形及ヒ見本ニ相當ノ記號ヲ附シ其取引ノ結了スルマテ之ヲ貯藏スコシ  
第四百三十四條 仲立人ハ爲替證券其他ノ有價證券ノ取引ニ付キ委任ヲ受クルキハ賣主ニ對シテハ證券ノ交付ヲ求メ買主ニ對シテハ價額ノ少ナクモ百分ノ二十ノ前拂ヲ求ム可キ

モノトス

第四百三十五條 仲立人ハ當事者ノ明言アルキニ限り取引ヲ取結フノ權アリ匿名委任者ノ場合ニ於テハ取引取結ノ權限ニハ辨濟又ハ報償ヲ受クルノ權ヲ併セテ與ヘタルモノト看做ス

第四百三十六條 仲立人ハ違法若クハ制禁ノ取引又ハ空取引ヲ媒介スルヲ得ス

第四百三十七條 仲立人ハ自ラ業務ヲ營ム可キモノニシテ殊ニ取引取結ニ付テハ使用人又ハ代理人ヲ用ユルヲ得ス

第四百三十八條 仲立人ハ其擔任義務ノ違背其他ノ過失ニ付キ委任者ニ對シテ損害賠償ヲ爲スノ責ニ任ス

第四百三十九條 匿名委任者ノ爲メ取結ヒタル取引ニ付テハ仲立人獨リ直接ニ請求ヲ受ク

第四百四十條 仲立人ハ其取結ヒタル取引ノ要旨ヲ特設ノ日記帳ニ日日記入シ自ラ其記入ヲ日日閉鎖シテ之ニ署名捺印シ且遅クモ翌日中ニ關係アル部分ノ謄本ニ署名捺印シテ之ヲ委任者雙方ニ交付ス可シ但其謄本ハ指圖式ト爲スヲ得

其一方ニ於テ右謄本ノ旨趣ニ對シテ異議ヲ唱ヘ又ハ承諾スルヲ肯セサルキハ仲立人直ニ之ヲ他ノ一方ニ通知ス可シ

但他ノ一方カ匿名委任者ニ非サルキニ限ル

第四百四十一條 死亡シ又ハ退職シタル仲立人ノ日記帳ハ仲立人組合ノ取締役ニ於テ其組合ナキ地ニ在テハ裁判所ニ於テ之ヲ預リ置ク可シ

第四百四十二條 仲立人ノ手数料ハ別段ノ定例又ハ慣習ノ存スル場合ヲ除ク外其取引結了ノ後ニ非サレハ之ヲ受クル

ヲ得ス

手数料ノ額ハ仲立人組合定款又ハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム  
 手数料ハ別段ノ契約又ハ慣習ナキニ限り委任者雙方ヨリ  
 各其半額ヲ拂フヲ通例トス  
 手数料ハ仲立人ノ過失ニ因リテ其契約ヲ相當ニ履行セサル  
 キハ之ヲ拂フヲ要セス  
 第四百四十三條 仲立人カ適法ノ手数料ヲ超過シタル報酬又  
 ハ惠與ヲ委任者ノ一方ヨリ受ケタルキハ他ノ一方ニ於テ其  
 取引ヲ無効ナリト陳述スルヲ得  
 第四百四十四條 取引所仲立人  
 第四百四十五條 取引所ハ取引所定款ノ規定ニ從ヒテ商取引  
 ヲ爲ス所ノ公設場トス  
 第四百四十六條 取引所ハ其地又ハ其一區域  
 内ノ商人ニ於テ一般又ハ或ル部類ノ商取引ノ爲メ官ノ認可

第四百四十六條 取引所ハ取引場ヲ定メ定款ヲ設ケ及ヒ取締  
 役ヲ置ク可シ此諸件及ヒ其變更ニ付テハ官ノ認可ヲ受クル  
 ヲ要ス  
 第四百四十七條 取引所ノ事務及ヒ章程ハ特別ノ法律命令ア  
 ルニ非サレハ定款ヲ以テ之ヲ定ム若シ其定ナキキハ取締役  
 其定款ニ準據シテ之ヲ定ム  
 第四百四十八條 取締役ノ決議ヲ不當又ハ有害ナリトシテ異  
 議ヲ述フル者アルキハ農商務省ニ於テ雙方ヲ審訊シタル後  
 其理由ヲ示シテ之ヲ裁決ス  
 第四百四十九條 或ル商品ヲ小賣ノ外ハ取引所ニ非サレハ商  
 人  
 此規定ニ違フ者ハ二圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス  
第四百五十條 取引所ニ於テハ其賣買ヲ許サレタル商品ノ倉  
庫ヲ設置シ及ヒ指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルヲ得取締役  
又ハ取引所仲立人ハ其倉荷證書ニ對シテ前貸ヲ爲シ又ハ之  
ヲ買受クルヲ得ス  
第四百五十一條 取引所仲立人ハ特ニ取引所仲立人トシテ官  
ノ認可ヲ受ケ且保證金ヲ差出シタル後取締役ヨリ其職ニ充  
テラル、モノトス其仲立人ハ取引所ノ定款其他ノ章程ヲ遵  
守スルヲ誓フ可シ  
第四百五十二條 仲立人組合ノ存在スル地ニ在テハ其組合取  
締役ノ中少ナクモ一人ヲ取引所取締役ニ選ム可シ  
第四百五十三條 取引所ハ其取引ノ範圍ニ應スル員數ノ仲立  
人ヲ置ク可シ

第四百五十四條 本法中仲立人ニ係ル規定ハ取引所仲立人モ  
之ヲ遵守ス可シ  
第四百五十五條 仲立人、取引所仲立人及ヒ取引所ハ大藏省及  
ヒ農商務省ノ監督ヲ受ク  
第五節 仲買人  
第四百五十六條 仲買人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ  
計算ヲ以テ商業ヲ營ムノ商人タリ  
第四百五十七條 仲買人ノ第三者ト取結ヒタル取引ノ効力ハ  
第三者ニ對シテハ委任者ノ委任又ハ承諾ニ關係セス  
第四百五十八條 仲買人ハ委任者ノ與ヘタル委任ヲ遵守スル  
ノ義務アリ其委任ノ踰越其他ノ過失ニ因リテ加ヘタル損害  
ニ付テハ委任者ニ對シテ其責ニ任ス  
第四百五十九條 仲買人事情避ク可カラサリシト委任者ノ

爲メ更ニ大ナル損害ヲ防止シタルトテ證明スルハ委任  
踰越ノ責ヲ免カル但委任者カ明示又ハ默示ニテ其委任ヲ必  
行ス可キヲ指定シタルハ此限ニ在ラス

第四百六十條 仲買人ハ委任踰越ニ因リテ委任者ノ損失トナ  
リタル物價ノ差額其他計算上ノ差額ヲ自己ニ負擔スルヲ以  
テ委任踰越ノ責ヲ免カル、ヲ得ス

第四百六十一條 仲買人ハ委任ニ背クニ因リテ委任者ノ利益  
ト爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ差額ヲ自己ノ有ニ歸ス  
ルヲ得ス

第四百六十二條 第四百九條ノ規定ハ仲買人ニモ之ヲ適用ス  
殊ニ仲買人ハ取引施行ノ前後ヲ問ハス常ニ遲延ナク委任者  
ニ必要ノ報知ヲ爲シ且運送、貯藏、保險、賣買其他總テ商業上ノ  
作用ニ付キ十分ニ所有者ノ利益ヲ謀ル可シ

第四百六十三條 仲買人ハ必要ノ前貸金ヲ遲滞ナク交付セラ  
レ又ハ取引ヨリ生ス可キ自己ノ請求ニ對スル引當ヲ有シ若  
クハ擔保ヲ得タルハ總テ其營業ニ屬スル委任ヲ引受クル  
ノ義務アリ

第四百六十四條 仲買人委任ノ引受ヲ肯セサルハ直ニ之  
ヲ委任者ニ通知シ且寄託ノ貨物ヲ適當ニ保存スルノ義務ア  
リ若シ其通知ヲ爲サルハ委任施行ノ責ニ任ス

第四百六十五條 仲買人ハ別段ノ契約ナキハ委任者ニ又ハ  
委任者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前貸ヲ爲スノ義務ナシ然レモ  
委任者ノ承諾ヲ得タルハ又ハ其承諾ナキモ商慣習アルハ  
委任者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前貸ヲ爲シ又ハ信用ヲ與フル  
ノ權利アリ

第四百六十六條 仲買人ハ第四百十五條ノ規定ニ從ヒ第三者



ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ對シテ責ニ任ス然レモ其責任ハ  
第三者カ責ニ任ス可キマテテ以テ限トス  
第四百六十七條 委任者ハ仲買人ニ與ヘタル委任ノ未タ施行  
セサルモノニ限り何時ニテモ之ヲ廢止シ又ハ變更スルコトヲ  
得  
仲買人ハ第四百六十三條ノ規定ニ依リテ委任ノ引受ヲ拒ミ  
得ルキニ限り解約ヲ申込ムノ權利アリ但正當ニ其申込ヲ爲  
シタル後ト雖モ惡意又ハ怠慢ニ付テハ委任者ニ對シテ仍ホ  
責ニ任ス  
第四百六十八條 仲買委任ノ關係ハ一方ノ破産ニ因リテ終ル  
又死亡其他委任ヲ施行スル能ハサルノ事由ニ因リテハ此事  
由ニ基キテ其關係ヲ解クコトヲ一方ヨリ明言シタルキニ限り  
終ルモノトス

第四百六十九條 仲買人ハ仲買取引ノ外自己ノ計算ヲ以テ同  
種類又ハ他種類ノ取引ヲモ爲スノ權利アリ  
前項ノ商人ニシテ仲買取引ヲ常業ト爲サ、ル者ニハ第四百  
六十三條ノ規定ヲ適用セス  
第四百七十條 仲買人ハ委任者ニ於テ反對ノ明言ヲ爲サ、ル  
キハ其受ケタル委任ヲ買主、賣主又ハ其他ノ者トシテ自己ノ  
計算ヲ以テ施行スルコトヲ得然レモ委任者ニ對スル自己ノ權  
利及ヒ義務ハ變更スルコト無シ  
第四百七十一條 前條ノ場合ニ於テハ仲買人ヨリ委任引受ノ  
通知ヲ委任者ニ發送シタル時直ニ其委任ヲ施行シタルモ  
ノト看做ス  
第四百七十二條 仲買人ハ委任施行ノ後之ヲ委任者ニ通知シ  
其取引ノ賣得金ヨリ自己ノ取分ヲ引去リテ之ヲ委任者ニ支

拂ヒ又ハ其計算ニ立ツ可シ

第四百七十三條 委任者ノ計算ヲ以テ買入レ又ハ引受ケタル商品ハ委任ニ他ノ定ナキキハ仲買人之ヲ委任者ノ處分ニ付シ其處分アルマテ適當ニ貯藏ス可シ其商品ノ運送ヲ周旋スルノ義務アルハ明示ノ委任アルキニ限ル但自己ノ留置權ハ此カ爲メニ妨ケラル、ヲ無シ

第四百七十四條 仲買人ノ取引ニシテ委任者ノ承認スル義務ナキモノハ其承認ナキニ拘ハラズ仲買人ノ計算ニ於テハ有効トス然レモ第三百八十一條ノ規定ハ此カ爲メニ妨ケラル、ヲ無シ又仲買人ハ委任者ニ總テノ損害ヲ賠償ス可シ  
第四百七十五條 仲買取引ヨリ生シタル債權及ヒ債務ハ仲買人ノ直接ノ債權及ヒ債務タルヲ通例トス然レモ仲買人其債權ヲ委任者ニ讓渡シ又ハ支拂資力ヲ失ヒタルモハ委任者直

ナニ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルヲ得

第四百七十六條 仲買人ハ委任者ニ爲シタル前貸ノ償還ノ外

尙ホ左ノ諸件ヲ求ムルノ權利アリ

第一 必要又ハ有益ニシテ商慣習ニ適スルモノニ限り現ニ支拂ヒタル費用及ヒ立替金ノ辨償

第二 各地慣習又ハ契約上ノ仲買手数料

第三 仲買人ニ於テ資力保證ヲ負擔シタルキハ其保證料

仲買人ハ右ノ債權ニ付キ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒテ留置權ヲ有ス

第四百七十七條 仲買人ノ過失ニ非スシテ委任ヲ施行セザリシキト雖モ仲買人ハ慣習アル地ニ限り仲買手数料ヲ求ムルヲ得但其額ハ通常手数料ノ半額ヲ超ユルヲ得ス

第四百七十八條 仲買人ハ仲買ノ爲メ取扱フ商品ニ自己ノ商

標又ハ商號ヲ附スルヲ得

然レモ其商品ニ附シタル他ノ商人又ハ製造人ノ商標又ハ製造標ヲ其承諾ヲ得シテ變更シ又ハ除去スルヲ得ス又他ノ商人又ハ製造人ヨリ出テタル仲買商品ニ出所ノ區別ヲ表セシテ自己ノ商標又ハ商號ヲ附スルヲ得ス

第四百七十九條 仲買人或ル見本又ハ雛形ニ從ヒテ委任ヲ施行ス可キハ反對ノ明約ナキニ限り正當ノ所有者又ハ製出者ニ依ルニ非サレハ其委任ヲ施行スルヲ得ス之ニ違フハ委任者ハ其商品カ見本又ハ雛形ニ適スルト否トヲ問ハス其契約ヲ解クヲ得

第四百八十條 書籍其他器械ヲ以テ複製スル學藝技術上ノ製出物ノ發行引受ハ仲買營業ノ原則ニ依ル可シ

第六節 運送取扱人

第四百八十一條 運送取扱人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ計算ヲ以テ商品其他ノ物ノ運送取扱ヲ營業トスル商人

運送取扱人ハ其營業ノ外亦自己ノ計算又ハ他人ノ計算ヲ以テ他ノ商取引ヲ爲スヲ得

第四百八十二條 運送取扱人ハ運送賃ヲ約定シタルト否トヲ問ハス又其引受ケタル運送ヲ自己ノ運送具賃借ノ運送具又ハ他人ノ運送具ヲ以テ施行スルト施行セシムルトヲ問ハス仲買人及ヒ運送人ト同一ノ責ニ任ス

第四百八十三條 運送取扱人ハ別段ノ契約ヲ爲サ、ルモ又ハ直接ニ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ其運送ヲ遞次施行スル總テノ中間運送取扱人代辨人運送人其他ノ人ニ代ハリテ運送人タルノ責ニ任ス

第四百八十四條 運送取扱人ハ運送狀ヲ發行ス可シ其運送狀

ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヲ要ス

第一 日附運送取扱人ノ氏名及ヒ住所

第二 運送人ノ氏名及ヒ住所

第三 運送品ノ種類及ヒ重量

第四 行李アルキハ其箇數性質及ヒ記號

第五 約定シタル引渡ノ地及ヒ時

第六 運送賃

其他運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヲ得

第一 運送品ノ價額

第二 名宛人ノ氏名

第三 引渡ヲ運延シタル場合ニ於テ支拂フ可キ損害賠償

ノ額

第四百八十五條 運送狀ハ反對ヲ明記セサルキハ指圖式トス

又無記名式ニテ之ヲ發行スルヲ得

第四百八十六條 運送品ノ差出人ハ運送狀一通又ハ數通ノ交

付ヲ求ムルヲ得

第四百八十七條 運送取扱人ハ其取結ヒタル總テノ運送取扱

契約ヲ特設ノ帳簿ニ日々記入シ且其帳簿ヲ日々閉鎖シテ之

ニ署名捺印ス可シ各運送狀ハ其帳簿ノ記入ト同文ナルヲ得

要ス

第四百八十八條 運送狀ノ記入ニシテ運送取扱契約又ハ法律、

命令ニ背戾スルモノハ無効トス

第四百八十九條 運送取扱人ハ左ニ掲クルモノヲ求ムルヲ得

第一 運送取扱人ヨリ運送品ニ對シテ爲シタル前貸及ヒ

其立替へタル運送賃ノ償還

第二 運送取扱人ヨリ運送品ノ爲メニ支拂ヒタル必要又ハ有益ノ費用及ヒ立替金ノ辨償

第三 各地慣習又ハ契約上ノ運送取扱手数料但運送賃額ヲ定メタル場合ニ於テハ其手数料ヲ明約シタルキニ限

運送取扱人ハ右ノ債權ニ付テハ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒ運送品ニ對シテ留置權ヲ有ス

第四百九十條 運送取扱人ノ債權ハ特約アルニ非サレハ到達地ニ於テ運送品ヲ引渡スノ際運送取扱人其受次人又ハ約定シタル運送ノ全部若クハ一分ヲ施行シタル者ヨリ始メテ之

ヲ主張スルコトヲ得

第四百九十一條 運送取扱人ノ責任ニ因リテ生スル請求又ハ

抗辯ニ對シテハ運送取扱人及ヒ前條ニ掲ケタル各人ハ連帶

且無條件ニテ其責ニ任ス

第四百九十二條 本節ノ規定ハ旅客ノ運送、新聞紙、電報、印刷物其他ノ物ノ送達并ニ廣告ノ取次其他ノ送達事業ヲ營業トスル人ニモ之ヲ適用ス然レモ運送仲立人、代辨人、商事問合場及

此類ノモノニハ之ヲ適用セス

第七節 運送人

第四百九十三條 運送人ハ陸上又ハ國內水上ニ於テ商品其他ノ物ノ運送ヲ營業トスル商人タリ

運送人ハ運送品ヲ引受ケタル時ヨリ其運送品ノ喪失、毀損及ヒ引渡ノ遅延ニ付キ責ニ任ス但此事實カ差出人ノ過失、運送品ノ性質又ハ不可抗力ニ因リテ生シタルキハ此限ニ在ラス

第四百九十四條 運送品ノ引渡ハ約定ノ期間ニ之ヲ爲サ

キ又期間ノ約定ナキ場合ニ於テハ運送ヲ施行スル爲メ通例  
必要ナル期間ニ之ヲ爲サ、ルキハ運延シタルモノトス右ノ  
期間ハ孰レノ場合ニ於テモ運送狀ノ日附ヨリ若シ其日附ナ  
キキハ運送品ヲ引受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス  
第四百九十五條 運送品ノ引渡ヲ運延シタルニ付テノ賠償額  
ハ運送賃ノ三分一トス但此額カ損害ノ割合ニ應セサルキ又  
ハ別段ノ額ヲ約定シタルキハ此限ニ在ラス  
第四百九十六條 運送品カ運延又ハ一分ノ喪失若クハ毀損ニ  
因リテ其儘賣却シ若クハ使用シ得ヘカラサルニ至リタルキ  
又ハ少ナクモ其價額ノ四分三ヲ失ヒタルキハ其運送品ヲ運  
送人ニ委棄シテ全價額ノ賠償ヲ求ムルヲ得  
第四百九十七條 運送品ノ各部又ハ各箇ノ喪失若クハ毀損ノ  
場合ニ於テ毀損セサル各部又ハ各箇ヲ其儘使用シ若クハ賣

却シ得ヘカラサルキハ其喪失若クハ毀損ニ因リテ運送品全  
部ニ付キ減シタル價額ヲ賠償ス可シ然レモ其毀損セサル各  
部又ハ各箇ノ價額カ運送品全部ノ價額ノ四分一ニ超エサル  
キハ前條ノ規定ヲ適用ス  
第四百九十八條 賠償額ハ商品ニ在テハ引渡地ノ商價額ニ從  
ヒ其他ノ運送品ニ在テハ引渡地ノ普通價額ニ從ヒ第三百二  
十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高  
キ價額ヲ掲ケサルモノニ限ル  
第四百九十九條 價額ニ付キ又ハ損傷ノ範圍ニ付キ當事者間  
ニ争ノ生スルキハ鑑定人ノ鑑定ニ因リテ之ヲ定ム其鑑定人  
ハ當事者之ヲ任シ若シ當事者同意スルヲ得サルキハ其申  
立ニ因リテ裁判所之ヲ任ス  
第五百條 金銀貨幣、貴金屬、寶石、金銀物、有價證券、證書類其他ノ

高價物ニ在テハ其賠償ハ運送委託ノ際其物ノ性質及ヒ價額ヲ明告シ且適當ニ廣告シタル特別運送賃表ニ依リテ高額の運送賃ヲ承諾シタルキニ限り其實價ニ從ヒテ之ヲ求ムルヲ得

第五百一條 前條ニ掲ケサル運送品ニ在テハ運送人ハ豫メ適當ニ廣告シタル運送賃表ヲ以テ各行李又ハ重量ニ付キ或ル金額マテニ限り第四百九十八條ノ價額賠償ヲ辨済ス可キ旨ヲ約定スルヲ得

第五百二條 前數條ニ掲ケタル賠償額ハ至當ノ理由ニ基キタル明示ノ契約ニ依ルニ非サレハ之ヲ増減スルヲ得ス

第五百三條 運送人ハ甚シキ怠慢又ハ惡意ニ因リ總テノ場合ニ於テ第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ規定ニ從ヒテ十分ナル損害賠償ノ義務ヲ負フ

第五百四條 運送人ハ使用人其他自己ニ引受ケタル運送ヲ爲スニ當リ使用スル者ニ代ハリテ責任ヲ負フ

第五百五條 或ル運送人ニ於テ引受ケタル運送ヲ之ニ次ク他人運送人ノ爲スルハ其各運送人ハ連帶シテ責任ノ全部ヲ負擔ス

第五百六條 運送人ハ運送ノ爲メ委託セラレタル貨物ニ付テハ差出人又ハ受取人ノ代辨人ト看做サレ差出人又ハ受取人ニ對シテ其貨物ノ保存及ヒ適當ナル運送ノ爲メニ必要ナル注意ヲ爲スノ責任ヲ負フ

第五百七條 第四百八十三條乃至第四百九十一條ノ規定ハ運送人ニモ之ヲ適用ス

第五百八條 差出人又ハ受取人ハ運送前ハ勿論運送中ト雖モ其約定シタル運送ノ施行ヲ止メ又ハ變スルノ權利アリ然レ

凡運送人ニ屬スル求償權ハ此カ爲メニ妨ケラル、ト無シ  
 第五百九條 不可抗力其他ノ意外ノ事ニ因リテ約束シタル運  
 送ノ着手又ハ續行ヲ妨ケラレ又ハ之ヲ爲スヲ得ス若クハ  
 其危険ナルニ至リタルハ雙方ニ於テ前條ト同一ノ權利ヲ  
 有ス然レモ此場合ニ於テ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合  
 ニ應スル運送賃ノ支拂及ヒ費用又ハ立替金ノ辨償ニ限り之  
 ヲ請求スルヲ得  
 第五百十條 約定ノ運送ヲ爲サス又ハ中止シタルトカ運送人  
 ノ過失又ハ行爲ニ出ツル場合ニ於テ其運送人カ他ノ適當ナ  
 ル運送人ヲ任セサルハ差出人又ハ受取人ハ契約ヲ解除シ  
 又ハ賠償ヲ求ムルヲ得  
 第五百十一條 運送人カ運送品又ハ運送狀ヲ最初ニ定メタル  
 受取人ニ交付セサル間ハ差出人ハ運送前ト運送中トヲ問ハ

ス其運送品ニ付キ運送狀ニ掲ケタルモノニ異ナレル處分ヲ  
 爲スヲ得  
 第五百十二條 運送人ハ其求メラレタル運送カ特別ナル危険  
 ヲ免カル、トヲ得サルハ又ハ其平常爲ス運送營業ニ屬セサ  
 ルル外ハ適法ノ理由アルニ非サレハ其運送委託ノ引受ヲ  
 拒ミ又ハ其引受ヲ困難ナル條件ニ繋ラシムルヲ得ス殊ニ  
 非常ノ情况アルハ外ハ運送具又ハ運送設備ノ不完全ナル  
 ヲ以テ口實ト爲スヲ得ス  
 第五百十三條 運送狀又ハ其他ニ指名シタル受取人ハ自己ノ  
 名ヲ以テスルト他人ノ名ヲ以テスルトヲ問ハス到達地ニ於  
 テ運送狀ニ從ヒ運送人ニ對シテ運送契約ヨリ生スル債權ヲ  
 主張スルヲ得  
 第五百十四條 運送狀又ハ其他ニ指名シタル受取人カ運送品



ノ引受若クハ差出人ノ附シタル條件ノ履行ヲ拒ムルハ又ハ運送賃其他運送人ノ正當ナル債權ノ支拂ヲ爲サルルキ又ハ其受取人ヲ捜出スルヲ得サルルキハ運送人ハ運送品ヲ公ノ倉庫ニ寄託シ又ハ裁判所ノ命令ニ依リテ他人ニ寄託シ及ヒ第三百九十二條ノ規定ニ從ヒ其總債權ノ額ニ滿ツルマテ之ヲ賣却スルヲ得

第五百十五條 受取人留保ヲ爲サシテ運送品ヲ受取り及ヒ運送人ニ支拂ヲ爲シタルルキハ運送人ニ對スル總テノ請求權ハ消滅ス

第五百十六條 喪失、毀損又ハ遅延ノ爲メ運送人ニ對スル總テノ訴及ヒ抗辯ノ權ハ運送品ノ引渡ヲ爲シタル日又全部喪失ノ場合ニ於テハ其引渡ヲ爲ス可カリシ日ヨリ一个年ヲ以テ時効ニ罹ル

第五百第八節 旅客運送

第五百十七條 陸上又ハ國內水上ニ於テ通例運送賃ヲ受ケテ旅客ヲ運送スル者ハ其運送ヲ爲スニ當リ旅客ノ爲メ至重ノ注意ヲ爲サルニ因リテ之ニ加ヘタル身體上ノ傷害ニ付キ賠償ヲ爲スノ義務アリ但爭アル場合ニ於テハ自己ノ過失ニ非サルヲ證明スルヲ要ス

第五百十八條 損害賠償ハ傷害ヲ被フリタル者ニ生セシメタル治療費及ヒ特別ノ給養費ノ賠償ト慰藉金トヲ包括ス其慰藉金ハ災害ノ結果ノ輕重、長短及ヒ罹災者ノ所得ノ關係ヲ斟酌シテ之ヲ定メ其協議調ハサルルキハ裁判所ノ判決ヲ以テ之ヲ定ム

第五百十九條 災害ノ爲メ死亡シ又ハ永久ノ癱疾、不具若クハ所得無能力ト爲リタルルキハ慰藉金ノ額ハ尙ホ罹災者ノ家族

ノ生計ノ需用ヲモ斟酌シテ之ヲ定ム  
第五百二十條 旅用行李ニ付テハ旅客カ携帯スルト否ト又別  
段ノ報酬ヲ支拂フト否トヲ問ハス之ヲ旅客運送人ニ交付シ  
且必要ノ場合ニ於テ其性質及ヒ價額ヲ明告シタルキハ旅客  
運送人ハ運送人ト同一ノ責ニ任ス  
第五百二十一條 手荷物ニ付テハ旅客運送人ハ過失ノ責ノ自  
己ニ歸スル場合ニシテ其手荷物カ現實且相當ノ旅行需用ヲ  
充タスニ必要ナルモノニ限り賠償ノ責ニ任ス  
第五百二十二條 旅用行李ハ別段ノ委託ナキキハ旅行ノ終ニ  
於テ之ヲ旅客ニ交付シ若シ交付スルヲ得サルキハ三日間  
保藏ス可シ此期間ノ滿了後ハ旅客運送人ノ責任ハ第三百四  
條ノ規定ニ從フ  
第五百二十三條 前諸條ノ外ハ旅客及ヒ行李ノ運送ニ付キ前

節ノ規定ヲ適用ス其旅客ノ衣服又ハ裝具ニ對シテハ留置權  
ヲ行フヲ得ス  
第五百二十四條 旅客及ヒ行李ニ付テノ責任ハ運送賃ヲ前拂  
ニ爲シタルト否トニ拘ハラズ又之ヲ支拂フトヲ要セサル場  
合ト雖モ仍ホ存スルモノトス

### 第九章 賣買

#### 第一節 賣買契約

第五百二十五條 契約取結ノ時現ニ存在シ且賣主ニ處分權ノ  
屬スル物ニ非サレハ賣買契約ノ目的物タルヲ得ス  
第五百二十六條 他人ノ物ト雖モ其占有ヲ正當ノ方法ヲ以テ  
取得シタル者ハ所有權移轉ノ時ニ於テ買主善意ナルキハ之  
ヲ賣買スルヲ得但無記名證券ヲ除クノ外盜品又ハ紛失品  
ハ此限ニ在ラス

第五百二十七條 契約取結ノ時現ニ存在スルモ天然ノ原因ニ由リテ未ダ引渡ス能ハサル物ノ賣買契約ハ其物カ引渡スヲ得ヘキモノト爲ラハトノ條件ヲ以テスル契約タリ但當事者カ他ノ意思ヲ有スルキハ此限ニ在ラス

第五百二十八條 契約取結ノ時既ニ存在セサル物ノ賣買契約ハ雙方孰レモ此事實ヲ知ラス且其存在ノ確實ナラサルヲ認メテ之ヲ取結ヒタルキハ有効トス

第五百二十九條 賣主カ買戻ヲ約定スル賣買契約ハ差額取引又ハ違法ノ高利取引其他ノ不法ノ取引ヲ目的トシテ之ヲ取結ヒタルキハ無効トス

第五百三十條 初ヨリ履行ノ意思ナクシテ取結ヒ又ハ取得若クハ讓渡ヲ禁セラレタル物ニ付キ取結ヒタル賣買契約ハ無効トス

第五百三十一條 買主ハ賣買契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ツ量定シ若クハ分割スルヲ要スルキハ其量定分割若クハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失若クハ毀損ノ危険ヲ負擔ス二人以上ニ屬スル共有物ノ持分ヲ賣渡スニ付テハ豫メ其量定若クハ分割ヲ爲スヲ要セス

第五百三十二條 點檢又ハ嘗試ノ上ニテ爲ス賣買契約ハ買主カ其物ヲ承諾スレハトノ條件ヲ以テ之ヲ取結ヒタリト看做ス

買主カ契約若クハ商慣習ニ因リテ定マリタル期間又ハ點檢若クハ嘗試ノ爲メ必要ナル期間ニ其承諾ヲ述ヘサルキハ條件ハ成就セザリシモノト看做ス之ニ反シテ點檢又ハ嘗試ノ爲メ賣買物ヲ買主ニ引渡シタル場合ニ於テ買主カ右期間ノ

満了マテニ承諾ヲ述ヘス又其物ヲ賣主ニ還付セサルキハ條  
件ハ成就シタルモノト看做ス  
第五百三十三條 商標、見本、雛形又ハ試品ヲ以テ爲ス賣買契約  
ハ無條件ノモノニシテ此契約ニ依リテ賣主ハ物カ商標、見本、  
雛形又ハ試品ニ適合ス可ク且別段ノ契約アルニ非サレハ其  
物カ商標、見本、雛形又ハ試品ノ所有者又ハ製出者ニ由來ス可  
キノ義務ヲ負フ  
試品ノミノ賣買契約ハ無條件ノモノニシテ此契約ニ依リテ  
雙方ハ前條ニ掲ケタル義務及ヒ其他ノ義務ヲ負フ無シ  
第五百三十四條 物ヲ點檢ノ後無條件ニテ賣買シタルキハ賣  
主ハ自己ノ詐欺又ハ買主ノ重要ナル錯誤アル場合ノ外ハ其  
擔保ヲ引受ケ又ハ買主ニ隱蔽シタル欠缺若クハ瑕疵ニ付テ  
賣主ニ責任ヲ負フ買主ハ賣買契約ノ取消ニ因リ又其物ヲ買取ル

買主ハ欠缺若クハ瑕疵ノ些少ナルキ又ハ賣主ニ過失ナキキ  
ハ代價ノ相當ナル減少ノミヲ求ムルヲ得  
第五百三十五條 商品及ヒ代價ヲ明細ニ記載シテ見本、雛形、試  
品、商品目錄其他ノ取引上ノ通告書ヲ指定セル人ニ送付シタ  
ルキハ其送付ハ羈束セラル、提供ト看做ス但送付者カ其提  
供ヲ變更スルノ權利ヲ留保シタルキハ此限ニ在ラス  
第五百三十六條 契約取結ノ後直チニ賣主ハ物ヲ引渡し及ヒ  
代價ヲ受取り買主ハ物ヲ受取り及ヒ代價ヲ支拂フ可キノ權  
利及ヒ義務アリ但契約又ハ商慣習ニ依リテ此義務ノ履行ノ  
爲メ或ル期間ノ存スルキハ此限ニ在ラス  
第五百三十七條 別段ノ定例、契約又ハ商慣習ナキキハ物ノ引  
渡ハ賣主ノ費用ヲ以テ之ヲ爲シ其受取、檢査及ヒ代價支拂ハ  
買主ノ費用ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百三十八條 物ノ引渡マテハ賣主ハ至重ノ注意ヲ爲サ、  
ルニ因リテ生セシメタル喪失又ハ毀損ニ付キ買主ニ對シテ  
責任ヲ負フ但買主カ受取ヲ遅延シタルキハ此限ニ在ラス  
第五百三十九條 契約取結ノ前豫メ物ヲ買主ニ引渡シタルキ  
ハ買主ハ賣主ニ對シテ前條ニ掲ケタル責任ヲ負フ  
第五百四十條 契約取結ノ時物カ第三者ノ手ニ存在スルキハ  
其第三者ハ賣主ニ引渡スト同様ニ其物ヲ買主ニ引渡スノ義  
務アリ  
第五百四十一條 代價ヲ明示ニテ定メサリシ場合ニ於テ當事  
者ノ別段ノ意思ナキハ履行ノ時及ヒ地ニ於ケル市場代價  
又取引所ニ於テ賣買スル物ニ在テハ取引所相場代價ヲ支拂  
フヲ要ス  
買主ハ別段ノ契約又ハ商慣習ナキハ物ノ引渡前ニ代價ヲ

支拂フノ義務ナシ  
第五百四十二條 買主ハ物ノ欠缺若クハ瑕疵又ハ引渡ノ遅延  
ニ付キ仲立人ヲシテ賣主ノ費用ヲ以テ故障證書ヲ作ラシメ  
之ヲ賣主ニ送付スルノ權利アリ  
第五百四十三條 別段ノ契約ナキハ賣主ハ履行ノ時及ヒ地  
ニ於テ普通ナル品質ノ商品ヲ引渡スノ義務アリ  
右ノ規定ハ壘箱其他ノ容器、外包ニシテ商品ノ引渡若クハ轉  
賣ノ用ニ供スルモノ又ハ運送ノ用ニ供スル外包ニシテ商品  
ノ形狀、性質ヲ保全スルニ必要ナルモノニモ之ヲ適用ス  
第五百四十四條 買主商品ヲ受取リタルキハ即時ニ其分量及  
ヒ品質ヲ検査シ欠缺又ハ瑕疵アラハ之ヲ賣主ニ通知スルノ  
義務アリ  
後ニ至リ發見シタル欠缺又ハ瑕疵ニ付テハ賣主カ擔保ヲ引

受ケ若クハ詐欺ヲ行ヒ又ハ買主カ商品ノ性質ニ因リ即時檢  
査ヲ爲ス能ハサリシ場合ニ於テ其發見後直ニ通知ヲ爲シ  
タルニ非サレハ買主ハ訴又ハ抗辯ヲ以テ其權利ヲ主張スル  
ヲ得ス

第五百四十五條 賣主カ契約ノ一分ノミヲ履行シタルキハ買  
主ハ其全部ヲ解除スルヲ得但當事者ノ意思ニ依リテ一分  
ノ履行ヲ爲シ得ヘキキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ代價  
ハ其爲シタル履行ノ割合ニ應シテ之ヲ支拂フヲ得  
若シ賣主カ完全ノ履行ヲ爲シタル場合ニ於テ買主カ代價ノ  
一分ノミヲ支拂ヒタルキハ買主ハ第三百二十三條ニ掲ケタ  
ル權利ヲ主張シ又ハ其支拂ヲ受ケサル部分ヲ取戻シテ之ヲ  
自己又ハ買主ノ計算ニテ賣却スルヲ得又ハ其支拂ノ額  
第五百四十六條 風袋ノ重量ハ明示ノ契約又ハ商慣習アルニ

非サレハ商品ノ重量ニ算入スルヲ得ス  
風袋ノ重量トシ又ハ損敗、毀損ノ部分トシテ買主ニ増數若ク  
ハ増量ヲ與フルヤ否及ヒ其多少ハ契約又ハ商慣習ニ從フ  
第五百四十七條 買主ヨリ物ノ欠缺又ハ瑕疵ニ付テ通知若ク  
ハ故障ヲ受ケタルキハ賣主ニ於テモ仲立人其他ノ鑑定人ヲ  
シテ其物ノ現状及ヒ品質ヲ検査セシムルヲ得

第五百四十八條 當事者又ハ其鑑定人ニ於テ協議調ハサルキ  
ハ裁判所ヨリ任スル鑑定人其物ノ現状又ハ品質ヲ査定ス  
第五百四十九條 買主カ物ノ受取ヲ拒ムキハ遅延ナク其物ヲ  
賣主ノ處分ニ付スルヲ要シ又此處分ヲ爲シ又ハ當ニ爲ス  
ヘキニ至ルマテ其貯藏ニ注意スルヲ要ス  
買主ハ賣主ノ委託アルニ非サレハ其物ヲ賣主ニ送還スルノ  
權利及ヒ義務ナシ

第五百五十條 買主ハ其拒ミタル物ノ代價ヲ既ニ支拂ヒタル  
キ又ハ其物カ損敗シ若クハ價ヲ失フニ至ル可キモノナルキ  
ハ賣主ノ計算ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得買主ノ利益ノ爲メ  
ニスル賣却ニ在テハ第三百九十二條ノ規定ヲ遵守スルコトヲ  
要ス  
第五百五十一條 買主ハ賣主ニ對シ遲クモ物ノ引渡マテニ送  
品勘定書ヲ得ント求メ又代價支拂ノ爲メ受取證書ヲ得ント  
求ムルコトヲ得  
第五百五十二條 供給契約ハ契約取結ノ時未タ現存セサル物  
又ハ賣主ニ處分權ノ屬セサル物又ハ仍ホ運送中ニ在ル物又  
ハ指圖證券、無記名證券ヲ以テ若クハ必要ナル名前書替ヲ以  
テ引渡ス可キ物ノ賣買契約タリ

第五百五十三條 供給契約ハ雙方ヲ羈束ス然レモ物ノ所有權  
及ヒ危險ハ其物ヲ引渡スニ因リ始メテ買主ニ移ル  
第五百五十四條 天然ニハ現在スト雖モ未タ人ノ威力内ニ在  
ラサル物ハ之ヲ現存セサルモノト看做ス  
第五百五十五條 買主ニ引渡スニ至ルマテ其送付ニ付キ賣主  
カ責任ヲ負フ物ハ之ヲ運送中ニ在ル物ト看做ス  
運送中ニ在ル物ヲ指圖證券、無記名證券ヲ以テ又ハ其他ノ間  
接ノ方法ヲ以テ賣渡シタルキハ賣主ハ其物ノ引渡ニ至ルマ  
テ全部ノ喪失又ハ毀損ノ危險ヲ負擔ス又買主ハ一分ノ喪失  
又ハ毀損ニ付テハ代價ノ相當ナル減少ヲ請求スルコトヲ得  
第五百五十六條 指圖證券、無記名證券等ヲ以テスル供給契約  
ノ場合ニ在テハ此證券等ニ基キテ物ヲ引渡スノ義務アル第  
三者ニ買受代價ヲ支拂フニ因リテノミ其物ヲ買主ニ引渡ス

トテ得ルハ契約又ハ商慣習アルキニ限ル  
供給契約ノ目的物ニ質權ノ存スルキハ尙ホ第三百七十七條  
ノ規定ヲ遵守スルヲ要ス  
第五百五十七條 指圖證券無記名證券等ニ基キテ引渡ス可キ  
物ノ引渡ヲ得サルキハ買主ハ供給契約ヨリ生スル權利ヲ賣  
主ニ對シテ行フヲ得但當事者ノ意思又ハ取引ノ性質ニ因  
リテ賣主カ責任ヲ免カル可キハ此限ニ在ラス  
第五百五十八條 本節ノ規定ノ外賣買契約ノ原則ハ供給契約  
ニモ之ヲ適用ス  
第三節 競賣  
第五百五十九條 他人ノ爲メ公ノ競賣ヲ爲スヲ營業トスル者  
ハ其受ケタル競賣ノ委託ヲ適法ノ理由ナクシテ拒ムヲ得  
ス

第五百六十條 取引所ニ於テ爲ス競賣ハ取引所仲立人ニ非サ  
レハ之ヲ爲スヲ得ス  
第五百六十一條 支拂資力ナキヲ又ハ惡意アルヲ付キ理由  
アル嫌疑ノ存セサル者ハ公ノ競賣ニ於テ競買スルヲ得  
第五百六十二條 競賣人ハ自己ノ爲メニ競買ヲ爲スヲ得ス  
又賣主ハ競買ヲ爲スノ權利ヲ明示シテ留保シ且詐欺ニ因リ  
テ代價ヲ昂ラシムルノ目的ナキハ限リ競買ヲ爲スヲ得  
第五百六十三條 明示ノ留保ナキハ競賣ニ付シタル物ハ其  
期日ニ於テ最高額ノ競買人ニ競落サル  
第五百六十四條 競落カ最終ノ競買人ニ歸シタルキハ競賣ノ  
各箇ノ物又ハ番號ニ付キ賣買契約ヲ取結ヒタルモノトス  
第五百六十五條 二人以上同時ニ最高ノ價額ヲ呼ビタル場合  
ニ於テ物ヲ共同シテ取得スルヲ欲セサルキハ競落ハ其者



ノ中更ニ最高價ノ競買ヲ爲ス者ニ歸ス  
第五百六十六條 最終ノ競買無効ナルキ又ハ競賣人之ヲ承諾  
セサルキハ其競落ハ之ニ次ク最高價ノ競買人ニ歸ス  
第五百六十七條 各競買人ハ競賣前ニ競賣人ヨリ公告シタル  
競賣ノ條件ニ服従ス可シ但其條件カ違法ノモノナルキハ此  
限ニ在ラス  
印刷シ又ハ其他書面ニテ定メタル條件ハ競賣人ノ口頭陳述  
ヲ以テ之ヲ變更シ又ハ廢止スルヲ得ス  
第五百六十八條 競賣人ハ競買ニ付キ及ヒ賣買契約ノ取結並  
ニ履行ニ付キ買主ノ代理ヲモ引受クルヲ得然レモ競賣ノ  
爲メ委託セラレタル物ヲ競賣スル以前ニ其物ニ對シテ賣主  
ニ前貸ヲ爲スノ權利ナシ  
第五百六十九條 競賣ノ費用ハ賣主ニ於テ之ヲ負擔スルヲ得

要ス但別段ノ契約アルキハ此限ニ在ラス  
第五百七十條 競賣人ハ契約上又ハ慣習上ノ競賣手数料ト競  
賣ニ付キ支拂ヒタル費用及ヒ立替金ニシテ競賣手数料中ニ  
包含セサルモノ、賠償トテ賣主ニ對シテ請求スルヲ得又  
競賣人ハ此債權ノ爲メ及ヒ適法ニ賣主ニ爲シタル前貸ノ爲  
メ競賣物又ハ其代價ニ付キ留置權ヲ有ス  
第五百七十一條 競賣人ハ賣主ニ對シテ怠慢、不熟練又ハ惡意ニ  
因リテ加ヘタル損害ニ付キ責任ヲ負フ  
第四節 取戻權  
第五百七十二條 賣買契約ノ取結後買主其支拂ヲ停止シ又ハ  
其取結前既ニ支拂停止ト爲リタルヲ賣主ノ知リタル場合  
ニ於テ賣主カ他ノ方法ヲ以テ十分ナル支拂又ハ擔保ヲ受ケ  
サルキハ賣主ハ買主又ハ其指圖シタル人ニ宛テタル運送中

ノ賣買物ヲ取戻スヲ得但未タ買主若クハ其代人ノ占有ニ  
移ラサルモノ又ハ買主若クハ其代人カ有効ニ轉賣シ若クハ  
質入セサルモノニ限ル

第五百七十三條 轉賣ハ後ノ買主善意ニシテ且其代價ノ相當  
及ヒ眞實ナルキニ限り有効トス若シ未タ其代價ヲ支拂ハサ  
ルキハ初ノ賣主ハ自己ノ債權ノ額ニ滿ツルマテ後ノ買主ニ  
對シテ其支拂ヲ求ムルヲ得

第五百七十四條 取戻權ハ賣主カ掛賣ヲ爲シ又ハ一分ノ支拂  
ヲ受ケ又ハ買主ト交互計算ノ關係ヲ有スルニ因リテ之ヲ失  
フヲ無シ然レモ賣主カ爲替手形ヲ振出シ又ハ爲替證券其他  
ノ信用證券ヲ買主ヨリ受取り代價全額ノ支拂ニ充テタル場  
合ニ於テ此等ノ證券ニ義務者トシテ買主若クハ其代人ノ外  
第三者ノ署名アルキハ取戻權ヲ失フ

第五百七十五條 買主ノ支拂停止ニ至ラントスルニ付キ理由  
アル嫌疑アルキ又ハ切迫ナル取引情況ノ爲メ支拂停止ヲ爲  
スノ測リ難キキハ眞ノ支拂停止ヲ爲シタルニ同シ

第五百七十六條 貨物ヲ買主ノ倉庫ニ入レ又ハ買主ノ名ヲ以  
テ倉庫ニ寄託シタルキハ運送賃、關稅其他貨物ノ負擔スル費  
用ヲ支拂ヒタルト否トヲ問ハス買主又ハ其代人ニ於テ占有  
ヲ得タリト看做ス

第五百七十七條 取戻權ハ運送ニ因リ又ハ運送ニ關シ貨物ノ  
負擔スル費用、立替金其他ノ債務殊ニ運送賃、仲買手数料、運送  
取扱手数料、關稅、保險料若クハ海損共擔金ノ支拂又ハ償還ヲ  
爲スニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

第五百七十八條 取戻權ハ貨物賣渡ノ委任ヲ受ケタル仲買人  
又ハ其代人カ既ニ貨物ヲ占有シ又ハ之ヲ第三者ニ賣リタル

キト雖モ委任者ヨリ其仲買人又ハ其代人ニ對シテ之ヲ行フ  
ヲ得貨物買受ノ委任ヲ受ケタル仲買人ヨリ其委任者ニ對  
シテモ亦同シ

第五百七十九條 取戻權ハ左ノ場合ニ於テ亦之ヲ行フヲ得

第一 爲替證券其他ノ信用證券ニ關シテハ或人カ他ノ者  
ノ債務者ニ非スシテ交互計算ノ爲メ又ハ貯藏取立若ク  
ハ保證ノ爲メ又ハ支拂ヲ爲サシメンカ爲メ之ヲ他ノ者  
ニ送り且其證券カ未タ金錢ニ交換セラレスシテ受取人  
ノ方ニ存在スル場合  
第二 金錢ニ關シテハ或人カ前號ト同一ノ目的ヲ以テ之  
ヲ他ノ者ニ送り其金錢カ未タ受取人ニ達セス又ハ達シ  
タル後其受取人之ヲ自己ノ計算ニ移サス若クハ之ニ付  
キ其他ノ處分ヲ爲サル場合至

第十章 信用

第五百八十條 消費貸借

第五百八十條 消費貸ハ債權者ヨリ又ハ債權者ノ計算ヲ以テ  
他人ヨリ債務者ニ又ハ債務者ノ計算ヲ以テ他人ニ之ヲ爲ス  
ヲ得

第五百八十一條 債務者ノ計算ヲ以テスル前貸若クハ支拂又

ハ定マリタル義務ノ引受ハ直接ノ契約ニ出ツルト其他雙方  
間ニ存在スル契約關係ニ出ツルトハ消費貸ニ同シ

第五百八十二條 債務者ハ常ニ同種同量ノ物ヲ償還スルノ義

務アリ但同種同量ノ償還ヲ爲スヲ得ス又ハ當事者ノ意思  
ニ依リテ爲スヲ要セサルハ此限ニ在ラス

第五百八十三條 商品又ハ有價證券ノ消費借ニ付テハ債務者

ハ別段ノ契約ナキハ又ハ特定物ナルハ其領收ノ時ト地ト

ニ於ケル價額ヲ償還スルヲ要ス

第五百八十四條 債務者ノ名ヲ記シタル信用證券又ハ債務者ノ計算ヲ以テ發行シタル信用證券ハ債務者其金額ヲ償還スルノ義務アルニ限リ債務者ニ於テ又ハ債務者ノ計算ヲ以テ之ヲ讓渡シ又ハ其他ノ方法ニテ之ヲ付與スルニハ券面記載ノ滿額ヲ以テスルヲ要ス之ニ違フハ其證券ヲ無効トス然レモ割引ヲ爲スハ此カ爲メニ妨ケラレ、ト無シ

第五百八十五條 裏書讓渡ス可キ信用證券其他流通ス可キ信用證券ヲ以テ消費貸ヲ爲シタルハ右證券ニ債權者又ハ債務者トシテ記載セラレタル者ヲ以テ債權者又ハ債務者ト看做ス

第五百八十六條 債務者ハ明示ノ契約ナキモ其消費借ヲ償還スルノ義務アリ但反對カ當事者ノ意思又ハ其取引ノ性質ニ

依リテ推知スルヲ得ヘキハ此限ニ在ラス

第五百八十七條 債務者カ約定ノ豫告又ハ相當ノ豫告ノ後何時ニテモ消費借ヲ償還スルノ權利ハ豫メ契約ヲ以テ之ヲ奪フヲ得ス然レモ別段ノ契約ナキハ債務ノ主タルモノ及ヒ從タルモノヲ割引ナク一回ニ償還スルニ非サレハ債權者之ヲ領收スルヲ要セス

第五百八十八條 無期ノ消費借ニ於テハ債務者ハ豫告ノ後何時ニテモ之ヲ償還スルヲ得然レモ債權者ハ相當ノ豫告ノ後ニシテ且惡意ナキニ非サレハ其償還ヲ求ムルヲ得ス

第五百八十九條 第五百八十五條ノ場合ニ於テハ償還ノ義務ハ期間ヲ定メテ之ヲ約定スルヲ得

第五百九十條 元債ノ償還ハ若シ債務者カ契約上負擔シタル利息ノ支拂ヲ二期以上遲延シ又ハ支拂停止ト爲リ又ハ資産

上切迫ナル情况ニ至リタルキハ反對ノ契約アルニ拘ハラズ  
約定期間ノ滿了前ニ之ヲ求ムルヲ得  
第五百九十一條 第五百八十一條ノ場合ニ於テハ債權者ト債  
務者トノ間ニ存スル契約關係ニ準據シテノミ債權ヲ主張ス  
ルヲ得  
第五百九十二條 總テ消費貸又ハ他人ノ爲メニスル資本ノ交  
付若クハ使用ニ付テハ取引ノ性質ニ依リテ定マリタル慣習  
上ノ利息ヲ求ムルヲ得但明示ノ契約又ハ前條ノ規定ニ反  
スルキハ此限ニ在ラス  
第五百九十三條 満期ト爲リタル利息カ差引殘額ノ計算若ク  
ハ其他ノ清算ニ因リ又ハ特別ノ契約ニ因リテ元債ニ組入レ  
ラレタルキハ其利息ノ利息ヲ求ムルヲ得  
第五百九十四條 元債全額ノ償還ニ對スル單一ナル受取證書

ハ其利息ヲモ併セタル受取證書ト看做ス  
第五百九十五條 任意ニ支拂セタル利息ハ其償還ヲ求ムルヲ  
得  
第五百九十六條 債權者ハ直接ノ償還ヲ受クルニ換ヘ主タル  
モノ及ヒ從タルモノヲ併セタル債務ノ額ニ滿ツルマテ自己  
ノ計算ヲ以テ他人ニ支拂ヲ爲シ又ハ爲替證券若クハ支拂手  
形ノ引受若クハ支拂ヲ爲シ又ハ其他債務ノ擔任ヲ爲ス可キ  
ヲ債務者ニ對シテ求ムルヲ得又債務者ハ債權者ニ對シ  
第五百八十一條ニ準據シテ計算セシムルヲ得  
第二節 信用約束  
第五百九十七條 信用ヲ與フルノ約束ハ之ヲ取消サル間ハ  
他ノ契約ノ附從トシテモ獨立ノ約束トシテモ其効力ヲ有ス  
第五百九十八條 債務ノ支拂若クハ保證ノ爲メ或ル額ニ付キ

債權者ニ信用約束ヲ爲シタルノ明約又ハ情况アルキハ其約束ハ之ヲ取消スヲ得ス  
第五百九十九條 或ル額ニ付キ引受ケタル獨立ノ信用約束ハ受信用者カ其約束ニ對シテ負擔シタル義務ヲ履行セス又ハ支拂停止ト爲リ又ハ取引上切迫ナル情况ニ至リ且與信用者ノ爲メ十分ナル引當若クハ擔保ノ備ハラサルキニ限り之ヲ取消スヲ得  
第六百條 信用約束ハ額ヲ定ムルモ定メサルモ有期ニテモ無期ニテモ條件附ニテモ無條件ニテモ人ヲ特定シテモ指圖式ニテモ之ヲ爲スヲ得  
第六百一條 相互ノ信用約束ハ雙務契約ノ原則ニ從ヒ各當事者ヲ羈束ス然レモ第五百九十九條ノ場合ニ於テハ其約束ヲ取消スヲ得

第六百二條 寄託物其他ノ金額又ハ有價物ヲ交互計算ニ於テ領收シタルキハ信用ノ處分シ得ヘキ額ヲ限トシテ默示ノ信用約束ヲ爲シタリト看做ス  
第六百三條 信用約束ニ付テノ利息又ハ手数料ハ疑ハシキ場合ニ於テハ其約束ニ依リ現ニ與ヘタル信用ノ割合ニ應レテ之ヲ求ムルヲ得  
第六百四條 支拂手形又ハ信用證券ヲ以テ信用約束ヲ爲シタルキハ其發行人ハ受信用者ニ對シテ履行ノ責ヲ負ヒ且自己ノ計算ヲ以テ其履行ヲ爲スモノトス然レモ其支拂手形又ハ信用證券ニ對スル第三者ノ引受ハ之ヲ新ナル信用約束ト看做ス  
第六百五條 他人ノ委託ヲ受ケテ信用約束ヲ爲シタルキハ其委託者ヲ受信用者ノ保證人ト看做ス

第六百六條 或ル額ニ付キ與信用ノ爲メニ人ヲ紹介スルハ之ヲ信用委託ト看做ス但其紹介ヲ留保ナクシテ爲シタルキニ限ル

第三節 寄託

第六百七條 他人ノ物ヲ貯藏ノ爲メ領收シタル者ハ自己ノ所有物ニ付キ爲スト同一ノ注意ヲ加ヘテ寄託者ニ其物ヲ還付スルノ責任アリ

第六百八條 他人ノ物ノ貯藏ノ爲メ報酬ヲ受クル者又ハ其貯藏ニ付キ明示シテ責任ヲ負擔スル者又ハ其物ヲ貯藏ノ爲メノミナラス管理ノ爲メニ領收スル者又ハ其物ノ貯藏若クハ管理ヲ以テ營業ト爲ス者又ハ自己ノ營業ニ因リテ他人ノ物ノ寄託ヲ受クル者ハ寄託者ニ對シテ至重ノ注意ヲ爲スノ義務ヲ負フ

第六百九條 旅店主、飲食店主、浴場營業者其他他人ヲ自家ニ引受クル營業者ハ客ノ持込ミテ此等ノ者ノ方ニ置キタル物ニ關シテハ其喪失又ハ損害ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ無責任ノ告示ヲ爲スモ客ニ自身ノ注意ヲ催カスモ又此等ノ者又ハ其使用人ノ過失アルキハ契約ヲ以テモ之ヲ免カル、コト得ス大金及ヒ特ニ貴重ナル物ハ之ヲ明告シテ特別ナル貯藏ノ爲メ交付スルコトヲ要ス

第六百十條 受託者ハ契約ニ從ヒ又他人ノ物ノ貯藏又ハ管理ヲ營業トスルキハ契約ナシト雖モ受託料ヲ求ムルコト得又總テノ場合ニ於テ必要ナル立替金ノ賠償及ヒ寄託者ノ過失ニ因リテ被フリタル損害ノ賠償ヲ求ムルコト得  
受託者ハ其債權ノ爲メ寄託物ニ對シテ留置權ヲ有ス  
第六百十一條 寄託物ハ有期ト無期トヲ問ハス第六百十七條

ノ場合ヲ除クノ外ハ豫告ヲクシテ何時ニテモ其還付ヲ求ムルヲ得

第六百十二條 無期ノ寄託物ハ何時ニテモ受託者之ヲ還付スルヲ得但相當又ハ約定ノ豫告期間ニ從フヲ要ス

第六百十三條 物ヲ二人以上共同シテ寄託シタル場合ニ於テ別段ノ契約ナキハ各人ヨリ其物ノ還付ヲ求メ又各人ニ之ヲ還付スルヲ得

第六百十四條 寄託中寄託物ヨリ生スル果實又ハ利益ハ別段ノ契約アルニ非サレハ寄託者ニ屬ス

第六百十五條 物ノ種類ノミヲ定メ數量ヲ以テ之ヲ寄託シタルハ同一ノ數量ヲ以テノミ還付ヲ求ムルヲ得但物ノ性質ニ於テ特定物ト看做ス可キハ此限ニ在ラス

第六百十六條 二人以上ノ寄託者ノ代替物カ互ニ混合シタル

キハ各寄託者ハ其寄託シタル數量ノ割合ニ應シテ混合物ノ共有者ト爲リ且其割合ニ應シテ混合物全部ノ喪失又ハ毀損ノ危険ヲ負擔ス

第六百十七條 契約又ハ商慣習ニ依リ使用權又ハ處分權カ受託者ニ屬ス可キ方法ヲ以テ代替物ヲ寄託シタルキハ受託者カ受託料ヲ受クルト否ト又寄託者ニ利息ヲ支拂フト否トヲ問ハス其物ノ所有權及ヒ其物ノ喪失若クハ毀損ニ係ル危険ノ全部ハ受託者ニ移ル

第六百十八條 特定物ニ付キ受託者カ其物ヲ使用スルヲ得ルト否トハ專ラ當事者ノ意思ニ從ヒテ之ヲ定ム

第六百十九條 反對ノ明約ナキハ封セサル金錢又ハ貴金屬ノ寄託物ハ常ニ受託者ノ所有物ト看做シ又封セサル有價證券ノ寄託物ハ其證券ヲ寄託者ヨリ定マリタル相場ニテ受託



者ニ交付シタルキニ限り受託者ノ所有物ト看做ス  
第六百二十條 受託者ハ自己ニ所有權ノ移リタル寄託物ニ付  
テハ明約アルキニ限り利息ヲ支拂フヲ要ス又明約又ハ慣  
習アルキニ限り報酬ヲ求ムルヲ得  
第六百二十一條 寄託物ノ受取證書ハ寄託者ノ名ヲ以テモ指  
圖式ニテモ無記名式ニテモ之ヲ發行スルヲ得但反對ノ明  
記ナキキハ其裏書讓渡ヲ爲スヲ得  
第六百二十二條 第六百十七條及ヒ第六百十九條ノ場合ニ於  
テハ契約又ハ商慣習ニ依リ現物ニテモ交付若クハ還付ノ時  
及ヒ地ニ於ケル市場代價ニテモ償還スルノ權利ヲ受託者ニ  
與ヘ又之ヲ要求スルノ權利ヲ寄託者ニ與フルヲ得  
第六百二十三條 受託者ハ寄託者ノ所有權若クハ處分權ヲ調  
査シ又ハ寄託證書ヲ提示シテ還付ヲ要求スル者ノ權利ヲ調

査スルノ義務ナシ然レモ惡意及ヒ甚シキ怠慢ニ付テハ責任  
ヲ負フ  
第六百二十四條 第六百十五條以下ニ掲ケタル原則ハ運送、製  
作其他ノ目的ノ爲メ封緘若クハ記號ヲクシテ數量ヲ以テ物  
ヲ委託セラレタル運送人、船長及ヒ其他ノ者ニモ金錢其他ノ  
代替物ヲ質物トシテ受取リタル質債權者ニモ之ヲ適用ス  
第十一章 保險  
第一節 總則  
第六百二十五條 保險契約ハ保險者カ保險料ヲ受ケテ或ル物  
ニ關シ或ル時間ニ於テ不測又ハ不確定ノ事故ニ因リテ生ス  
ルヲ有ル可キ喪失又ハ損害ニ付キ被保險者ニ賠償ヲ爲スノ  
義務ヲ負フ契約タリ  
第六百二十六條 保險スルヲ得ヘキ危險ハ主トシテ火災、地

震、暴風雨、其他ノ天災、陸海運送ノ危険、死亡及ヒ身體上ノ災害  
ナリ然レモ其他ノ危険ニ對スル保險ハ此カ爲メニ妨ケラ  
ルコト無シ  
海上運送ノ保險ハ第二編ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限リ本  
章ノ規定ニ從フ  
保險ハ別段ノ契約アルニ非サレハ保險料支拂期間ニ生スル  
諸般ノ危険殊ニ相次テ生スル危険ニ及フモノトス然レモ保  
險者ハ如何ナル事情アルモ被保險額ヲ超エテ賠償ヲ爲ス  
トナ要セス  
第六百二十七條 所有權、債權其他ノ權利名義又ハ權利關係ニ  
基因スル財産上ノ利益ニシテ此ニ關スル危険ノ起生ニ因リ  
被保險者ニ直接ニ損害ヲ加フ可キモノハ保險ニ付スルコトヲ  
得ル利益トス

博奕、賭事、富講又ハ其他ノ意外ノ事ニ因ル僥倖ノ利益ハ之ヲ  
保險ニ付スルコトヲ得ス  
第六百二十八條 保險ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算  
ヲ以テスルトト問ハス又被保險者ノ委託ヲ受ケタルト否ト  
被保險者ノ豫知スルト否ト被保險者ヲ明示スルト否トト問  
ハス之ヲ受クルコトヲ得  
契約ニ依リテ他人ノ利益カ知レサルキハ保險申込人ハ保險  
者ニ對シテ被保險者ト看做サル  
第六百二十九條 被保險利益ハ被保險物ノ普通價額ヲ以テ限  
トスルヲ通例トス若シ其利益カ此價額ヲ超過ス可キキハ特  
ニ之ヲ明約スルコトヲ要ス  
第六百三十條 被保險物ノ價額ハ使用ニ供スル動産ニ在テハ  
修繕又ハ新調ノ費用ニ依リ商品ニ在テハ損害又ハ喪失ノ生

レタル時及ヒ地ニ於ケル市場代價ニ依リテ之ヲ定ム  
第六百三十一條 保險ハ被保險物ノ利益額ヲ超過スル部分ニ  
限リ無効トス  
第六百三十二條 前條ノ規定ニ拘ハラズ被保險物ノ價額ヲ豫  
メ明約又ハ鑑定人ノ評價ニ依リテ定メタルキハ後ニ至リ其  
價額ノ定ニ對シテハ強暴若クハ詐欺ノ場合又ハ價額ノ著シ  
ク過當ナル場合ニ於テノミ異議ヲ述フルヲ得  
第六百三十三條 保險セラレタル債權ノ價額ハ債務額ニ利息  
及ヒ取立費用ヲ合算シタル額トス  
第六百三十四條 辨濟ス可キ賠償額ハ人ノ保險ニ在テハ被保  
險額トシ物ノ保險ニ在テハ被保險者カ危険ノ發生ニ因リテ  
直接又ハ間接ニ被フリタル損害ヲ以テ限トス  
間接ノ損害中ニハ現ニ生シ又ハ將ニ生セントスル危険ノ已

ムヲ得サル防止ニ因リテ生シタル別段ノ費用及ヒ損害ヲモ  
包含スルモノトス  
第六百三十五條 被保險者カ己ムヲ得サルニ非スシテ任意ニ  
加ヘ若クハ加ヘシメタル喪失若クハ損害又ハ被保險物ノ性  
質、固有ノ瑕疵若クハ當然ノ使用ニ因リテ直接ニ生シタル喪  
失若クハ損害ニ付テハ被保險者ハ賠償ヲ爲スノ義務ナシ  
第六百三十六條 保險契約取結ノ時既ニ生シタル危険ニ對ス  
ル保險ハ無効トス但當事者雙方又ハ其代人ノ孰レモ其危険  
ノ生シタルヲ知ラス且既ニ危険ノ生シタルモ有効タル可  
キ旨ヲ明示シテ契約ヲ取結ヒタルキハ此限ニ在ラス  
第六百三十七條 一人カ同一ノ物及ヒ同一ノ利益ニ關シ時ヲ  
同フレ又ハ時ヲ異ニシテ二人以上ノ保險者ヨリ各別ニ保險  
ヲ受クルキハ其重複保險ヲ各保險者ニ通知シテ其承諾ヲ得

ルヲ要ス之ニ違フキハ各保險者ハ其契約ヲ解除スルヲ得  
第六百三十八條 重複保險ノ場合ニ在テハ被保險者ハ別段ノ  
契約ヲ爲サ、ルキハ保險者ノ孰レニ對シテモ賠償ヲ求ムル  
ヲ得其保險者ハ賠償ヲ爲シタル後保險ノ割合ニ應シテ其  
賠償ノ割賦金ヲ他ノ保險者ニ請求スルヲ得但他ノ保險カ  
無効ナルキ又ハ期間ノ滿了若クハ其他ノ理由ニ因リテ終リ  
タルキハ此限ニ在ラス  
一保險者ノ爲メニスル拋棄ハ他ノ保險者ノ害ト爲ル効力ヲ  
生スルヲ無シ  
第六百三十九條 保險スルヲ得ル利益ノ額ニ滿タサル保險  
ノ場合ニ在テハ其殘餘ノ額ニ付キ被保險者ヲ自己ノ保險者  
ト看做シ被保險者ハ其額ノ割合ニ應シテ損害ヲ負擔ス但別  
段ノ契約アルキハ此限ニ在ラス

第六百四十條 保險ハ被保險物ノ讓渡其他被保險利益ノ轉付  
ニ因リテ當然新取得者ニ移ル但讓渡人カ利益ヲ留置キタル  
場合又ハ第六百五十四條ノ場合又ハ保險者カ轉付ニ付キ承  
諾ヲ與フルノ權利ヲ明示シテ留保シタル場合ハ此限ニ在ラ  
ズ  
然レモ總テノ場合ニ於テ被保險者ハ其爲シタル轉付ヲ遲延  
ナク保險者ニ通知シ又保險者ハ保險カ記名ナルキハ新取得  
者ノ名ニ書替フルヲ要ス  
第六百四十一條 被保險額ノ請求權ハ特約ナキハ限リ滿期  
日ノ前後ヲ問ハス保險者ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ轉付ス  
ルヲ得保險者ハ其轉付ヲ知りタル時ヨリ其人ニノミ支拂  
ヲ爲スノ義務アリ  
被保險物ノ抵當若クハ質入又ハ抵當物若クハ質物ノ保險又

ハ第三者ノ爲メニスル保險ハ被保險額請求權ノ轉付ト同視ス

第六百四十二條 保險契約ノ取結及ヒ履行ニ付テハ第七章ノ原則ヲ標準ト爲ス然レモ保險者ハ總テノ場合ニ於テ契約取結ノ後即時ニ保險證券ヲ作りテ被保險者ニ交付スルノ義務ヲ負ヒ此手續ヲ爲サス又ハ遅延スルニ因リテ生シタル總テノ損害ニ付キ被保險者ニ對シテ責任ヲ負フ

第六百四十三條 保險契約ハ保險者又ハ契約取結ノ權アル代人カ保險申込書及ヒ之ニ屬スル陳述書ヲ異議ナク承諾シタルキハ之ヲ取結ヒタリト看做ス

第六百四十四條 保險契約ハ各當事者ニ於テ仲買人ヲ以テモ之ヲ取結フコト得

第六百四十五條 保險營業者ノ其取引場ヨリ他ノ地ニ置キタル

ル代辨人又ハ外國保險營業者ノ内國ニ置キタル代辨人ハ被保險者ニ對シ契約ノ取結、陳述ノ承諾、保險料ノ受取、被保險額ノ支拂其他總テ保險者ノ代理ヲ爲スノ權アリト看做ス但其代辨人カ被保險者ニ反對ヲ述ヘタルキハ此限ニ在ラス

第六百四十六條 保險證券ニハ日附ヲ爲シ及ヒ保險者若クハ其代人署名、捺印シ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 保險ノ初日及ヒ其期間

第二 被保險物ノ十分精密ナル記載

第三 被保險額

第四 保險料ノ額

第五 保險シタル危險

第六 保險申込人ノ氏名及ヒ被保險者ノ指示

第七 保險ノ旨趣ニ重要ナル影響ヲ及ホス事情及ヒ契約

ノ特別ナル條款アレハ其條款  
第六百四十七條 保險證券ノ旨趣ハ商慣習又ハ附屬書類其他  
ノ證書ヲ以テ之ヲ更正シ説明シ補充シ又ハ變更スルヲ得  
第六百四十八條 保險證券ハ指圖式又ハ無記名式ニテ之ヲ發  
行スルヲ得然レモ白地ニテ之ヲ發行スルヲ得ス  
第六百四十九條 保險證券ノ旨趣ニ係ル證據ハ其證券又ハ附  
屬書類ヲ以テノミ之ヲ舉クルヲ得但其證券及ヒ附屬書類  
カ最早存在セス又ハ其發行ヲ爲サル片ハ此限ニ在ラス  
第六百五十條 被保險物ノ價額ニシテ保險證券ニ掲ケサルモ  
ノ及ヒ損害額ノ證據ハ總テ他ノ適法ナル證據方法ヲ以テ之  
ヲ舉クルヲ得  
損害額ノ評定ハ當事者雙方ノ協議調ハサルモハ裁判所ヨリ  
指名シタル鑑定人之ヲ爲ス

第六百五十一條 被保險者ハ危險ノ生スルニ當リ成ル可ク其  
防止ニ盡力シ又其既ニ生シタル後ハ保險者又ハ其代人ニ遲  
延ナク其危險及ヒ喪失若クハ損害並ニ其大小ヲ通知スルノ  
義務ヲ負ヒ其義務背反ニ因リテ生シタル損害ニ付キ保險者  
又ハ其代人ニ對シテ責任ヲ負フ  
第六百五十二條 戦争又ハ暴動ニ因リテ生シタル危險ニ對シ  
テハ明約ヲ以テ引受ケタルニ非サレハ保險ノ責ニ任スルコ  
ト無シ  
第六百五十三條 保險者ハ被保險者カ契約取結ノ際重要ナル  
情況ニ付キ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其情況ヲ黙スルモハ惡意  
アリタルト否トヲ問ハス契約ヲ解クノ權利アリ但被保險者  
カ保險者ノ總テノ問ニ對シテ其知ル所ヲ竭シ且善意ニテ答  
ヘタルモハ過失ナキモノト看做ス然レモ保險者ノ有スル解

約ノ權利ハ此カ爲メニ妨ケラル、ト無シ  
第六百五十四條 契約取結ノ後被保險物ニ付キ情況ノ變更カ  
發生シタル爲メ其引受ケタル危險ノ増加シ若クハ變更スル  
場合又ハ保險料ノ支拂ニ付キ明示若クハ默示ノ延期ナキハ  
契約上又ハ慣習上ノ期間ニ受取證書ト引換ニテ其支拂ヲ求  
ムルモ仍ホ之ヲ得サル場合ニ於テハ保險者ハ其契約ニ羈束  
セラル、ト無シ但孰レノ場合ニ於テモ保險者其契約ヲ繼續  
スルハ此限ニ在ラス  
保險料ノ支拂ハ第六百四十條及ヒ第六百四十一條ノ場合ト  
雖モ被保險者又ハ其權利承繼人之ヲ爲スト得  
第六百五十五條 契約ハ保險シタル危險カ被保險者ニ對シテ  
生ス可キニ至ラサルハ被保險者ヲ羈束セス然レモ危險ノ  
減少又ハ其期間ノ短縮ノ爲メ保險料ヲ分割スルト得ルハ

保險料支拂期間二回以上ノ保險料ヲ前拂シタルハニ限ル  
保險料支拂期間ハ一个年タルヲ通例トス  
第六百五十六條 當事者ノ一方カ保險ノ存續中ニ破産ノ宣告  
ヲ受ケタルハ他ノ一方ハ契約ヲ解キ又ハ其履行ニ付キ擔  
保ヲ求ムルト得  
第六百五十七條 契約カ被保險者ノ過失ナクシテ無効タリ又  
ハ任意ニ解カル、トハ保險者ニ對シテ危險ノ生ス可キニ至  
ラサル場合ニ在テハ既ニ支拂ヒタル保險料ノ全部ヲ被保險  
者ニ償還シ又重複保險若クハ超過保險ノ場合被保險利益ノ  
減少ノ場合又ハ其他ノ事由ニ因レル場合ニ在テハ現保險料  
支拂期間ノ爲メ既ニ支拂ヒタル保險料ヲ危險減少ノ割合ニ  
應シテ被保險者ニ償還スルト得要ス但慣習上保險者カ受ク  
可キモノヲ扣除ス

第六百五十八條 保險者ハ被保險者ニ被保險額ヲ支拂ヒタル  
キハ損害ノ生シタル爲メ被保險者カ第三者ニ對シテ有スル  
請求權ヲ當然取得シ殊ニ債權ノ保險ノ場合ニ於テハ債務者  
ニ對スル債權者ノ權利ヲ當然取得ス但其支拂ヒタル額ヲ限  
トス  
被保險者ハ此事ニ關シ保險者ニ害ヲ加ヘタル行爲ニ付キ責  
任ヲ負フ

第六百五十九條 社員相互ノ保險ヲ目的トシテ設立シタル會  
社ニ在テハ社員ノ權利及ヒ義務殊ニ保險料ノ支拂、追拂、會社  
負債ノ支拂、會社利益ノ分配及ヒ計算書ノ提出ニ關スルモノ  
ハ其會社ノ契約若クハ定款ニ從ヒ其不十分ナル場合ニ在テ  
ハ本法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム  
第二章 火災及ヒ震災ノ保險

第六百六十條 動産又ハ不動産ハ賃借人、用益者若クハ受託者  
其他ノ資格ヲ以テ之ヲ占有シ又ハ保管スル者ニ於テ自己ノ  
利益ニテモ所有者ノ利益ニテモ殊ニ用益者ニ在テハ自己及  
ヒ所有者ノ利益ニテモ之ヲ保險ニ付スルヲ得但孰レノ利  
益ニテ保險ニ付シタルヤニ付キ疑アルキハ自己ノ利益ニテ  
保險ニ付シタルモノト看做ス  
自己ノ利益ニテ保險ニ付シタル場合ニ在テハ第一ニ被保險  
者自己ノ損害ニ充テシカ爲メ次ニ所有者ニ對スル自己ノ責  
任ニ充テシカ爲メ保險ニ付シタルモノト看做ス其責任ニ充  
ツル被保險額ノ部分ニ對シテハ被保險者ノ債權者ハ總テ請  
求權ヲ有セス  
所有者ノ償還要求ニ充テシカ爲メ保險ニ付シタル場合ニ於  
テハ第六百三十九條ニ依リ自己ノ保險者ト看做ス可キキト



雖モ其被保險額ヲ限トシテ保險者獨リ全部ノ損害ヲ負擔ス  
第六百六十一條 不動產ノ保險ニ在テハ法律、命令其他ノ成規  
又ハ契約ニ依リテ被保險者ニ毀滅シ若クハ破損シタル物ノ  
再築若クハ修繕ヲ爲スノ義務アルキハ保險者ハ被保險者若  
クハ其權利承繼人ノ此義務ヲ履行ス可キ期間ヲ定メンヲ  
裁判所ニ申立テ又其再築若クハ修繕ノ實施ヲ監視シ及ヒ其  
工事ノ捗ル割合ニ應シテ被保險額ヲ支拂フヲ得  
又保險者ハ契約ニ依リ被保險額ノ割合ニ應シ自費ヲ以テ再  
築若クハ修繕ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルヲ得  
第六百六十二條 動產ハ各箇ニ又ハ包括シテ保險ニ付スル  
ヲ得包括シテ保險ニ付シタル場合ニ在テハ保險ノ存續間其  
包括中ノ各部分ヲ増減シ又ハ他ノ物ヲ以テ其全部若クハ一

分ニ代フルキト雖モ保險ニハ影響ヲ及ホスヲ無シ  
家屋内ニ備在ル動產一切ノ保險ハ現貨、寶玉、證書、有價證券及  
ヒ稿本其他普通價額ヲ有セサル物ヲ包含セス但反對ノ契約  
アルキハ此限ニ在ラス  
第六百六十三條 動產ノ保險ハ保險證券ニ記載シタル住居其  
他ノ場所ニ關シテノミ効力ヲ有ス然レモ其契約ハ被保險物  
ヲ一時保險外ノ場所ニ移シタルモ此カ爲メニ解止セラル、  
ヲ無シ  
第六百六十四條 自燃又ハ爆發ノ危險アル物ニ付テハ被保險  
者カ契約上若クハ相當ノ豫防處分ヲ爲サ、ルキニ限り第六  
百三十五條ノ規定ヲ適用ス  
第六百六十五條 火災カ被保險者ノ方ニ起リタルト近傍ニ起  
リタルトテ問ハス消防若クハ救濟ノ處分又ハ竊盜其他類似

ノ事由ニ因リテ被保險者ニ加ヘタル損害モ火災損害ト看做  
 ス百六十五條  
 第六百六十六條 雷電ノ危険火藥若クハ機關ノ破裂ノ危険火  
 藥若クハ機關ニ原因スル破裂ノ危険其他類似ノ危険及ヒ震  
 災ノ危険ハ同時ニ火災ノ起リタルト否トヲ問ハス之ヲ火災  
 ノ危険ト同視ス但他ノ契約アルキハ此限ニ在ラス  
 第三節 土地ノ產物ノ保險  
 第六百六十七條 土地ノ果實其他ノ天產物ノ保險ハ強雨、洪水、  
 旱魃、暴風雨ノ如キ人ノ力ト注意トヲ以テ防ク能ハサル非常  
 ノ天災ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ得  
 保險シタル危険ハ保險證券ニ逐一明記スルヲ要ス  
 第六百六十八條 保險ハ一个年間効力ヲ有ス但更ニ短キ期間  
 ヲ約定シタルキハ此限ニ在ラス

第六百六十九條 損害ノ生シタル場合ニ在テハ保險レタル產  
 物カ其損害ナク成熟シタル現狀ニ於テ有シタル可キ價額ト  
 其災害ノ後ニ有スル價額トノ間ノ差額ヲ被保險額ノ割合ニ  
 應シテ被保險者ニ償フ但被保險額カ成熟レタル現狀ニ於テ  
 有シタル可キ價額ヲ超過セサルキニ限ル  
 第六百七十條 保險ハ損害ノ額カ其損害ノ生スルニ非サレハ  
 產物ノ有シタル可キ價額ノ少ナクモ四分一ニ滿タサルキハ  
 無効トス  
 第四節 運送保險  
 第六百七十一條 運送中ニ在ル物ハ運送人ヨリ又ハ其物ノ到  
 達地ニ安着スルコトニ付キ利益ヲ有スル各人ヨリ之ヲ保險ニ  
 付スルヲ得  
 第六百七十二條 保險者ハ運送品ノ保險ニ因リ運送ノ期間中

其物ノ喪失若クハ毀損ノ各危険ヲ引受ク其危険事ニハ火災、盜難、敵ノ威力及ヒ此類ノモノヲモ包含ス但或ル危険ヲ明示シテ取除キタルキハ此限ニ在ラス

運送ノ期間ハ別段ノ契約アルニ非サレハ運送人ニ物ノ交付ヲ始ムル時ヨリ受取人ニ其引渡ヲ終フル時マテトス

第六百七十三條 運送ノ期間中運送品ヲ讓渡シタルキハ保險ハ第六百四十條ノ規定ニ從ヒテ讓渡人ヨリ新取得者ニ移ル

第六百七十四條 保險證券ヲ以テ保險レタル以外ノ喪失若クハ損害カ運送品ニ生スルキハ其例外タルノ證據ヲ舉クルノ義務ハ保險者ニ在リトス

第六百七十五條 價額ヲ保險證券ニ記載セサル場合ニ於テ損害ノ價額ヲ評定スルニハ最初ノ代價及ヒ其附帶ノ費用ヲ標準トス若シ之ヲ知ル能ハサルキハ積込ノ地及ヒ時ニ於ケル

普通價額若クハ市場價額ニ諸税、保險費用、積込費用及ヒ被保險者ノ負擔ニ歸スル運送費用ヲ合算シタルモノヲ標準トス

第六百七十六條 保險證券ニハ第六百四十六條ニ掲ケタル諸件ノ外尙ホ運送ノ方法、運送具ノ種類、運送取扱人及ヒ運送人ノ氏名、運送ノ線路及ヒ發送地并ニ到達地ヲ逐一記載シ且立寄地アルキハ其地又運送期間ノ約定アルキハ其期間ヲ掲クルヲ要ス

保險證券ハ反對ノ明約アルニ非サレハ其證券ニ掲ケタル運送期間若クハ通常ノ運送期間ヲ踰越シ其他前項ニ掲ケタル保險證券ノ條件ニ違反シタルカ爲メニ無効ト爲ルヲ無シ但其踰越又ハ違反ニ因リ運送取扱人若クハ運送人ニ對シテ生シタル被保險者ノ請求權ハ保險者ニ移ル

第六百七十五節 生命保險、病傷保險及ヒ年金保險

第六百七十七條 人ノ生命又ハ健康ハ終身其他或ル期間中之  
 ヲ保險ニ付スルヲ得  
 第六百七十八條 何人ニテモ自己ノ生命若クハ健康ヲ保險ニ  
 付スルヲ得又保險ニ付セントスル時ニ於テ他人ノ生命若  
 クハ健康ニ付キ財産上ノ利益ヲ有スル者ハ其他人ノ生命若  
 クハ健康ヲ保險ニ付スルヲ得  
 配偶者、兄弟姉妹、尊屬親及ヒ卑屬親ノ生命若クハ健康ニ關ス  
 ル相互ノ利益ニ付テハ證據ヲ擧クルヲ要セス  
 第六百七十九條 他人ノ生命又ハ健康ノ保險ノ有効ナルニハ  
 其人ノ承諾又ハ了知ヲ要セス  
 第六百八十條 被保險額ハ其支拂フ可キニ至リタルキ直ニ  
 被保險者又ハ保險證券ニ依リテ保險ノ爲メ益ヲ受クル者又  
 ハ被保險額請求權ノ轉付ヲ受ケタル者ニ之ヲ支拂フヲ要

ス  
 被保險者ノ死亡ニ因リ被保險額ヲ支拂フ可キニ至リタル場  
 合ニ於テ其被保險額ヲ受ク可キ人カ其際存在セサルキハ其  
 被保險額ハ死亡者ノ遺産ノ一分トシテ之ヲ處分スルヲ要  
 ス  
 第六百八十一條 他人ノ生命又ハ健康ハ其人ノ爲メ又ハ第三  
 者ノ爲メ契約上ノ義務ニ依リテ之ヲ保險ニ付スルヲ得  
 第六百八十二條 保險ハ左ノ場合ニ於テハ無効トス  
 第一 保險シタル死亡又ハ病傷カ保險契約取結ノ際既ニ  
 生シタルキ但保險申込人カ其事ヲ知ラサルキハ此限ニ  
 在ラス  
 第二 生命若クハ健康ヲ保險ニ付シ又ハ付セシメタル者  
 カ契約上負擔シタル義務ニ違反シ又ハ放蕩、粗暴其他故

意ノ所爲ニ因リテ生命ヲ短縮シ若クハ健康ヲ毀損シタ  
 ルキ  
 第三 死亡若クハ病傷カ重罪若クハ輕罪ニ付テノ有罪判  
 決ノ執行ニ因リ若クハ其執行中ニ生シ又ハ重罪若クハ  
 輕罪ヲ犯シタル直接ノ結果トシテ生シ又ハ決闘其他故  
 意ノ所爲ニ因リテ生シタルキ  
 第六百八十三條 總テ保險無効ノ場合ニ於テハ保險契約ヲ以  
 テ此場合ノ爲メニ約定シタル額若シ約定ナキハ少ナクモ  
 被保險者ノ爲メニ既ニ積立テタル貯金ノ半額ヲ被保險者ニ  
 償還スルヲ要ス但被保險者カ詐欺若クハ惡意ニ因リテ自  
 ラ無効ニ至ラシメタルキハ此限ニ在ラス  
 第六百八十四條 契約ノ無効ハ保險者カ契約ノ無効ヲ致ス情  
 況ヲ知リタル後尙ホ契約ヲ被保險者ト繼續シタルキハ保險

者ヨリ被保險者ニ對シテ之ヲ主張スルヲ得ス  
 第六百八十五條 死亡若クハ病傷ノ時ノ外尙ホ契約ニ依リ或  
 ル年齢若クハ期限ニ至リタル時ヲ以テ被保險額支拂ノ時ト  
 爲スヲ得又被保險額ノ支拂ニ換ヘテ年金ノ支拂ヲ約定ス  
 ルヲ得  
 第六百八十六條 年金保險ハ保險者カ或ル金額ヲ受取リテ被  
 保險者ニ又ハ其死亡ノ後ハ其保險ニ參カリタル人ニ終身間  
 又ハ或ル期間ノ滿了ニ至ルマテ年金ヲ支拂フノ義務ヲ負フ  
 契約タリ  
 第六百八十七條 年金受取ノ權利ハ被保險者ニ屬スルト同一  
 ノ範圍及ヒ條件ニテ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ被保險  
 者ヨリ之ヲ他人ニ轉付スルヲ得  
 第六百八十八條 總テ生命保險、病傷保險及ヒ年金保險ノ場合

ニ於テハ被保險者若クハ其權利承繼人ハ正當時期ニ豫告ヲ爲シタル後保險契約ニ從ヒ若クハ第六百八十三條ノ償還金ヲ受ケテ契約ヲ解除スルノ權利ヲ有シ又ハ豫告ヲ以テ償還ヲ求ムルヲ得ヘキ利息附ノ預ケ金ニ其契約ヲ變換スルノ權利ヲ有ス

保險料ノ不拂ハ保險者ニ於テ之ヲ契約解除ノ豫告ト看做ス  
ヲ得

第六節 保險營業ノ公行

第六百八十九條 保險會社ハ官許ヲ受クルニ非サレハ其營業ヲ爲スヲ得ス

第六百九十條 保險會社ハ保險料其他ノ收入金ノ中ヲ以テ年積立ヲ爲シ何時ニテモ年年支拂フ可キ被保險額ノ少ナクモ平均二倍ニ滿ツル準備金ヲ設クルノ義務アリ此準備金ハ

十分安全ニ利用シ其證券ヲ裁判所ニ寄託スルヲ要ス但之ヨリ生スル收入ハ會社ニ歸ス

第六百九十一條 保險會社ハ少ナクモ毎年一回其年ノ收支一覽表及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ公告シ且各社員及ヒ各被保險者ニ送達スルノ義務アリ

第六百九十二條 裁判所ハ何時ニテモ被保險者ノ申立ニ因リ保險會社ノ保險業ノ現況取引ノ實況貸借ノ關係及ヒ會社カ保險業ヲ營ムノ原則ヲ一人若クハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ検査セシメ其検査ノ結果ヲ被保險者ニ通知シ且公告スルノ權アリ其検査及ヒ公告ノ費用ハ裁判所ノ見込ヲ以テ右申立ヲ十分ノ理由アリトスルキハ保險會社之ヲ負擔ス

行政官廳ハ亦其職權ヲ以テ検査ヲ行フヲ得

第六百九十三條 一部類ノ保險業ノ外ニ尙ホ他ノ部類ノ保險

業ヲ營ム會社ハ各部類ノ保險業ヲ各別ニ營ミ又其各部類ニ  
生スル收入ハ專ラ其部類ノ爲メニ之ヲ積立テ及ヒ使用スル  
ヲ要ス此規定ハ保險會社ノ破産ノ場合ニモ之ヲ適用ス其  
殘餘ノ財團ハ第千四十九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分配ス可シ  
保險業ノ外ニ他ノ業ヲ營ム會社ハ亦前項ニ準ス  
第六百九十四條 保險會社カ第六百九十條乃至第六百九十三  
條ノ規定ニ背クハ又ハ被保險者總員ノ承諾ヲ得シテ同業  
若クハ他業ノ會社ト合併スルハ又ハ被保險者ニ告知シタル  
保險業ノ原則ヲ變更シ若クハ事實上之ヲ犯スハ各被保險  
者ハ豫告ヲ爲スト無クシテ何時ニテモ保險ヲ解止シ其拂込  
ミタル現支拂期間ノ保險料總額ノ償還及ヒ拂込ミタル日ヨ  
リノ法律上ノ利息ヲ求ムルノ權利アリ  
第六百九十五條 保險會社カ將來ノ義務ヲ履行スル能ハスト

豫知ス可キ取引ノ實況ニ至リタルハ其會社カ未タ支拂ヲ  
停止セスト雖モ被保險者ハ破産宣告ヲ求ムルノ申立ヲ爲ス  
ヲ得  
第六百九十六條 保險會社ニシテ其本店ノ所在地外ニ於テ代  
辨人ヲ以テ保險契約ヲ取結フモノハ其代辨人ニ與ヘタル權  
限ノ如何ニ拘ハラス其契約ニ關シテハ代辨人ノ營業所ノ地  
ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服從シ且其裁判所ニ差出ス可  
キ裁判上ノ代人ヲ定置クノ義務アリ若シ之ヲ定置カサルハ  
其代辨人ヲ裁判上ノ代人ト看做ス  
第六百九十七條 第六百四十五條ノ規定ニ從ヒ獨立シテ保險  
契約ヲ取結フ爲メ内國ニ置キタル外國保險會社ノ代辨店ハ  
之ヲ支店ト看做シ支店ニ關スル一般ノ規定及ヒ本節ノ規定  
ヲ適用ス

第六百九十八條 本節ノ規定ハ一箇人又ハ組合ニシテ保險營業ヲ爲スモノニモ之ヲ適用ス

第十二章 爲替證券及ヒ引出切手

總則

第六百九十九條 爲替證券ハ或ル金額ヲ相違ナク支拂フ可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券ニシテ合法ノ原因ヲ當然含有スルモノタリ

第七百條 商ヲ爲スヲ得ル各人ハ爲替義務ヲ負フヲ得

第七百一條 爲替證券ニ爲替無能力者ノ署名アルモ其他ノ署名ノ効力ハ此カ爲メニ妨ケラレ、ヲ無シ

第七百二條 證券ニシテ爲替證券ノ要件ヲ外觀ノ爲メニノミ記入シタルモノハ其情ヲ知リタル者ノ爲メニハ之ヲ爲替證券ト看做サス

第七百三條 他人ヨリ特ニ委任ヲ受クルヲ無ク又ハ代理ノ事實ヲ明記スルヲ無クシテ他人ノ爲メニ爲替證券ニ署名スル者ハ此ニ因リテ自己ニ責任ヲ負フ

第七百四條 爲替證券ノ受取人ハ直ニ振出人ニ對シ又其後ノ各所持人ハ其前者ヲ經由シテ振出人ニ對シ番號ヲ記シタル同文ノ證券數通ノ交付ヲ求ムルヲ得

爲替證券ノ各所持人ハ需用ニ應シテ自ラ爲替證券ノ贖本ヲ作ルヲ得

第七百五條 爲替證券ハ其旨趣ニ因リテ直接ニ義務ヲ負ハシム但法律又ハ商慣習ニ依リテ例外ト爲ス可キモノハ此限ニ在ラス

第七百六條 法律上ノ要件ヲ掲ケサル爲替證券又ハ其要件ト共ニ違法ノ事項ヲ掲ケタル爲替證券又ハ旨趣カ互ニ牴觸シ



其抵觸ヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クヲ得サル爲替證  
券ハ無効タリ  
第七百七條 爲替證券上ノ重要ナラサル附記ハ法律上ノ要件  
ニ適スル爲替證券ノ旨趣ノ効力ヲ妨クルヲ無ク又爲替上ノ  
義務ヲ生セシムルヲ無シ  
第七百八條 偽造又ハ變造ノ爲替證券ハ爲替證券トシテ其効  
ヲ有ス然レモ偽造變造ニ因リテ義務ヲ生スルヲ無シ但一旦  
生シタル義務ハ變更セサルモノトス  
偽造變造ニ付テノ異議ハ其偽造變造ヲ爲シタル者又ハ其情  
ヲ知リテ爲替證券ヲ取得シタル者ニ對シテ之ヲ起スヲ得  
第七百九條 爲替義務ハ其負擔ニ關シテハ爲替證券ニ記載シ  
タル地ノ法律ニ從ヒ若シ其地ヲ記載セサルハ債務者ノ住  
所ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定メ又其履行ニ關シテハ履行ヲ爲ス

可キ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定ム  
爲替上ノ權利ヲ行使シ及ヒ保全スル爲メニスル行爲ハ其行  
爲ノ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ爲スヲ要ス但爲替證券ニ其他  
ノ地ヲ記載シタルハ此限ニ在ラス  
第七百十條 爲替證券又ハ引出切手ノ占有者ニシテ正當ノ方  
法ニ依リ且甚シキ怠慢ニ出テスシテ之ヲ取得シタル者ハ其  
爲替證券又ハ引出切手若クハ其代金ノ引渡ノ請求ニ應スル  
ノ義務ナシ但占有者カ爲替證券又ハ引出切手ノ引渡ヲ求ム  
ルノ訴ヲ起シタル場合アルニ當リ之ニ對シテ抗辯ヲ爲シ得  
ヘキ事實ト同一ノ事實ニ因リテ請求セラル、ハ此限ニ在  
ラス  
第七百十一條 盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル爲替  
證券ニ付テハ第四百三條ノ規定ヲ適用ス

第七百十二條 爲替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對  
スル爲替上ノ請求權ハ滿期日ヨリ起算シ三ヶ年ヲ以テ時効  
ニ罹リ又所持人若クハ裏書讓渡人ヨリ振出人若クハ前裏書  
讓渡人ニ對スル償還請求權ハ拒證書ヲ作リタル日若クハ請  
求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ル  
時効ハ訴ヲ起シ其他各箇ノ裁判上ノ手續ヲ爲スニ因リテ中  
斷セラレ又裁判所ノ判決ニ因リ又ハ書面ニ明示シテ債務ヲ  
承認シ新債務ト爲シタルニ因リテ消滅ス  
第七百十三條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替證券ニ在テハ  
時効ハ呈示ニ付キ規定セラレタル期間ノ滿了ヨリ始マル但  
其滿了前ニ呈示ヲ爲シタルキハ其呈示ノ日ヨリ始マル  
第七百十四條 爲替證券ヨリ生スル請求權ヲ時効ニ因リ又ハ  
法律ニ規定シタル行爲ヲ怠リタルニ因リテ失ヒタル者ハ其

失ヒタルニ拘ハラズ支拂人振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此  
等ノ者カ支拂ハサル爲替資金若クハ取戻シタル爲替資金ニ  
因リテ已レナリシタル限度ニ於テ右請求權ヲ主張スルコトヲ  
得第七百十一條ノ場合ニ係ルモノト雖モ亦同シ  
第七百十五條 總テ爲替證券ニ署名ヲ爲シタル者ハ此ニ因リ  
連帶シテ義務ヲ負擔ス然レモ此連帶義務ハ各義務者ニ於テ  
特立ノモノトス  
爲替ノ訴ハ其總員ニ對シ又ハ其一人ニ對シテ之ヲ起スコトヲ  
得

第一節 爲替手形

第一款 振出

第七百十六條 爲替手形ニハ左ノ諸件ヲ明瞭詳密ニ記載スル  
コトヲ要ス

第一 振出ノ日附及ヒ場所  
 第二 爲替金額但文辭ヲ以テ記ス可シ  
 第三 支拂人ノ氏名  
 第四 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨及ヒ滿期日并ニ支拂地  
 第五 爲替手形ト引換ニテ支拂ヲ爲ス可キ旨  
 第六 振出人ノ署名捺印  
 第七百十七條 振出人ハ爲替手形ヲ自己ノ指圖ニテ振出シ又ハ振出地ニ非サル地ニ於テ支拂ヲ爲ス可キキハ自己ニ宛テ振出スヲ得  
 第七百十八條 爲替手形ノ金額二十五圓以上ナルキハ無記名式ニテ振出スヲ得  
 第七百十九條 滿期日ハ定マリタル日又ハ日附ノ後定マリタル

ル期間又ハ一覽ノ時又ハ一覽後定マリタル期間ニ於テノミ之ヲ定ムルヲ得滿期日ヲ記載セサルキハ爲替手形ハ一覽ノ時ニ滿期ト爲ル  
 第七百二十條 支拂人ノ住地又ハ其他ノ地(他所拂爲替手形)ハ支拂地トシテ之ヲ記載スルヲ得他ノ地ヲ記載シタル場合ニ在テ爲替手形ニ支拂ノ爲メ他人(他所拂人)ヲ明記セサルキハ支拂人ハ其記載シタル地ニ於テ支拂ヲ爲スヲ要ス  
 第七百二十一條 爲替手形ハ白地ニテ之ヲ振出シ所持人ハ善意ヲ以テ填記スルヲ得  
 第二款 裏書  
 第七百二十二條 爲替手形ノ受取人及ヒ其後ノ各所持人ハ若シ其手形ニ反對ヲ明記セサルキハ裏書ヲ以テ之ヲ他人ニ轉付スルヲ得

第七百二十三條 裏書ニハ其日附、場所、裏書讓渡人ノ署名、捺印  
及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルヲ要ス然レモ白地ニテモ裏書  
讓渡ヲ爲スヲ得  
第七百二十四條 裏書ニハ其日ヨリ前ノ日附ヲ爲スヲ禁ス  
之ニ違フキハ偽造、變造ノ刑ニ處ス  
第七百二十五條 無記名式ニテ振出シ又ハ白地ニテ裏書讓渡  
ヲ爲シタル爲替手形ハ交付ノミテ以テ之ヲ轉付スルヲ得  
第七百二十六條 爲替手形ハ滿期後ト雖モ裏書讓渡ヲ爲ス  
ヲ得又代理若クハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲スヲ得  
第七百二十七條 支拂ノ爲メニスル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ  
事情ニ因リテ正當時期内ニ爲スヲ得サル爲替手形ノ裏書  
讓渡ハ滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ニ同シ  
第七百二十八條 滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ハ其裏書讓渡

人ノ權利及ヒ義務ノミテ裏書讓受人ニ轉付スルモノトス然  
レモ裏書讓受人ハ滿期後ニ爲替手形ノ裏書讓渡ヲ爲シタル  
各人ニ對シ如何ナル方式ニモ羈束セラレズ且獨立シタル償  
還請求權ヲ取得ス  
第七百二十九條 代理ノ爲メ又ハ擔保ノ爲メニスル裏書讓渡  
ハ其目的ヲ爲替手形ニ記載セサルキハ第三者ニ對シテ眞ノ  
裏書讓渡タリ  
第七百三十條 代理ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記  
載シタルキハ其裏書讓受人ニ裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ヲ  
行フノ權殊ニ更ニ眞ノ裏書讓渡ヲ爲スノ權ヲ付與スルモノ  
トス但其手形ニ眞ノ裏書讓渡ヲ爲スヲ得サル旨ヲ記載シ  
タルキハ此限ニ在ラス  
第七百三十一條 擔保ノ爲メニスル裏書讓渡(質入爲替手形、寄

託爲替手形ハ其目的ヲ記載シタルキト雖モ眞ノ裏書讓渡タ  
リ然レモ各爲替債務者ハ爲替手形ヲ以テ擔保シタル債務ヲ  
支拂ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シタリトノ抗辯ヲ裏  
書讓受人ニ對シテ爲スコトヲ得

第七百三十二條 裏書讓渡ハ各裏書讓渡人ノ順序カ裏書讓受  
人ニ至ルマテ間斷ナキキニ限リ裏書讓受人ノ爲メ効力アリ  
又代理又ハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ裏書  
讓渡人ニテモ裏書讓受人ニテモ更ニ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得  
第七百三十三條 裏書讓渡ノ法律上ノ効力ハ爲替手形ニ裏書  
讓渡ヲ禁スル旨ヲ記載シタルカ爲メ之ヲ失フコト無シ但之ヲ  
禁シタル者ニ對スル償還請求權ハ此カ爲メニ消滅ス

第三款 引受

第七百三十四條 爲替手形ノ所持人ハ其手形ニ別段ノ記載ナ

キキハ滿期日前ニ引受ノ爲メ支拂人ニ之ヲ呈示スルコトヲ得  
若シ支拂人其引受ヲ爲サ、ルキハ其翌日拒證書ヲ作ルコトヲ  
要ス  
他所拂爲替手形ノ振出人ハ所持人ニ於テ引受ノ爲メ其手形  
ノ呈示ヲ爲ス可ク若シ爲サ、ルキハ償還請求權ヲ失フ可キ  
旨ヲ記スルコトヲ得

第七百三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ別ニ短キ呈示期  
間ノ記載ナキキハ日附後遅クモ二年内ニ引受ノ爲メ之ヲ  
呈示ス可シ若シ之ヲ呈示セサルキハ振出人及ヒ裏書讓渡人  
ニ對スル償還請求權ヲ失フ  
支拂人カ方式ニ依リテ引受ヲ爲スコトヲ拒ムキハ其翌日拒證  
書ヲ作ルコトヲ要ス此場合ニ於テハ拒證書作成ノ日ヲ以テ呈  
示ノ日ト看做ス若シ拒證書ヲ作ラサルキハ滿期日ハ呈示期

間ノ末日ヨリ起算ス  
第七百三十六條 引受ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取リタルト否  
トチ問ハス爲替手形ノ所持人ニ對シテ滿期日ニ爲替金額ヲ  
支拂フノ義務ヲ支拂人ニ負ハシム又所持人カ引受ノ旨ヲ記  
シタル爲替手形ヲ還付シタル後ハ強暴又ハ詐欺ノ場合ヲ除  
クノ外之ヲ取消スヲ得ス  
第七百三十七條 引受ハ支拂人カ爲替手形ニ日附ヲ爲スノ外  
引受ノ旨ヲ記シテ署名捺印ヲ爲シ又ハ署名捺印ノミヲ爲ス  
ニ因リテ成ル此方式ニ依ラサル引受ノ効力ハ第八百五條ノ  
規定ニ從フ  
第七百三十八條 即日ニ引受ヲ爲サス又ハ條件若クハ其他ノ  
制限ヲ以テ之ヲ爲シタルキハ引受人ハ其引受ノ爲メ當然羈  
束セラレモ所持人ハ之ヲ拒ミタリト看做ストテ得若シ爲

替金額ノ一分ニ付テノミ引受ヲ爲シタルキハ他ノ部分ニ付  
テハ其引受ヲ拒ミタリト看做ス  
第七百三十九條 支拂人カ引受ノ全部若クハ一分ヲ拒ミタル  
キ又ハ第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リテ  
引受ヲ拒ミタリト看做ス可キキハ所持人ハ拒證書ノ作成ヲ  
遅延ナク振出人又ハ裏書讓渡人ニ通知ス可シ若シ此通知ヲ  
爲サルキハ之ヲ受ケサリシ者ニ對シテ償還請求權ヲ失フ  
又右ノ通知ヲ爲シタル所持人ハ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對  
シテ爲替金額及ヒ拒證書ノ費用并ニ逆爲替ノ費用ヲ滿期日  
ニ支拂フニ付テノ擔保ヲ求ムルノ權利ヲ有シ各裏書讓渡  
人ハ自ラ擔保ヲ爲シタルト否トチ問ハス前者ニ對シテ右同  
一ノ權利ヲ有ス但拒證書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ擔保ヲ  
供スルノ義務ナシ

當事者ノ一人カ爲シタル通知及ヒ其受ケタル擔保ハ其後者  
 職員ノ爲メニモ効力アリ  
 第七百四十條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ擔保ヲ爲スニ換ヘテ  
 前條ニ掲ケタル一切ノ金額ヲ即時ニ所持人ニ支拂ヒ又ハ即  
 時ニ供託所ニ寄託スルヲ得  
 第七百四十一條 擔保又ハ寄託ハ後ニ至リ爲替手形ノ引受ア  
 リタルキ又ハ爲替金額若クハ償還金額ノ支拂アリタルキ又  
 ハ所持人カ時効若クハ懈怠ニ因リテ爲替手形上ノ權利ヲ失  
 ヒタルキハ其生シタル費用ヲ引去リテ之ヲ還付スルヲ要  
 ス  
 第七百四十二條 第七百四十條ノ規定ニ從ヒテ爲替金額及ヒ  
 費用ヲ所持人ニ支拂ヒタル者ハ其所持人ニ對シテ裏書讓渡  
 ナ求メ且爲替手形ト共ニ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交

付ヲ求ムルヲ得  
 第四款 榮譽引受 其前各ハ  
 第七百四十三條 支拂人カ引受ヲ拒ミタル爲替手形ニ同地ニ  
 於ケル豫備支拂人ヲ掲ケタルキハ其爲替手形ヲ拒證書ト共  
 ニ引受ノ爲メ遅延ナク豫備支拂人ニ呈示ス可シ  
 第七百四十四條 豫備支拂人ヲ掲ケサルキト雖モ支拂人及ヒ  
 第三者ハ拒マレタル爲替手形ヲ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮  
 譽ノ爲メニ引受クルヲ得然レモ所持人ハ此ノ如キ参加ヲ  
 許諾スルノ義務ナシ  
 第七百四十五條 二人以上ノ参加人アルキハ最モ多數ノ義務  
 者ノ榮譽ノ爲メニ引受ヲ爲ス者ヲ以テ榮譽引受人トス若シ  
 受榮譽者ヲ記載セサルキハ振出人ヲ受榮譽者ト看做ス  
 第七百四十六條 豫備支拂人ノ引受其他所持人カ許諾シタル

參加人ノ引受ハ榮譽者及ヒ其後者ニ擔保ヲ供スルノ義務  
ヲ免カレシム  
第七百四十七條 榮譽引受ハ支拂人カ支拂ヲ爲サ、ルキニ於  
テ參加人ニ滿期後爲替金額ヲ支拂フノ義務ヲ負ハシム  
第七百四十八條 榮譽引受ハ參加人爲替手形ニ之ヲ記載シテ  
署名捺印シ且拒證書若クハ其附箋ニ之ヲ記載スルヲ要ス  
第七百四十九條 拒證書ハ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之  
ヲ參加人ニ交付シ參加人ハ遅クモ拒證書作成ノ翌日榮譽  
者ニ榮譽引受ヲ爲シタル旨ヲ通知シテ拒證書ヲ送付スル  
ヲ要ス若シ此事ヲ怠ルキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ責  
任ヲ負フ  
第七百五十條 受榮譽者及ヒ其前者ハ擔保ヲ求ムルノ權利ヲ  
有ス然レモ所持人ハ第七百四十四條ニ依リテ榮譽引受ヲ許

諾セサルキニ非サレハ之ヲ有セス  
第五款 保證  
第七百五十一條 爲替手形ニ於テ爲替債務者ノ署名ニ自己ノ  
署名ヲ添フル第三者ハ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負フ  
第七百五十二條 前條ノ義務ヲ負擔スルニハ別ニ書面上ノ陳  
述ヲ以テスルヲ得  
第七百五十三條 爲替保證ノ義務ハ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ制  
限スルヲ得然レモ其制限ハ契約ヲ爲シタル當事者間ニノ  
ミ効力アリ  
第六款 支拂  
第七百五十四條 爲替金額ハ爲替手形ニ記載シタル貨幣ヲ以  
テ之ヲ支拂フ可シ若シ特ニ貨幣ノ種類ヲ表示セサルキハ支  
拂地ニ於テ商人間ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂ヲ爲スノ意思



ナリト推定ス

第七百五十五條 支拂ハ第七百七十八條ノ場合ヲ除クノ外ハ支拂人カ引受ヲ爲シタルト否トヲ問ハス満期日ニ支拂人ノ方ニテ之ヲ受クルモノトス

支拂恩惠期日ハ之ヲ許サス然レモ其地慣習ノ支拂日ハ之ヲ遵守スルヲ要ス

第七百五十六條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルキハ其前ノ業日ヲ以テ支拂日トス

第七百五十七條 一覽拂爲替手形ハ呈示ノ日ニ満期ト爲ル若シ日附後二年内ニ呈示ヲ爲サ、ルキ又ハ二年内ノ呈示期間ヲ其手形ニ定メサルキハ日附後二年内ヲ以テ満期ト爲ル若シ正當ノ時期ニ呈示ヲ爲サ、ルキハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第七百五十八條 債權者カ爲替金額ヲ満期日ニ受取ラサルキハ支拂人ハ債權者ノ費用及ヒ危険ニテ其金額ヲ供託所ニ寄託スルヲ得此場合ニ於テハ支拂人ハ甚シキ怠慢ニ付テノミ責任ヲ負フ

第七百五十九條 債權者ハ満期日前ニ支拂ヲ受クルノ義務ヲシ若シ満期日前ニ支拂ヲ爲シタルキハ債務者其危険ヲ負擔ス

第七百六十條 債務者ハ満期ノ時又ハ後ニ所持人ニ支拂ヲ爲スヲ以テ其責ヲ免カル但其際債務者ニ甚シキ怠慢アリタルキハ此限ニ在ラス

第七百六十一條 支拂ハ受取證ヲ記シタル爲替手形ノ交付ト引換ニ非サレハ之ヲ受クルヲ得ス債權者ハ一分ノ支拂ヲ拒ムヲ得ス但一分ノ支拂ノ場合ニ

在テハ爲替手形ニ其支拂ヲ記入シ且其支拂ニ付テノ別段ノ  
受取證ヲ債務者ニ交付ス可シ  
第七百六十二條 爲替手形ヲ數通ニシテ振出シタルキハ債務  
者ハ其中ノ孰レニ依リテ支拂ヲ爲スモ此ニ因リテ其責ヲ免  
カル然レモ裏書アル一通又ハ支拂人ノ引受ヲ記シタル一通  
ヲ所有者トシテ占有スル第三者ノ權利ヲ妨ケス  
第七百十條及ヒ第七百十一條ノ規定ハ一爲替手形ノ數通ノ  
引渡及ヒ喪失ニモ之ヲ適用ス  
第七百六十三條 引受人ハ一爲替手形ノ數通中ニテ其引受ヲ  
記セサルモノニ對シテハ擔保ヲ供セシメタル上ニ非サレハ  
支拂ヲ爲スノ義務ナシ引受ヲ記シタル爲替手形數通アル場  
合ニ在テハ之ヲ合シテ引渡サ、ルキモ亦同シ若シ擔保ノ提  
供ヲ爲スニ拘ハラズ引受人カ支拂ヲ拒ムキハ所持人ハ拒證

書ヲ作ルヲ得  
第七百六十四條 滿期ノ時又ハ後ニ於テ爲替手形上ノ正當ノ  
所持人ニ爲ス支拂ハ其所持人カ破産宣告ヲ受ケタル場合又  
ハ第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ限り裁判所ノ命令  
ヲ以テノミ之ヲ差押フルヲ得  
第七百六十五條 支拂ニ對シ前條以外ノ方法ヲ以テスル故障  
又ハ債務者ノ知ラサル人ニ爲ス支拂ニ付テハ第四百條ノ規  
定ヲ適用スルヲ得  
第七百六十六條 第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ在テ  
ハ爲替手形ニ付キ自己ノ所有權ヲ疏明シ且裁判所ノ命令ヲ  
得タル者ハ判決ノ確定前ニ擔保ヲ供シテ爲替金額ノ支拂ヲ  
求メ又ハ擔保ヲ供セスシテ爲替金額ヲ供託所ニ寄託スルヲ  
求ムルヲ得此寄託ノ場合ニ在テモ第七百五十八條ノ規定

ヲ適用ス

第七百六十七條 支拂人カ正當ノ理由ナクシテ滿期日ニ爲替金額ノ支拂又ハ寄託ヲ拒ムキハ所持人ハ其次ノ業日ニ拒證書ヲ作り且所持人カ償還請求ヲ爲サント欲スル者ニ拒證書ノ作成ヲ通知スルヲ要ス然レモ所持人ハ爲替手形ニ明記アルニ因リテ拒證書作成ノ義務ヲ免カル、ヲ得

第七款 榮譽支拂

第七百六十八條 拒マレタル爲替手形ハ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メ榮譽引受人、支拂人又ハ第三者之ヲ支拂フヲ得

第七百六十九條 豫備支拂人其他ノ参加人ノ引受ヲ記シタル爲替手形ハ拒證書作成ノ後直ニ榮譽引受人ニ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ

第七百七十條 榮譽支拂若クハ其拒絕又ハ其提供ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ支拂拒證書又ハ其附箋ニ記載ス可シ

其拒證書ハ爲替手形ト共ニ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ榮譽支拂人ニ交付ス

第七百七十一條 榮譽支拂人ハ引受人、振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ所持人ノ權利ヲ承繼ス但其權利ヲ主張スルニハ所持人ト同一ノ義務ヲ履行スルヲ要ス

第七百七十二條 榮譽支拂ハ受榮譽者ノ後者總員ヲシテ責ヲ免カレシム

第七百七十三條 榮譽支拂ヲ提供スル者二人以上アルキハ支拂人ヲ以テ榮譽支拂人トシ之ニ次テハ最モ多數ノ義務者ヲシテ責ヲ免カレシムル者ヲ以テ榮譽支拂人トス

第七百七十四條 所持人ハ榮譽支拂ヲ受クルヲ拒ムニ因リ

テ受榮譽者及ヒ其後者ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第八款 償還請求

第七百七十五條 支拂人カ滿期日ニ爲替手形ノ支拂ヲ爲サ、ルキハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ爲替金額及ヒ其利息并ニ不拂ニ因リテ生シタル一切ノ費用ニ付キ償還請求權ヲ有ス

第七百七十六條 所持人ハ爲替手形ヲ滿期日ニ支拂ノ爲メ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲サ、ルキハ滿期日ノ次ノ業日ニ支拂拒證書ヲ作ル可シ

第七百七十七條 支拂拒證書ハ既ニ引受拒證書ヲ作りタルキニモ債務者カ死亡シ又ハ破産宣告ヲ受ケ又ハ其所在ノ知レサルキニモ之ヲ作ル可シ

第七百七十八條 引受人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ滿

期日ニ於ケル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ要セス然レモ他所拂

爲替手形ハ他所拂人若シ他所拂人ノ記載ナキハ支拂人ニ其爲替手形ヲ支拂フ可キ地ニ於テ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲サ、ルキハ同地ニ於テ拒證書ヲ作ル可シ

第七百七十九條 引受人カ破産宣告ヲ受ケ其他資力ノ確カナラサルニ至リタル場合ニ於テ爲替支拂ノ爲メ十分ナル擔保ヲ供セサルキハ所持人ハ滿期日前ニ支拂拒證書ヲ作りテ償還請求ヲ爲スヲ得

第七百八十條 所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ノ各員又ハ總員ニ對シ償還請求ヲ爲スヲ得又償還請求ヲ受ケタル裏書讓渡人ハ其前者ニ對シテ同一ノ權利ヲ有ス

第七百八十一條 償還請求ヲ爲ス者ハ第七百三十九條ノ規定ニ依リテ引受拒證書作成ノ通知ヲ爲シタルニ拘ハラス尙ホ

其償還請求ヲ爲サント欲スル前者ニ書面ヲ以テ其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス其通知ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作りタル日ノ翌日、裏書讓渡人ニ在テハ通知書ヲ受取りタル日ノ翌日之ヲ爲ス可シ但裏書讓渡人ノ通知ハ其後ノ爲メニモ効力アリ

第七百八十二條 前者ニ對シテ償還請求ヲ爲シタルモ此カ爲メニ其後者ハ償還義務ヲ免カレス

第七百八十三條 拒證書作成ノ義務免除ニ因リテ拒證書作成ノ權利及ヒ償還請求權ハ消滅セス然レモ此場合ニ於テ其免除ヲ爲シタル者ノ後者ニ在テハ其免除ヲ爲シタル者ニ對シテ本ヲ以テ爲替手形ノ送付ヲ爲スト同時ニ書面ニテ償還請求ノ通知ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第七百八十四條 償還請求ノ訴ハ償還請求權ヲ得タル者ヨリ

償還請求ヲ受ク可キ者ニ對シ時効期間中何時ニテモ之ヲ起スコトヲ得

第七百八十五條 償還請求權ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取リタリトノ抗辯ノ爲メニ効力ヲ失フヲ無シ然レモ爲替資金ヲ供スルノ義務アル者ニ對シテハ其者カ爲替資金ヲ供セザリシトノ抗辯ヲ爲スコトヲ得

第七百八十六條 償還請求ハ左ノ額ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得

第一 爲替金額及ヒ滿期日ヨリ起算シタル年百分ノ七ノ利息

第二 拒證書ノ費用其他必要ナル立替金

第三 逆爲替ヲ振出シタルキハ其費用

第七百八十七條 償還請求權ヲ得タル者ハ償還義務者ニ對シ償還金額ヲ限トシテ其動産ノ假差押ヲ裁判所ニ申立ツルヲ

ヲ得然レモ償還請求ノ訴ヲ十四日內ニ起サ、ルキハ其差押  
ハ無効ト爲ル

所持人ハ引受人ニ對シテ右同一ノ權利ヲ有ス

第七百八十八條 償還義務者ハ爲替手形、拒證書及ヒ受取證ヲ  
記シタル償還計算書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ支拂ヲ爲ス  
ノ義務ナシ

第七百八十九條 爲替義務者ハ償還金額ノ支拂ト引換ニテ受  
取證ヲ記シタル爲替手形及ヒ支拂拒證書ノ交付ヲ所持人ニ  
求ムルノ權利アリ

第九款 拒證書作成

第七百九十條 拒證書ハ裁判所ノ役員又ハ公證人之ヲ作ルモ  
ノトス若シ其地ニ此等ノ人ナキハ被拒者ニ於テ證人二人  
ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ但其證人ハ成年ノ男子ニシテ成

ル可ク商人タルヲ要ス

第七百九十一條 拒證書ハ拒者ノ營業場若シ營業場ナキハ  
其住居ノ内若クハ傍ニ於テ之ヲ作ル可シ但拒者不在ナルキ  
又ハ臨席ヲ肯セス若クハ來入ヲ拒ムキト雖モ亦同シ

第七百九十二條 拒者ノ營業場及ヒ住居ノ知レサル場合ニ於  
テ支拂地ノ官署ニ問合ヲ爲スモ尙ホ知ルヲ得サルキハ拒  
證書ハ其官署内ニ於テ之ヲ作ルヲ要ス

第七百九十三條 法律上定メタル場所ノ外ニ於テハ拒者ノ承  
諾アルモ拒證書ヲ作ルヲ得ス

第七百九十四條 一般ノ休日ニハ拒證書ヲ作ルヲ得ス然レ  
モ通常ノ取引時間外ニ於テ之ヲ作ルハ妨ナシ  
第七百九十五條 拒證書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルヲ要ス  
第一 爲替手形ノ全文但最後ノ裏書ニ至ルマテ遺漏ナク

記載ス可シ

第二 拒者ノ臨席又ハ不在

第三 引受支拂又ハ擔保ノ要求及ヒ拒絶并ニ拒絶ノ理由

第四 右要求及ヒ拒絶ノ日并ニ場所

第五 榮譽引受又ハ榮譽支拂アルキハ其旨

第六 日附場所及ヒ臨席總員ノ署名捺印

若シ拒者カ署名捺印スルコトヲ欲セス又ハ署名捺印スルコト能

ハサルキハ其旨ヲ證書ニ明記ス可シ

第七百九十六條 第七百九十一條乃至第七百九十四條ノ規定

ハ引受又ハ支拂ノ爲メニスル呈示爲替手形數通ノ要求其他

本章ノ規定ニ從ヒ或人ノ方ニテ爲ス可キ行爲ニモ之ヲ適用

ス

第七百九十七條 第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ於テ

ハ其情況ヲ拒證書ニ明示シ且成ル可ク詳細ニ爲替手形ノ旨

趣ヲ記シテ爲替手形ノ全文ニ代フ

第七百九十八條 裁判所ノ役員又ハ公證人ハ其作リタル拒證

書ノ全文ヲ日々帳簿ニ記入シ且被拒者ノ求ニ因リテ數通ニ

之ヲ作ルノ義務アリ

拒證書作成ノ費用ハ被拒者之ヲ立替フルコトヲ要ス

第十款 逆爲替手形

第七百九十九條 所持人ハ償還金額ニ付キ各償還義務者ニ對

シテ逆爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第八百條 逆爲替手形ノ費用ノ額ハ仲買人手數料仲立人手數

料郵便税印紙税及ヒ支拂地ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛テ振

出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ因リテ定マル

右ノ相場ハ逆爲替手形ヲ遞次振出ス場合ト雖モ本爲替手形

ノ支拂地ヨリ振出地ニ宛テタル一覽拂爲替手形ノ相場ヲ超  
ユルヲ得ス此二箇ノ相場ハ仲立人ノ認證ヲ受クルヲ要  
ス

第八百一條 逆爲替手形ニハ拒マレタル爲替手形、拒證書、償還  
計算書及ヒ前條ノ二箇ノ相場認證書ヲ添フ可シ

第八百二條 逆爲替手形ヲ支拂ヒタル者ハ其前者中ノ一人ニ  
宛テ更ニ逆爲替手形ヲ振出スヲ得

第十一款 資金

第八百三條 振出人又ハ自己ノ計算ニテ爲替手形ヲ振出サシ  
メタル者又ハ明示シテ爲替資金ヲ供スルノ義務ヲ負ヒタル  
裏書讓渡人ハ支拂人ニ對シテ爲替資金ヲ供スルノ義務ヲ負  
フ

第八百四條 現金支拂ノ外爲替資金義務者カ支拂人ニ對シテ

有スル債權又ハ信用ハ之ヲ爲替資金ニ充ツルヲ得

第八百五條 方式ニ依ラサル引受ト雖モ其引受ニ依リテ引受  
人カ爲替資金義務者ヨリ爲替資金ヲ受取りタリトノ推定ヲ  
生ス但參加引受ヲ爲シタルハ此限ニ在ラス

第八百六條 爲替資金義務者ト所持人トノ間ニ在テハ爲替手  
形ノ引受ニ依リテ爲替資金ヲ供シタリトノ推定ヲ生セス

第八百七條 爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル支拂人ハ爲替資金ノ  
請求權ヲ爲替ノ原則ニ從ヒテ主張スルヲ得

第八百八條 支拂人ニ代ハリテ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル者  
ハ支拂人又ハ償還義務者ニ對シテ所持人ノ權利ヲ主張スル  
ヲ得

第八百九條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ爲替資金ヲ供シタルモ  
爲替手形ノ引受及ヒ支拂ニ付キ連帶ノ責任ヲ免カル、ヲ得



得ス然レモ其責任ハ別段ノ契約ヲ以テ其契約者間ニ於テノ  
 ミ之ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得  
 第八百十條 支拂人ハ爲替資金ヲ受取リタルキハ勿論假令之  
 ヲ受取ラサルモ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ對シ爲替手  
 形ノ引受及ヒ支拂ノ義務ヲ明示ニテ負擔シタルキハ引受若  
 クハ支拂ヲ爲サ、ルニ因リテ振出人其他ノ爲替資金義務者  
 ニ生セシメタル損害ニ付キ責任ヲ負フ但此損害ニ付テノ請  
 求ハ豫メ之ヲ支拂人ニ通知スルコトヲ要セス  
 第二節 約束手形  
 第八百十一條 約束手形ニハ左ノ諸件ヲ明瞭詳密ニ記載スル  
 コトヲ要ス  
 第一 振出ノ日附及ヒ場所  
 第二 支拂金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持  
 人ニ支拂フ可キ旨  
 第四 満期日  
 第五 約束手形ト引換ニテ支拂ヲ爲ス可キ旨  
 第六 振出人ノ署名捺印  
 第八百十二條 約束手形ハ振出人ノ指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ  
 得ス  
 第八百十三條 約束手形ニ別段ノ支拂地ヲ掲ケサルキハ振出  
 ノ場所ニ於テ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス  
 第八百十四條 約束手形ノ振出人ハ其振出ニ因リテ満期日ニ  
 支拂ヲ爲スノ義務ヲ負擔ス  
 振出人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ引受ヲモ支拂ノ爲  
 メノ呈示ヲモ拒證書ノ作成ヲモ要スルコト無シ然レモ一覽後

定期拂ノ約束手形又ハ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニ在テ  
ハ其振出人ニ關シテモ第七百三十五條及ヒ第七百七十八條  
ノ規定ヲ適用ス

第八百十五條 右ノ外爲替手形ニ關スル規定ハ性質上抵觸セ  
サルモノニ限リ約束手形ニモ之ヲ適用ス

### 第三節 引出切手

第八百十六條 引出切手ハ寄託其他ノ方法ニ依リ銀行ニ對シ  
テ繼續スル信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依頼シ之ヲシテ記名  
セラレタル人又ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ呈示ヲ  
受ケ次第或ル金額ヲ支拂ハシムル手形タリ

第八百十七條 引出切手ニハ日附ヲ爲シ振出人署名捺印ス可  
シ又引出切手ハ一覽拂トスルニ非サレハ之ヲ振出スヲ得  
ス其他銀行ト明示又ハ默示ニテ約定シタル振出ノ方式ハ之

ヲ遵守スルヲ要ス

第八百十八條 引出切手ハ裏書ヲ以テ之ヲ轉付スルヲ得若  
シ白地ニテ裏書讓渡ヲ爲シタルキ又ハ無記名式ニテ振出シ  
タルキハ交付ニ因リテ之ヲ轉付スルヲ得

第八百十九條 引出切手ハ引受ヲモ拒證書ヲモ要スルヲ無シ  
又引出切手ハ日附後三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ル若シ引出切手  
ヲ振出ノ日ヨリ三日内ニ支拂ノ爲メ呈示セス又ハ送付セサ  
ルキハ所持人ハ遲延ノ結果ヲ負擔ス

第八百二十條 呈示ノ上ニテ支拂ヲ受ケサルキハ日附後十日  
内ニ所持人ハ裏書讓渡人若クハ振出人ニ對シ裏書讓渡人ハ  
其前者若クハ振出人ニ對シテ償還請求權ヲ有ス然レモ振出  
人ニ對シテハ振出人カ信用ヲ有セス又ハ信用ヲ消盡シ又ハ  
依頼ヲ取消シタルキハ右期間ノ滿了後ト雖モ償還請求權ヲ

有ス  
 振出人ハ争アル場合ニ在テハ其引出切手帳ヲ裁判所ニ差出  
 スノ義務アリ  
 第八百二十一條 振出人又ハ所持人ハ引出切手ニ斜線其他ノ  
 符號ヲ附シテ特ニ銀行ノミニ支拂フ可キ旨ヲ表示スルヲ得  
 得  
 第八百二十二條 引出切手ハ支拂金ヲ受取ル時受取證ヲ記シ  
 テ之ヲ交付スルヲ要ス  
 第八百二十三條 日附ヲ爲サス若クハ虚偽ノ日附ヲ爲シテ引  
 出切手ヲ振出シ裏書讓渡シ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者又  
 ハ日附ナキ引出切手ヲ受取り支拂ヒ若クハ之ニ受取證ヲ記  
 スル者又ハ相當ノ信用ナクシテ引出切手ヲ振出シ若クハ正  
 當ノ理由ナクシテ依頼ヲ取消ス者ハ引出切手金額ノ百分ノ

十ノ過料ニ處ス若シ刑法上ノ刑ニ處ス可キ行爲アルキハ併  
 セテ其刑ニ處ス  
 前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス  
 第二編 海商  
 第一章 船舶  
 第八百二十四條 日本人民ノ所有ニ專屬シ又ハ日本ニ營業所  
 ナ有シ且日本ノ裁判權ニ服從スル會社其他ノ無形人ノ所有  
 ニ專屬スル商船其他ノ海船ハ日本ノ船舶ニシテ日本ノ國旗  
 ナ掲クルノ權利ヲ有ス  
 第八百二十五條 總テ日本船舶ハ航海ノ用ニ供スル以前ニ法  
 律命令ニ從ヒ職權アル者ノ測度ヲ受ク可シ若シ其積量十五  
 噸以上ナルキハ船籍港ヲ管轄スル裁判所ニ於テ船舶登記簿  
 ニ登記ヲ受ク可シ

端舟其他機樞ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ機樞ヲ以テ運  
轉スル舟ニハ本編ノ規定ヲ適用セス

第八百二十六條 船舶登記簿ニハ左ノ諸件ヲ登記シ且日附ヲ  
爲ス可シ

第一 船名及ヒ船籍港

第二 船舶構造ノ時及ヒ地ノ知レタルキハ其時及ヒ地又

船舶カ日本ノ船籍ニ歸シタルキハ其時及ヒ事情

第三 官ノ測度證書ニ基キタル船舶ノ種類、大小、積量及ヒ

詳細ナル記載

第四 船長ノ氏名及ヒ國籍

第五 一人又ハ數人ノ所有者ノ氏名、住所及ヒ詳細ナル記

載又船舶ノ所有權ニ付キ所有者ノ股分ノ割合及ヒ所有

權取得ノ合法ノ原因

第八百二十七條 登記ハ一人若クハ數人ノ所有者又ハ委任狀

ヲ有スル代人ノ陳述書ニ依リテ之ヲ爲ス其陳述書ニハ必要

ナル證明書ヲ添フルコトヲ要ス

登記ヲ爲シタルキハ其登記ト同文ノ船舶登記證書ヲ作りテ

之ヲ所有者ニ交付ス

第八百二十八條 船舶登記證書ノ交付前ニハ國旗ヲ掲クルノ

權利ヲ行フコトヲ得ス

船舶カ沈没シ又ハ其全部若クハ一分カ外國人若クハ外國會

社ノ所有ニ移リタルキハ其船舶ノ登記ノ取消ヲ爲シ且船舶

登記證書ヲ還納ス可シ

第八百二十九條 登記シタル事實ニ變更ノ生スルキハ船舶登

記簿及ヒ船舶登記證書ニ其變更ヲ附記ス可シ

登記シタル船名ハ官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更

スルヲ得ス  
第八百三十條 日本國外ニ於テ日本ノ人民會社其他ノ無形人  
カ外國ノ船舶ヲ取得シタルキハ初メテ日本ノ船籍港ニ到着  
スルマテハ其取得ノ地又ハ其近傍ニ駐在スル日本領事ニ差  
出シタル相當ノ陳述書ト領事ヨリ受取りタル證書トヲ以テ  
船舶登記簿ノ登記及ヒ船舶登記證書ニ代フルヲ得此場合  
ニ於テハ領事ハ其證書ノ謄本ヲ遲延ナク船籍港ノ管轄裁判  
所ニ送付スルヲ要ス但此證書ノ代用ハ一年ヲ限トス  
第八百三十一條 船舶登記證書ノ喪失シ毀損シ又ハ用ユ可カ  
ラサルモノト爲リタルキハ之ニ換ヘテ新ナル船舶登記證書  
若クハ前條ノ證書ノ交付ヲ求ムルヲ得  
第八百三十二條 船舶カ國旗ヲ掲クルノ權利ヲ有セスシテ之  
ヲ掲クルキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス又事情ニ從ヒ殊ニ不正

ノ船舶登記證書ヲ用井タルキハ其船舶ヲ沒收ス  
日本ノ船舶カ外國ノ國旗ヲ掲ケテ外國ノ國籍ヲ冒シタルキ  
ハ前項同一ノ罰ニ處ス但敵ヲ避クル場合ハ此限ニ在ラス  
第八百三十三條 日本ノ船舶カ船舶登記證書ノ交付前ニ國旗  
ヲ掲クルキ又ハ船舶登記簿ニ虛偽ノ登記ヲ爲サシメ若クハ  
虛偽ノ申立ヲ爲シタルキ其他本章ノ規定ニ違フキハ百圓以  
下ノ罰金ニ處ス  
第二章 船舶所有者  
第一節 船舶所有權ノ取得及ヒ移轉  
第八百三十四條 商船其他ノ海船ハ之ヲ動産トス但本法ニ例  
外ヲ定メタル場合ハ此限ニ在ラス  
第八百三十五條 船舶構造ノ契約及ヒ賣買其他ノ權利行爲ニ  
因リテ船舶ノ全部若クハ股分ヲ取得スルノ契約ハ特ニ作レ

ル契約證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ取結フヲ得ス  
相續、結婚其他此類ノ事由ニ因レル船舶所有權ノ移轉ハ裁判  
所ノ證書ヲ以テ之ヲ證スルヲ要ス

第八百三十六條 船舶ハ其所有者タラサル者ニ在テハ所有者  
ノ明示ノ委任ニ依ルニ非サレハ有効ニ之ヲ賣却スルヲ得  
ス然レモ船長ニ在テハ明示ノ委任ヲ受ケサルモ避ク可カラ  
サル必要アリテ官ノ證認ヲ經タル場合ニ於テハ特ニ競賣ヲ  
以テ有効ニ之ヲ賣却スルヲ得

第八百三十七條 船舶ノ取得時効ノ期間ハ二十年トス但船  
長ハ時効ニ因リテ船舶ヲ取得スルヲ得ス

第八百三十八條 船舶ノ所有權ハ別段ノ契約アルニ非サレハ  
航海ノ爲メニスル總テノ機裝物殊ニ桅檣、帆具、綱具、機關、碇錨、  
船用器具、端舟、貯蓄品及ヒ糧食ノ所有權ヲ包含ス但船長又ハ

船員ノ一身ニ屬スル所有物ハ此限ニ在ラス

第八百三十九條 航海中ニ船舶ヲ讓渡シタルキハ其航海ヨリ  
生スル利益及ヒ損失ハ別段ノ契約アルニ非サレハ取得者ニ  
移ル

第八百四十條 任意ニ爲ス船舶ノ賣却ハ船舶債權者ノ債權ニ  
對シテ船舶ノ負擔スル責任又ハ其賣買價額ノ負擔スル責任  
及ヒ讓渡人ノ一身上ノ義務ニ變更ヲ生スルヲ無シ強制賣却  
又ハ必要賣却ノ場合ニ在テハ船舶ノ負擔スル責任ハ當然賣  
買價額ニ移ル

第二節 船舶所有者ノ權利及ヒ義務  
第八百四十一條 船舶ノ所有權カ二人以上ノ股分所有者ニ屬  
スルキハ航海ニ關スル一切ノ業務ニ付キ其代理トシテ船舶  
管理人ヲ置クヲ要ス

第八百四十二條 所有者ハ船長及ヒ船員ノ職務施行ニ關スル行爲ニ付テハ船舶及ヒ運送賃ヲ以テ責任ヲ負フ若シ船長カ同時ニ所有者ナルキハ船長ハ無限ノ責任ヲ負フ然レモ股分所有者ナルキハ過失ノ爲メ自己ニ不分ノ責任ノ歸セサルキニ限り其股分ノ割合ニ應シテ責任ヲ負ヒ尙ホ不足アルキハ其不足額ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ

第八百四十三條 所有者ハ船長ヲ任シ又隨意ニ之ヲ免スルヲ得又書面ノ契約アルニ非サレハ船長ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セス

第八百四十四條 船長カ同時ニ股分所有者ナル場合ニ在テ其意ニ反シ罷免セラレタルキハ自己ニ屬スル股分ノ價額ノ支拂ヲ求ムルヲ得但其價額ハ鑑定人ノ鑑定ニ從フ

第八百四十五條 二人以上ノ股分所有者ノ間ニ在テハ船舶ニ

關スル總テノ事件ハ議決權ノ過半數ヲ以テ決定ス其過半數ハ各所有者ノ股分額ニ從ヒテ之ヲ算ス

過半數ノ決議ヲ得ルニ至ラサルキハ議決權ノ半數ノ決議ヲ以テ船舶ノ競賣ヲ求ムルヲ得

或ル股分所有者カ必要ナル新支出ニ同意セサルキハ其所有者ハ自己ノ股分ヲ他ノ股分所有者ニ委付シテ賦課金ノ義務ヲ免カル、ト得但股分額カ賦課金ヲ超ユルキハ其超過額ノ支拂ヲ受クルト得

第八百四十六條 各船舶所有者ハ總テノ費用及ヒ損失ヲ扣除シタル後ニ非サレハ航海ニ因リテ生スル利益ヲ請求スルノ權利ナシ

第八百四十七條 股分所有者ハ他ノ股分所有者又ハ船舶管理人ノ承諾ヲ受ケスシテ何時ニテモ自己ノ股分ヲ自由ニ讓渡

スコヲ得

第八百四十八條 船舶股分ノ所有權ノ移轉ニ因リテ船舶カ其國籍ヲ失フ可キハ他ノ股分所有者ハ右ノ股分ヲ自己ノ計算ニ引受ケ又ハ其股分ヲ所有スル資格アル者ニ競賣センヲ求ムルノ權利アリ但自己ノ計算ニ引受クル場合ニ在テ己ムヲ得サルハ裁判上ノ手續ヲ以テ其股分ノ價額ヲ定ム

第三章 船舶債權者

第八百四十九條 船舶ハ第三者ノ占有ニ在ルキト雖モ其附屬物及ヒ未收ノ運送貨ト共ニ左ニ掲クル債權ノ爲メ以下ノ順序ニ從ヒテ責任ヲ負フ  
第一、船舶ノ強制賣却及ヒ其賣却金ノ分配ニ係ル裁判上ニ其他ノ費用、強制賣却ノ開始以來船舶及ヒ附屬物ノ監守并ニ保全ノ費用

第二、船舶航海ノ諸稅即チ港稅、噸稅、燈臺稅其他ノ稅捐

第三、入港以來船舶及ヒ附屬物ノ保全ノ費用、水先案内料及ヒ挽船料

第四、最後ノ航海中ノ大海損及ヒ救援、救撈其他救助ニ付テノ費用

第五、最後ノ雇入契約期間中其契約ヨリ生スル船長及ヒ船員ノ債權

第六、最後ノ航海中船舶ノ需用ノ爲メ船長ノ爲シタル借入ニ付テノ債權及ヒ同一ノ目的ノ爲メ船長ノ賣却シタル積荷、船長ニ渡シタル物若クハ給シタル勞役ニ付テノ求償權

第七、未タ航海ヲ爲サル船舶ノ賣却、構造又ハ修繕裝ヨリ生スル債權并ニ勞役賃及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル修



繕、艙裝又ハ糧食準備ヨリ生スル債權但出港セサル前ニ  
 限ル  
 第八 船舶ノ構造又ハ艙裝ノ爲メノ消費貨ヨリ生スル債  
 權及ヒ船舶カ未ダ引渡サレサル間ハ自己ノ計算ニテ構  
 造セシムル者ノ爲シタル代價割拂ニ付テノ債權  
 第九 最後ノ航海又ハ最後ノ保険料支拂期間ニ係ル船舶  
 及ヒ附屬物ノ保険料ニ付テノ債權  
 第十 船長又ハ船員ノ過失ニ因リテ積荷若クハ旅客ノ旅  
 荷物ヲ引渡サス又ハ之ニ損害ヲ加ヘタルヨリ生スル債  
 權  
 第十一 船舶ノ衝突其他船長又ハ船員ノ過失ノ場合ニ於  
 ケル損害賠償ニ付テノ債權  
 第十二 船舶登記簿ニ記入シタル債權但其記入ノ日附ノ

順序ニ從フ  
 第十三 右ノ外船舶ノ所有者又ハ賣却者ニ對スル總テノ  
 債權  
 同一號内ニ於ケル二人以上ノ債權者ハ同一ノ割合ヲ以テ辨  
 償ヲ受ク但第十二號ノ場合ハ此限ニ在ラス  
 第八百五十條 運送貨ノ負擔スル責任ハ最後ノ航海ノ運送貨  
 ヲ以テ限トシ一航海ノ爲メ又ハ一航海中ニ生シタル債權ニ  
 對シテハ其航海ノ運送貨ヲ以テ限トス  
 第八百五十一條 記入セサル債權ニ付キ船舶又ハ運送貨ノ負  
 擔スル責任ハ任意ノ讓渡ノ場合ニ在テハ船舶カ讓渡人ノ債  
 權者ノ異議ヲ受クルコト無ク取得者ノ名義及ヒ計算ニテ船籍  
 港ヨリ新ニ航海ヲ爲シ且其發航以來少ナクモ六十日ヲ經過  
 シタル後消滅ス

第八百五十二條 船舶ニ對スル債權ノ記入ハ第八百五十七條ノ場合ヲ除クノ外ハ登記ヲ受ケタル船舶ニシテ特ニ作レル抵當證書ニ依ルニ非サレハ之ヲ許サス  
 右ノ記入ハ其日附ヨリ起算シテ三箇年間其効ヲ有ス若シ此期間滿了前ニ之ヲ更新セサルキハ其効ヲ失フ  
 第八百五十三條 記入ハ船舶登記簿ニ之ヲ爲ス又其記入ニハ左ノ諸件ヲ包含スルコトヲ要ス  
 第一 債權者及ヒ債務者ノ氏名住所  
 第二 債權ノ額及ヒ其合法ノ原因  
 第三 抵當證書ノ日附  
 第四 記入ノ時日  
 第八百五十四條 記入ヲ爲シタルキハ記入證書ヲ交付ス若シ其以前ニ記入シタル債權アルキハ其債權ヲモ併記ス可シ此

證書ハ裏書ヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得其裏書讓渡ハ船舶登記簿ニ記入ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シテ其効ヲ有セス  
 第八百五十五條 記入シタル債權ハ債權者ノ書面上ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リテ消滅ス此場合ニ於テハ記入證書ヲ裁判所ニ還納シ裁判所ハ其證書ニ債權消滅ノ旨ヲ記ス可シ  
 第八百五十六條 船舶債權者ハ其債權ノ證據完全ナルキニ限リ裁判所ノ命令ニ依リテ船舶ノ競賣ヲ爲スコトヲ得但法律上ノ優先權ハ此カ爲メニ妨ケラル、コト無シ  
 船舶ノ股分ニ付テノミ債權ヲ記入シ又ハ股分所有者ニ對シテノミ之ヲ主張スルキハ其債權ニ關スル股分ノミノ競賣ヲ爲スコトヲ得但其股分ノ額カ船舶全部ノ額ノ半ヲ超ユルキハ此限ニ在ラス  
 第八百五十七條 船舶債權者ノ權利ハ構造中ノ船舶ニ對シテ

モ之ヲ行フヲ得  
構造中ノ船舶ノ登記ハ其登記ヲ受クルニ至ルマテハ將來船  
籍ヲ定ム可キ地ノ登記官廳ニ相當ノ明告ヲ爲スヲ以テ之ニ  
代フ

第八百五十八條 船舶カ沈没シ又ハ航海ノ用ニ耐ヘサルニ至  
ルキハ船舶債權者ノ權利ハ救助セラレタル部分若クハ尙ホ  
存在スル部分又ハ其實得金及ヒ被保險額ニ移ル  
船舶債權者ノ債權ハ其債權者ヨリ獨立シテ之ヲ保險ニ付ス  
ルヲ得

第八百五十九條 船舶ハ發航ノ準備ヲ終リタル時ヨリシテ債  
務ノ爲メニ差押ヘラル、  
一無ク又其乗組員ハ引留メラル、  
二無シ但其爲サントスル航海ノ爲メニ負ヒタル債務ニ付テ  
ハ此限ニ在ラス

#### 第四章 船長及ヒ船員

##### 第一節 船長

第八百六十條 船長其他ノ船舶指揮者ハ其職務ノ執行ニ當リ  
些少ナル過失ニ付テモ責任ヲ負ヒ殊ニ積荷ニ付キ及ヒ旅客  
ノ安全并ニ其旅荷物ニ付キ責任ヲ負フ

第八百六十一條 船長ハ或人ノ指圖ヲ受ケテ爲シタル行爲ニ  
付テハ其人カ其情況ヲ知りタルキニ限り其人ニ對シテ責任  
ヲ免カル

船長カ其特別ナル職務上ノ義務ニ背反スルキハ不可抗力又  
ハ意外ノ情況ニ因リテ惹起シタルニ非サル災害ニ付キ責任  
ヲ負フ

第八百六十二條 船長ハ航海ノ際船舶ノ航海ニ耐フル船舶  
ノ艤裝、船員ノ具備、糧食ノ準備并ニ積荷ノ配置ノ適當ナルヲ

必要ノ底荷ヲ具備スルヲ過分ノ積荷ヲ爲サ、ルヲ及ヒ過分ノ旅客ヲ載セサルヲニ付キ注意ヲ爲ス可シ

第八百六十三條 船長ハ船員ヲ選擇シテ雇入レ乗組員ヲ編成シ船舶ヲ修繕シ機裝シ及ヒ運送契約ヲ取結フノ權利ヲ有ス然レモ此等ノ事項ニ關シテハ船舶所有者又ハ其代人ノ指圖ニ從フヲ要ス

第八百六十四條 船長ハ航海ノ際船舶登記證書、航海日記、船員名簿、稅關ノ納稅受取證書、運送契約并ニ積荷ニ關スル書類及ヒ旅客名簿ヲ船中ニ備フ可シ

第八百六十五條 航海日記ハ船長ノ監督ヲ受ケテ一等役員之ヲ掌リ船舶、船員、旅客及ヒ積荷ニ關スル總テノ情況并ニ事故殊ニ左ノ諸件ヲ日日之ニ記載ス

第一 船舶ノ發航地、立寄地、通航地ノ名

第二 風候、天氣及ヒ潮流

第三 進航シタル線路及ヒ經過シタル距離

第四 測知シタル經度及ヒ緯度

其他時宜ニ因リテ左ノ諸件ヲモ記載ス

第一 海水ノ深度、溫度及ヒ漏水ノ度

第二 水先案内者又ハ挽船ノ雇入

第三 船舶會議ノ決議

第四 船員ノ變更

第五 總テノ災害、特別ノ事故并ニ船舶内ノ犯罪及ヒ懲戒處分

第八百六十六條 船長ハ航海ノ始ヨリ終ニ至ルマテ自ラ船中ニ在リ且其委任ヲ受ケタル航海ヲ遲延ナク又迂路ヲ取ラスシテ爲スヲ要ス

第八百六十七條 船長ハ到達地ニ到着ノ後二十四時内ニ其地ノ管海官廳若クハ地方官廳ニ出頭シテ檢閲證ヲ受クル爲メ航海日記ヲ差出シ同時ニ報告ヲ爲スヲ要ス其報告ニハ船名噸數積荷發航ノ地及ヒ時經過シタル線路風候天氣及ヒ潮流若シ死亡其他ノ災害若クハ船舶ノ現狀ニ變更アルキハ其事由及ヒ航海中ニ生シタル著シキ事故ヲ包含ス此報告ヲ爲ス前ニハ荷卸ヲ爲スヲ得ス但急迫ナル場合ハ此限ニ在ラス

第八百六十八條 航海中ニ避難港ニ入ルノ必要ト爲リテ入港シタルキハ船長ハ遲延ナク其港ノ管海官廳若クハ地方官廳ニ出頭シ入港ノ事由及ヒ情況ニ付テノ報告ヲ爲シテ筆記ヲ受クルヲ要ス其筆記ハ公文ト爲シテ船舶所有者ニ又求ニ因リテ其他ノ利害關係者ニ其者ノ費用ニテ之ヲ交付ス

第八百六十九條 船長ハ航海中ニ危險ノ生シタルキハ役員其他重立タル船員ト評議ヲ爲シタル場合ノ外ハ如何ナル事情アルモ船舶ヲ放棄スルヲ得ス其船舶ヲ放棄スル場合ニ於テハ船長ハ最後ニ去ル可ク且成ル可ク人命書類貨物及ヒ船舶ヲ救助スルノ責任ヲ負フ

第八百七十條 破船其他船舶放棄ノ場合ニ在テハ船長ハ遲延ナク最近ノ管海官廳又ハ地方官廳ニ出頭シテ其事由及ヒ情況ヲ報告ス可シ其官廳ハ報告ヲ認定シ若クハ補充スル爲メ船員及ヒ旅客ヲ訊問シ其他必要ナル調査ヲ爲スヲ得

第八百七十一條 船長ハ航海中必要ナル場合ニ在テハ役員ト評議ヲ爲シタル後船舶ニ存在スル總テノ食料ノ何人ニ屬スルヲ問ハス乗込人ノ需用ノ爲メニ之ヲ處分スルヲ得但其價額ヲ賠償スルヲ要ス

第八百七十二條 船長ハ航海中船舶ノ修繕其他必要ナル需用ノ爲メ他ニ其費用支辨ノ途ナキ場合ニ於テ船舶所有者若クハ其代人ノ現在セサルキハ豫メ役員ト評議ヲ爲シ且管海官廳若クハ地方官廳ノ認可ヲ得タル後船舶ヲ抵當ト爲シ又ハ積荷ノ全部若クハ一分ヲ質入シ若クハ賣却スルヲ得其積荷ヲ質入シ若クハ賣却シタルキハ積荷所有者ハ其荷卸ノ地及ヒ時ニ於ケル代價ニ應シテ損害賠償ヲ求ムルノ權利アリ

第八百七十三條 船長ハ航海ヲ始ムル際及ヒ終リタル後又求アルキハ何時ニテモ船舶所有者ニ報告ヲ爲シ及ヒ計算ヲ爲スヲ要ス

第八百七十四條 船長及ヒ船員ハ船舶所有者ノ承諾ナクシテ自己ノ計算ニテ貨物ヲ船舶ニ積入ル、ヲ得ス之ニ違フキハ船舶所有者ハ運送貨ト貨物ヨリ生シタル利益トヲ自己ノ

有ニ歸スルヲ得

第二節 船員

第八百七十五條 船員ノ雇入及ヒ雇止ハ其雇入地ノ管海官廳其他特ニ定メタル官廳ニ於テ船員名簿ニ登記シ若クハ其登記ヲ削除スルニ依リテ之ヲ爲ス

第八百七十六條 船員雇入ノ條件ハ船員名簿ノ旨趣別段ノ契約又ハ商慣習ニ因リテ定マル

船員ハ非常ノ服務ノ爲メ特別ノ報酬ヲ請求スルヲ得ス

第八百七十七條 十分ナル理由ナクシテ雇止メラレタル船員ハ既ニ受取ル可キニ至リタル給料ノ外尙ホ其雇止ノ爲メニ失ヒタル給料ノ半額ヲ損害賠償トシテ受クルノ權利アリ然レモ其額ハ一个月ノ給料ヲ超ユルヲ得ス

禁令若クハ船舶差押ニ因リテ航海ヲ廢止シ停止シ又ハ短縮

シタルハ之ヲ雇止ノ十分ナル理由ト看做ス  
 第八百七十八條 航海中十分ナル理由ナクシテ雇止メラレタル船員ハ發航シタル港マテノ無賃送還ヲ請求スルノ權利アリ  
 船長カ其船員ヲシテ發航シタル港ニ航行スル船舶ニ於テ相當ノ職務ニ就カシメタルキハ右ノ請求ニ應シタルモノトス  
 第八百七十九條 定マリタル航海ノ爲メニスル雇入ノ場合ニ在テハ船員ハ其航海ノ延長シタルキハ割合ニ應シテ増給ヲ受クルノ權利アリ  
 第八百八十條 船舶カ航海ヲ終ラサル前ニ沈没シタルキハ船員ハ給料ノ請求權ヲ失フ但船員ノ勞動ニ因リテ救助シタル船舶若クハ積荷ノ部分ニ付テハ此限ニ在ラス  
 船舶カ掠奪セラレ又ハ修繕ノ効ナキモノト言渡サレタル場合ニ於テハ船員ハ既ニ受取ル可キニ至リタル給料及ヒ發航

シタル港マテノ無賃送還ヲ請求スルヲ得  
 第八百七十八條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス  
 第八百八十一條 給料ノ請求權ハ船員カ船舶又ハ積荷ノ碎殘物ノ救撈ニ從事シタル日數ニ付テモ成立ス  
 第八百八十二條 就役ノ後疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ被フリタル船員ハ三ヶ月ヲ超エサル期間看護及ヒ治療ヲ請求スルノ權利アリ但自己ノ過失ニ因リテ疾病又ハ傷痍ヲ惹起シタルキハ此限ニ在ラス  
 第八百八十三條 船員カ就役ノ後死亡シタルキハ其死亡ノ日マテノ給料ハ其相續人ニ歸シ又船舶ノ防禦ノ際死亡シタルキハ全航海ニ付テノ給料全額カ其相續人ニ歸ス  
 海上又ハ外國ニ於テ爲ス葬式ノ費用ハ船舶所有者之ヲ負擔

ス

第八百八十四條 船員ハ就役ノ後ハ船長又ハ其代人ノ許可ヲ

受クルニ非サレハ船舶ヲ離ル、ヲ得ス

船員遁走シタル片ハ地方官廳ニ依頼シ強制シテ復役セシム

ルヲ得復役セシムルヲ得サル場合ニ在テハ其船員ハ既

ニ受取ル可キニ至リタル給料及ヒ其遺留物ヲ請求スルノ權

利ヲ失フ

第八百八十五條 本節ノ規定ハ船長ニモ之ヲ適用ス但別段ノ

規定アルキ又ハ性質上當然反對ノ生スルキハ此限ニ在ラス

第八百八十六條 船員ノ義務背反殊ニ不從順及ヒ抵抗ハ船長

懲戒權ヲ以テ之ヲ制止ス

第五章 運送契約

第一節 船舶貸借契約

第八百八十七條 航海ノ爲メニ船舶ノ全部若クハ一分ヲ貸借  
借スル契約ハ書面ニ作りテ當事者各自ニ其一通ヲ所持スル  
ヲ要ス

賃貸人ハ航海前又ハ航海中已ムヲ得サル場合ニ於テハ賃借  
人ノ不利ト爲ラサルキニ限り契約書ニ記シタル船舶ヨリ他  
ノ船舶ニ自費ヲ以テ運送品ヲ積換ユルヲ得

第八百八十八條 繫船場碇泊期間超過碇泊期間ト超過碇泊ニ  
付テノ損害賠償トハ別段ノ契約アルニ非サレハ其地ノ慣習  
ニ依リテ之ヲ定ム

第八百八十九條 碇泊期間及ヒ超過碇泊期間ノ計算ニハ一般  
ノ休日及ヒ風雨其他天然若クハ法律上ノ妨礙ニ因リテ荷積  
又ハ荷卸ヲ妨ケラレタル日ヲ算入セス

第八百九十條 月又ハ其他ノ時限ヲ以テ運送賃ヲ定メタルキ



ハ其時限ハ別段ノ契約アルニ非サレハ航海ヲ始ムル日ヨリ  
之ヲ起算ス

第八百九十一條 航海ヲ始ムル前に到達地トノ貿易及ヒ交通  
ノ禁止セラレタルキハ契約ハ解除シタルモノトス但此カ爲  
メニ當事者ノ中孰レニモ損害賠償ヲ求ムルノ權利ヲ生スル  
コト無シ

航海中ニ右ノ禁止ニ因リテ船舶カ歸航セサルヲ得サルキハ  
往返航海ノ爲メニ賃借シタルキト雖モ往路ノ運送賃ニ限り  
支拂フコト要ス

右二箇ノ場合ニ於テハ荷積及ヒ荷卸ノ費用ハ賃借人ノ負擔  
トス  
第八百九十二條 到達港カ封港又ハ其他ノ處分ニ因リテ閉鎖  
セラレタルキハ船長ハ別段ノ指圖ヲ受ケサルカ又ハ受ケタ

ル指圖ヲ實行スル能ハサルニ於テハ賃借人ノ利益ヲ謀リ最

近ノ港ニ入航スルカ又ハ發航ノ港ニ歸航スルコトヲ要ス

第八百九十三條 不可抗力ニ因リテ航海ノ起始又ハ繼續カ一  
時妨ケラレタルキハ契約ハ仍ホ効力ヲ有シ當事者ノ孰レニ  
モ損害賠償ヲ求ムルノ權利ヲ生スルコト無シ然レモ賃借人ハ  
自費ヲ以テ積荷ヲ處分スルノ權利ヲ有ス

第八百九十四條 荷積ヲ始ムル前に在テハ賃借人ハ運送賃ノ  
半額ヲ支拂ヒテ契約ヲ解除スルコトヲ得若シ碇泊期間ニ一モ  
積荷ヲ引渡サ、ルキハ契約解除ト看做サレ又運送賃ノ半額  
ヲ支拂フコト要ス

第八百九十五條 賃借人ハ其過失ニ因リテ積荷ヲ沒收セラレ  
又ハ差押ヘラレタルキハ運送賃ノ全額ヲ支拂ヒ且此カ爲メ  
ニ生シタル損害ヲ賠償スルノ義務アリ

第八百九十六條 船長ハ賃借人カ約定シタル積荷ノ全部ヲ積込マサルキト雖モ契約ヲ解除セサルニ於テハ航海ヲ爲スノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ此場合ニ於テ運送貨ノ全額ニ對スル擔保ヲ缺クキハ更ニ其擔保ヲ求メ又積荷ノ不十分ナル爲メニ損害ヲ生シタルキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得

第八百九十七條 他ノ運送品ニ付キ得タル收入及ヒ航海ヲ止メタルニ因リテ減シタル費用ハ運送貨ヨリ之ヲ扣除スルコトヲ得ス但第九百五條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第八百九十八條 船舶賃貸借契約ニ關スル原則ハ貨物運送ノ外ナル目的ヲ以テ航海スル爲メノ船舶賃貸借契約ニモ之ヲ適用ス

第二節 船荷證書

第八百九十九條 船荷證書ハ船長カ運送ノ爲メニ受取りタル

運送品ニ對シテ發ス可キ受取證券ニシテ左ノ諸件ヲ包含ス

- 第一 船名及ヒ國籍
  - 第二 船長ノ氏名
  - 第三 船舶賃借人ノ氏名及ヒ積荷受取人ノ指示
  - 第四 荷積港及ヒ到達港
  - 第五 貨物ノ種類、數量及ヒ各箇運送品ノ員數、記號、番號、外包ノ方法
  - 第六 運送賃ニ付テノ約定
  - 第七 日附
  - 第八 交付シタル船荷證書ノ數
- 船荷證書ハ求ニ應シ幾通ニテモ之ヲ交付ス可シ其中ノ一通ニハ船長ノ手許ニ備置ク爲メ賃借人署名捺印シ他ノ各通ニハ船長署名捺印スルコトヲ要ス

船荷證書ハ或人ニ宛テ又ハ指圖式若クハ無記名式ニテ之ヲ發スルヲ得

第九百條 船荷證書ハ荷積ヲ終リタル後二十四時内ニ之ヲ發スルヲ要ス

積込ミタル貨物ニ付テノ關稅受取證書及ヒ關稅明細書ハ右同一ノ期間ニ賃借人之ヲ船長ニ交付スルヲ要ス

第九百一條 船規定ニ從ヒテ發シタル船荷證書ノ旨趣ハ當事者相互ノ間及ヒ當事者ト保險者トノ間ニ於テ完全ナル證據ト爲ルモノトス然レモ反對ノ證據ハ之ヲ舉クルヲ得

船長ハ外包ノ儘ニ又ハ閉蓋シタル容器ノ儘ニ受取リタル運送品ノ種類及ヒ數量ニ付テハ明約アルニ非サレハ責任ヲ負フヲ無シ但運送品ヲ受取人ニ引渡ス時ニ於テ其外部ニ毀損アルキハ此限ニ在ラス

喪夫又ハ毀損ニ付テノ責任ハ第四百九十三條ニ掲ケタル情況ニ因ルノ外尙ホ火災、盜難其他過失ニ出テサル事故ニ因リテ消滅ス

過失ニ付テノ責任ハ契約ヲ以テモ之ヲ免カル、ヲ得ス

第九百二條 船長ハ到達港ニ於テ運送貨、附帶費用、海損并ニ立替金ノ辨償及ヒ受取證書ヲ受ケテ船荷證書所持人ニ運送品ヲ引渡スノ義務アリ若シ二人以上ノ船荷證書所持人カ申出ヲ爲スルハ運送品ヲ公ノ倉庫ニ寄託シ又ハ裁判所ノ命令ニ依リテ之ヲ他人ニ寄託スルヲ要ス

第三節 運送貨

第九百三條 運送貨ノ額ハ契約又ハ時價ニ依リテ之ヲ定ム其契約上ノ額ハ船舶貸借契約書又ハ船荷證書ヲ以テ之ヲ證明スルヲ要ス

單獨海損及ヒ附帶費用ハ契約又ハ商慣習ニ依リテノミ之ヲ  
計算スルヲ得  
第九百四條 船長ハ現實ノ積量ニ超エタル積量ヲ明告シタル  
キハ此ニ因リテ賃借人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ義務ヲ  
負ヒ且割合ニ應シテ運送貨ヲ減ス可キモノトス但其明告カ  
官ノ測度證書ト符合シ又ハ錯誤ヨリ出テタル差カ四十分ノ  
一ヨリ多カラサルキハ此限ニ在ラス  
第九百五條 船舶賃借ノ場合ニ於テハ賃借人ハ積荷ノ全部ヲ  
引渡サ、ルキト雖モ運送貨ノ全額ヲ支拂フノ義務アリ又餘  
分ノ積荷ニ付テハ割合ニ應シテ運送貨ノ増額ヲ支拂フヲ  
要ス  
船長ハ賃借人ノ承諾ヲ得テ他ノ運送品ヲ以テ積荷ノ不足ヲ  
補充スルヲ得其補充ヨリ生スル運送貨ハ賃借人ニ歸ス

第九百六條 各箇ノ積荷ハ航海ヲ始ムル前ニ在テハ賃借人運  
送貨ノ半額ト取戻ニ因リテ生スル費用ト支拂ヒテ之ヲ取  
戻スヲ得航海ヲ始メタル後ニ在テハ運送貨ノ全額ト取戻  
ニ因リテ生スル費用ト支拂フヲ要ス但其取戻カ船長ノ  
過失ニ因ルキハ第九百八條ノ規定ニ從フ  
第九百七條 船長ノ承諾ヲ得ス又ハ虚偽ノ明告ヲ爲シテ船舶  
ニ積込ミタル運送品ハ船長之ヲ陸揚シ又ハ之ニ最高ノ運送  
賃ヲ付スルヲ得又其運送品カ船舶若クハ他ノ物ヲ危険ナ  
ラシムルキハ之ヲ海中ニ投スルヲ得  
第九百八條 船舶カ航海ノ用ニ耐ヘサルキ又ハ契約ニ掲ケタ  
ル國籍ヲ有セス若クハ國籍ヲ失ヒタルキハ賃借人ハ契約ヲ  
解除スルヲ得又船長ハ運送貨ノ請求權ヲ失ヒ且賃借人ニ  
被ラシメタル總テノ損害ヲ賠償スルヲ要ス

第九百九條 船舶カ航海中ニ生シタル破損ノ爲メ修繕ヲ要スルキハ賃借人ハ運送賃ノ全額ヲ支拂ヒテ契約ヲ解除スルヲ得  
若シ船舶ヲ相當ノ期間ニ修繕スルヲ得サルキハ賃借人ハ船長カ他ノ船舶ヲ以テ之ニ換ヘサルキニ限り其地マテノ運送賃ヲ支拂ヒテ契約ヲ解除スルヲ得  
第九百十條 第八百九十三條ノ場合ニ於テハ滯泊ノ費用ハ共同海損ノ原則ニ從ヒテ之ヲ定ム  
第九百十一條 航海前、航海中又ハ到達港ニ於テ賃借人又ハ船長ノ惹起シタル遅延ノ費用ハ其遅延ヲ惹起シタル者之ヲ負擔シ且此ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルヲ要ス  
第九百十二條 賃借人ノ過失、物ノ性質又ハ事變ニ因リテ喪失シタル運送品、第八百七十二條ニ從ヒテ賣却シタル運送品又

ハ共同ノ危険ヲ救フ爲メニ海中ニ投シタル運送品ニ付テハ運送賃ノ全額ヲ支拂フヲ要ス然レモ海中ニ投シタル場合ニ於テハ其運送賃ハ共擔辨濟ノ義務ヲ負擔ス  
第九百十三條 船舶ノ難破、坐礁、膠沙又ハ掠奪ニ因リテ失ヒタル運送品ニ付テハ運送賃ヲ支拂フヲ要セス且別段ノ契約アルニ非サレハ豫メ支拂ヒタル運送賃ハ之ヲ償還スルヲ要ス  
救助セラレ又ハ贖戻サレタル運送品ニ付テハ之ヲ到達港ニ運送セサルキハ船舶ノ難破、坐礁、膠沙又ハ掠奪ノ地ニ至ルマテノ運送賃ヲ支拂フヲ要ス然レモ船舶及ヒ運送賃ハ贖戻ノ爲メニ共擔辨濟ノ義務ヲ負擔ス  
第九百十四條 積荷受取人ヨリ運送賃ヲ受取ルヲ得ス又運送品ヲ賣却スルモ仍ホ之ヲ得ルヲ能ハサルキハ賃借人ハ其

運送賃ニ付キ責任ヲ負フ  
第九百十五條 船長ハ運送品ヲ引渡シタル後十四日間ハ所有者ノ破産シタルキト雖モ運送賃其他ノ債權ノ爲メ運送品ニ付キ優先權ヲ有ス但其貨物ノ占有カ第三者ニ移リタルキハ此限ニ在ラス

第九百十六條 運送賃ノ減額ハ運送品ノ喪失、情況ノ變更又ハ其他ノ事由ノ爲メニ之ヲ求ムルヲ得ス

第九百十七條 運送品ノ價額ノ損失ニ付キ船長其責任ヲ負ヒタルキハ運送品ヲ船長ニ委付シテ運送賃ニ換フルヲ得

第四節 旅客運送

第九百十八條 旅客運送契約ニ旅客ノ氏名ヲ掲ケタルキハ旅客ハ船長ノ承諾ヲクシテ航海ノ權利ヲ他人ニ轉付スルヲ得

第九百十九條 旅客ハ船中ノ秩序ニ係ル船長ノ指圖ニ服従スルノ義務アリ

第九百二十條 航海中旅客ノ賄ハ反對ノ契約又ハ慣習アルニ非サレハ運送賃ニ包含スルモノトス若シ反對ノ契約又ハ慣習アル場合ニ於テ旅客カ食物ノ缺乏ヲ告クルキハ船長ハ相當ノ代價ニテ之ヲ給スルノ義務アリ

第九百二十一條 旅客カ乗船地又ハ航海中ニ於テ定時ニ乗船セサルキハ船長ハ之ヲ待ツノ義務ヲク旅客ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フノ義務アリ

第九百二十二條 發航前ニ航海ヲ廢止スル場合ニ於テハ左ノ規定ニ從フ

第一 旅客ハ解約ヲ申込ヲ爲シテ航海ヲ止メタルキハ運送賃ノ半額ヲ支拂フヲ要ス

第二 旅客カ死亡、疾病其他一身ニ係ル已ムヲ得サル事故  
 若クハ不可抗力ニ因リテ航海ヲ妨ケラレタルキハ運送  
 賃ノ四分一ヲ支拂フヲ要ス然レモ旅客ハ尙ホ次回ニ  
 發航スル船舶ヲ以テ航海スルヲ擇フヲ得但同一ノ定  
 常航路ニ由ルキニ限ル  
 第三 船長ノ過失ニ因リテ航海ヲ廢止シタルキハ旅客ハ  
 既ニ支拂ヒタル運送賃ヲ取戻スノ外尙ホ損害賠償ヲ請  
 求スルヲ得  
 第四 船舶ニ係ル已ムヲ得サル事故又ハ不可抗力ニ因リ  
 テ航海ヲ妨ケラレタルキハ双方ニ損害賠償ノ責ヲ生ス  
 ルヲ無クシテ契約ハ當然廢棄ニ歸ス但既ニ支拂ヒタル  
 運送賃ハ別段ノ契約ナキキハ之ヲ償還スルヲ要ス  
 第九百二十三條 發航後ニ航海ヲ廢止スル場合ニ於テハ左ノ

規定ニ從フ  
 第一 旅客カ航海中ニ解約ノ申込ヲ爲シテ航海ヲ止メタ  
 ルキハ運送賃ノ全額ヲ支拂フヲ要ス  
 第二 船長カ航海ノ續行ヲ拒ミ其他旅客ノ航海ヲ止メタ  
 ルコトニ付キ過失ノ責ヲ負フキハ旅客ハ既ニ支拂ヒタル  
 運送賃ヲ取戻スノ外尙ホ損害賠償ヲ請求スルヲ得  
 第三 旅客カ其一身又ハ船舶ニ係ル已ムヲ得サル事故又  
 ハ不可抗力ニ因リテ航海ヲ妨ケラレタルキハ既ニ航海  
 シタル路程ニ應スル運送賃ノミヲ支拂フノ義務アリ但  
 船長カ契約上ノ旅客ノ權利ヲ害スルヲ無ク他ノ同様ナ  
 ル船舶便ヲ以テ航海ヲ遂クルヲ申入レタルキハ此限ニ  
 在ラス  
 海上災害其他ノ災害ノ爲メニ死亡シタル旅客ノ相續人

ハ運送賃ヲ支拂フヲ要セス然レモ既ニ支拂ヒタル運送賃ノ償還ヲ請求スルヲ得ス

第九百二十四條 原因ノ如何ヲ問ハス船舶カ發航ヲ遲延シタルモハ旅客ハ無代價ノ止宿若シ運送賃ニ賄ヲ包含スルモハ船中ニ於ケル賄ヲモ請求スルヲ得然レモ其遲延ノ甚シキモハ旅客ハ契約ヲ解除シテ既ニ支拂ヒタル運送賃ノ償還ヲ請求スルヲ得但其遲延カ船長ノ過失ニ因ルモハ尙ホ損害賠償ヲ請求スルヲ得

前項ノ規定ハ航海中立寄港ニ於テ生シタル同一ノ場合ニモ之ヲ適用ス然レモ運送賃ノ償還ハ未タ航海セサル路程ニ應シテノミ之ヲ請求スルヲ得

第九百二十五條 前條ノ場合ニ於テ船長カ契約上ノ旅客ノ權利ヲ害スルヲ無ク他ノ同様ナル船便ヲ以テ航海ヲ遂クルヲ

ヲ申入レタルモハ旅客ハ契約ヲ解除スルヲ得ス

第九百二十六條 船長ハ旅客ノ安全、健康ニ注意シ必要ノ食物、藥劑及ヒ救助具ヲ供用ニ耐フル景狀ニテ船中ニ備フルヲ要ス若シ災害ノ生シタルモハ船長ハ第一ニ旅客ヲ救助スルノ義務アリ且如何ナル情況アルモ此救助ヲ實行シタル後ニ非サレハ船舶ヲ去ルヲ得ス

船中ニ於テ死亡シタル旅客ノ埋葬ハ相續人ノ費用若シ己ムヲ得サレハ船舶ノ費用ヲ以テ慣習ニ從ヒ船長之ヲ爲スノ義務アリ

第九百二十七條 旅客カ船中ニ積入ル、ヲ得ル行李及ヒ旅用具ノ運送ニ付テハ反對ノ契約アルニ非サレハ旅客運送賃ノ外特別ノ報酬ヲ支拂フヲ要セス

第九百二十八條 船中ニ於テ死亡シタル旅客ノ行李及ヒ旅



具ニシテ船中ニ在ルモノハ船長ニ於テ其相續人ノ爲メ適當  
ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フ可シ  
第九百二十九條 本章第一節第三節及ヒ第一編第八章第八節  
ノ原則ハ第五百二十三條前段ノ規定ヲ除クノ外本節ノ旅客  
運送ニモ之ヲ適用ス

第六章 海損

第九百三十條 共同海損ハ船舶及ヒ積荷ヲ共同ノ危険ヨリ救  
助センカ爲メ故サラニ直接又ハ間接ニ船舶又ハ積荷ニ加ヘ  
タル非常ノ喪失、損害及ヒ同一ノ旨趣ニテ支出シタル非常ノ  
費用タリ殊ニ左ニ掲クルモノハ共同海損ニ屬ス

第一 船舶及ヒ積荷ニ係ル危険ヲ避ケ又ハ其既ニ被フリ  
タル危険ノ有害ナル結果ヲ避ケンカ爲メニスル避難港  
ヘノ入航

第二 船舶ヲ輕クセンカ爲メニスル積荷ノ投棄又ハ陸揚  
及ヒ此ニ因リテ船舶又ハ積荷ニ加ヘタル損害  
第三 沈没又ハ掠奪ヲ避ケンカ爲メニスル任意ノ坐礁、膠  
沙  
第四 船舶又ハ積荷ノ贖戻ノ費用及ヒ人質ニ取ラレタル  
者アルキハ其贖戻ノ費用  
第五 第八百七十二條ニ從ヒテ共同海損ヲ償フ爲メニ借  
入レタル金額ノ利息若クハ冒險料又ハ賣却シタル積荷  
ノ損失其他共同海損ノ調査及ヒ計算ノ費用  
第九百三十一條 共同海損ノ處分ヲ行フニハ船長ハ成ル可ク  
役員ト評議ヲ爲シ且其評議ノ結果ヲ航海日記ニ記載ス可シ  
第九百三十二條 船舶及ヒ積荷ノ全部又ハ一分ヲ救助スル  
ヲ得タルキハ積荷ト船舶及ヒ運送賃ノ半分トカ到達港其他

航海ノ終極地ニ於ケル其價額ノ平等ナル割合ヲ以テ共同海損ヲ共擔ス

第九百三十三條 共同海損ノ場合カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルキハ其過失ノ責任ハ共擔ノ爲メニ消滅セス

第九百三十四條 共同海損ノ確定及ヒ割賦ハ到達港其他航海ノ終極地ニ於テ鑑定人之ヲ爲シ若シ鑑定人ノ選定ニ付キ爭アル片ハ官ヨリ之ヲ任ス

第九百三十五條 船舶ノ武具、食料、乘組員ノ給料、所持品及ヒ旅客ノ旅荷物ハ共同海損ヲ共擔セス然レモ其喪失又ハ損害ノ場合ニ在テハ他ノ共擔義務アル物ヨリ其賠償ヲ受ク

第九百三十六條 喪失、損害及ヒ共擔額ノ計算ハ棄却シタル物及ヒ救助シタル物ノ實價ニ從ヒテ之ヲ爲ス然レモ棄却シタル物ニ付テハ其實價カ船荷證書ニ記載シタル價額ヨリ高價

ナリシキト雖モ其記載ノ價額ノミヲ賠償ス

船荷證書其他ノ明告書ナクシテ積込ミタル貨物及ヒ甲板上ニ積込ミタル貨物ニ付テハ賠償ヲ爲スヲ無シ但甲板ニ積込ミタル貨物ニ付テハ沿岸小航海ノ船舶ニ非サルキニ限ル

前項ノ場合ニ於テ救助シタル貨物ハ共擔義務ヲ免カル、トテ得ス

第九百三十七條 救助セラレタル船舶又ハ積荷カ其後喪失シ若クハ毀損シタルキ又ハ海損若クハ救助ニ係ル債權ノ爲メ責ヲ負ヒタルキ共擔義務ノ全ク消滅セサルニ於テハ其共擔義務ノ割合ハ初ノ海損ニ對シテ變更ヲ生スルヲ無シ然レモ其共擔義務ハ後ニ生シタル喪失若クハ毀損ヲ扣除シ又ハ海損若クハ救助ニ係ル債權ヲ扣除シタル殘價額ニ從ヒテ之ヲ定ム

第九百三十八條 棄却シタル貨物ハ其後ニ生シタル海損ノ場  
合ニ在テハ共擔義務ヲ負擔セス又船舶ニ對スル積荷ノ共擔  
義務ハ船舶カ後ニ喪失シ又ハ使用ニ耐ヘサルニ至リタルキ  
ハ消滅ス

第九百三十九條 棄却シタル貨物カ海損割賦ノ後所有者ニ返  
リタルキハ其所有者ハ救助ノ費用ト棄却ニ因リテ生シタル  
損害ノ額トヲ扣除シテ既ニ受取リタル割賦金ヲ當事者ニ償  
還スルノ義務アリ

第九百四十條 單獨海損ハ任意ニ非スシテ生シ又ハ船舶若ク  
ハ積荷ノミニ生シタル喪失、損害及ヒ費用タリ此海損ハ各所  
有者各別ニ之ヲ負擔スルヲ要ス

第九百四十一條 水先案内料、挽船料、避氷入費、諸稅、手數料又ハ  
檣、帆若クハ機關ノ過度ナル使用ニ因リテ生シタル船舶ノ毀

損ノ如キ航海ノ通常及ヒ臨時ノ費用若クハ損害ハ船舶ノミ  
ノ責ニ歸ス但反對ノ慣習アルモノハ此限ニ在ラス

第九百四十二條 衝突、破裂其他ノ事由ニ因リテ船舶及ヒ積荷  
ニ生シタル損害ニ付テハ自己ノ過失ニ因リテ其損害ヲ惹起  
シタル者責任ヲ負フ若シ其災害カ事變又ハ當事者雙方ノ過  
失ニ因リテ生シタルキハ各當事者ハ已レニ受ケタル損害ヲ  
負擔ス

然レモ當事者雙方ノ過失相均シカラサルキ又ハ其災害ノ事  
由ヲ明カニ檢知スルヲ得サルキハ損害ノ割賦ハ公平ナル  
酌量ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第九百四十三條 海難ニ於テ乗組員ノ船舶ヲ退去シ若クハ拋  
棄シタルキ其船舶又ハ積荷ノ全部若クハ一分ヲ救助シタル  
者又ハ救援若クハ救撈ノ際乗組員ニ助力ヲ爲シテ其功ヲ致

シタル者ハ救助賃又ハ助力賃ヲ請求スルノ權利アリ其賃額ハ危険ノ度、費用、時間及ヒ救助並ニ助力ヲ爲スノ危険ト困難トヲ斟酌シテ之ヲ定ム然レモ其賃額ハ救助シタル物ノ價額ノ三分一ヲ超エサルヲ通例トシ如何ナル場合ト雖モ半額ヲ超ユルヲ得ス

第九百四十四條 海損ノ爲メ保險者ニ對スル請求權ハ共同海損ノ場合ニ在テハ損害額カ船舶及ヒ積荷ノ被保險價額合計高ノ百分一以上ナルキ單獨海損ノ場合ニ在テハ毀損シタル物ノ被保險價額ノ百分一以上ナルキニ非サレハ成立セス

第九百四十五條 保險契約ニ海損ノ責ニ任セサル旨ノ條款アルキハ保險者ハ總テ海損ニ付テノ責ヲ免カル但委棄ノ要件ノ存在スルキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ被保險者ハ委棄スルト海損請求權ヲ主張スルトノ一ヲ擇フノ權利アリ

第七章 冒險貸借

第九百四十六條 冒險貸借ハ船長カ船籍港外ニ在テ船舶又ハ積荷ノ已ムヲ得サル需用ノ爲メ債權者ニ冒險料ヲ支拂フノ約束ニテ航海中冒險抵當物ニ付テノ海上危険ヲ引受ケシムルノ條件ヲ以テ取結フ貸借契約タリ此契約ヲ取結フニハ第八百七十二條ノ手續ニ依ルヲ要ス

認可書及ヒ冒險貸借證書ニハ冒險貸借ノ事實、目的、船名、航路、冒險抵當物及ヒ其價額ヲ明記スルヲ要ス

冒險貸借ノ金額カ冒險抵當物ノ價額ニ超ユルキハ債權者ハ其超過額若シ債務者ニ詐欺ノ意思アル場合ニ在テハ全金額ニ利息ヲ附シテ之ヲ取戻スヲ得

第九百四十七條 船舶(附屬物ヲ包含ス)運送賃及ヒ積荷ハ之ヲ

總括シ又ハ分別シテ冒險抵當ト爲スコヲ得然レモ積荷ノミ  
ハ其需用ノ爲メニスルニ非サレハ之ヲ冒險抵當ト爲スコヲ  
得ス  
船舶ノ冒險抵當ニハ明示ナキモ船舶ノ附屬物及ヒ航海ノ終  
ニ於テ得ヘキ運送賃ヲ包含ス  
第九百四十八條 同一ノ物ヲ相異ナル需用ノ爲メニ數回冒險  
抵當ト爲シタルモ其後ノ債權ハ前ノ債權ニ先タツモノトス  
第九百四十九條 冒險貸借證券ハ求ニ因リテ二通以上ヲ交付  
シ又指圖式ニテ之ヲ發スルヲ得指圖式ニテ發シタル場合  
ニ在テハ裏書ヲ以テ轉付スルヲ得然レモ裏書讓渡人ハ元  
金ノ支拂ニ付テノミ責ヲ負ヒ冒險料ノ支拂ニ付テハ明約ア  
ルニ非サレハ其責ヲ負ハス  
第九百五十條 冒險貸借金額及ヒ冒險料ハ別段ノ期間ヲ約定

シタルニ非サレハ船舶ノ投錨後八日內積荷ニ付テハ其陸揚  
後八日內ニ之ヲ辨償スルヲ要ス若シ此期間ニ辨償ヲ爲サ  
ルモハ債權者ハ冒險抵當物ニ對シテ質權ヲ行フヲ得  
總テノ冒險抵當物ハ其債權者ニ對シテ連帶ノ責任ヲ負フ  
第九百五十一條 航海ノ變更、他ノ船舶ニ貨物ノ積換其他危險  
ノ變更ハ避ク可カラサル必要ニ出テタルニ非サレハ債權者  
ヲシテ海難ニ付テノ責ヲ免カレシム  
第九百五十二條 冒險貸借債務ノ辨償ハ冒險抵當物ノ全部カ  
航海中海上危險ノ爲メニ喪失シタルモ之ヲ求ムルヲ得  
ス若シ毀損又ハ一分ノ喪失ノ場合ニ在テハ其殘餘ノ價額ニ  
限リ之ヲ求ムルヲ得但海損及ヒ救助ノ費用ハ之ヲ扣除ス  
前項ノ場合ニ在テハ海損ニ付テノ損害賠償ハ債權者ノ利益  
ニ歸ス

第八章 保險

第一節 保險契約ノ取結

第九百五十三條 總テ航海ノ危険ニ罹ル可キ適法ナル財産上ノ利益ハ航海ノ全部又ハ一分ノ爲メ平時ト戰時トヲ問ハス航海前又ハ航海中ニ之ヲ保險ニ付スルヲ得

殊ニ船舶(附屬物ヲ包含ス)貨物運送貨、旅客運送貨、運送貨物、其賣却利益、仲買人手數料、仲立人手數料、冒險貸借債權、海損債權、其他船舶債權者ノ債權及ヒ保險者自身ノ利益ハ之ヲ總括シ又ハ分別シテ保險ニ付スルヲ得

船舶乗組員ノ給料及ヒ報酬ノ保險ハ無効トス

第九百五十四條 船舶ノ被保險價額ハ危険ノ始マル時及ヒ地ニ於テ船舶ノ有スル價額トス  
第九百五十五條 船舶ノ危険ハ積荷又ハ底荷ノ積入ノ始マル

時ニ始マリ荷卸ノ終リタル時又ハ不當ノ遲延ナシテ其終リ得タル可キ時ニ終ル但別段ノ契約アルキハ此限ニ在ラス  
第九百五十六條 冒險貸借債權及ヒ海損債權ハ冒險抵當物又ハ共擔義務ヲ負フ物ノ價額ヲ限トシテ保險ニ付スルヲ得

第九百五十七條 保險契約取結ノ後戰爭起リ其他總テ國ノ處分ニ出ツル危険生シタルキハ當事者ハ契約ヲ解除スルノ權利ヲ有ス但保險料ノ相當ナル増加ヲ豫定シタルキハ此限ニ在ラス

既ニ支拂ヒタル保險料ハ契約解除ノ場合ニ在テハ之ヲ償還スルヲ要ス

第九百五十八條 第二節 保險者及ヒ被保險者ノ權利義務  
被保險者ハ危険ノ始マル前ニ航海ヲ止メタ

ルキハ被保險額ノ二百分一ノ損害賠償ヲ支拂ヒテ契約ヲ解除スルヲ得

第九百五十九條 保險者ハ海上危險ノ發生ニ因リ殊ニ暴風雨、破船、坐礁、膠沙、流水、衝突、投荷、火災、破裂、盜難、劫掠ニ因リ又ハ航海線路若クハ船舶ノ已ムヲ得サルニ出テタル變更ニ因リ又ハ乗組員ノ不正若クハ過失其他ノ事由ニ因リテ生シタル總テノ喪失及ヒ損害ヲ負擔ス但契約ヲ以テ取除ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス  
保險者ハ明約アルニ非サレハ戰爭其他總テ國ノ處分ニ出ツル危險殊ニ掠奪、宣戰、反搶、封港、鎖港、差押及ヒ此類ノ事由ニ因リテ生シタル喪失及ヒ損害ヲ負擔セス  
第九百六十條 保險者ハ水先案内料、挽船料、船舶又ハ積荷ニ付キ支拂フ可キ手数料、關稅其他ノ諸稅、年數、腐朽又ハ蠹蝕ニ因

リテ生シタル損害、通常ノ使用ニ因リテ生シタル損耗、船長又ハ船員ノ行爲ニ付キ船舶所有者ノ負擔スル責任、航海不耐用又ハ機裝若クハ乗組員ノ不十分又ハ成規上ノ書類ノ欠缺ニ因リテ生シタル損害ヲ負擔セス

第九百六十一條 損害ヲ賠償ス可キ保險者ノ義務ハ被保險者カ其損害ニ付キ船長其他ノ人ニ對シテ賠償請求ノ權利ヲ有スルカ爲メニ之ヲ免カル、ヲ得ス

第九百六十二條 保險料ハ契約上ノ航海期間ヲ延長シタルキハ割合ニ應シテ之ヲ増スヲ要ス然レモ其期間ヲ短縮スル場合ニ在テハ之ヲ減スルヲ得ス航海ヲ短縮スル場合モ亦同シ

第九百六十三條 旅客運送賃ノ保險ハ航海ノ延長、旅客ノ載換、避難港ニ於ケル旅客ノ給養、他船ヲ以テスル旅客ノ運送、食料

ノ喪失若クハ減損其他此類ノ海上災害ニ因リテ生シタル旅  
客運送費増額ノ賠償ヲ請求スルノ權利ヲ被保險者ニ與フル  
モノトス

第九百六十四條 貨物運送賃又ハ旅客運送賃ノ通常額ヲ増加  
シテ運送貨物又ハ旅荷物ノ危険ヲ引受クル者アルキハ保險  
ニ關スル原則ヲ之ニ適用ス

第三節 委棄

第九百六十五條 委棄ハ全被保險額ノ支拂ヲ受ケテ保險者ニ  
被保險物ヲ委付スルニ在リ

委棄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申込ムコトヲ得

第一 船舶カ沈没シ破碎シ又ハ踪跡ヲ失ヒ又ハ使用ニ耐  
ヘサルキ

第二 船舶カ掠奪セラレ又ハ國ノ處分ニ因リテ抑留セラ

レタルキ  
第三 喪失又ハ毀損カ價額ノ四分三ヲ超エタルキ  
委棄ハ一分ノミ又ハ條件附ニテ之ヲ爲スコトヲ得ス又之ヲ取  
消スコトヲ得ス

第九百六十六條 船舶カ到達港ニ達セス且發航ノ時又ハ其船  
舶ニ付キ最後ノ通信アリタル時ヨリ一年ヲ經過シタルキ  
又沿岸航海ニ在テハ六個月ヲ經過シタルキハ其船舶ハ踪跡  
ヲ失ヒタルモノト看做ス

有期ノ保險ノ場合ニ在テハ前項ノ期間滿了後ハ其船舶ハ保  
險期間ニ喪失シタルモノト推定ス

第九百六十七條 坐礁、膠沙ニ罹リタル船舶ハ之ヲ引卸シ修繕  
ヲ加ヘテ到達港マテ航海ヲ繼續セシムルコトヲ得ヘキキ保險  
者カ此カ爲メニ必要ナル費用ノ前貸ヲ爲スニ於テハ使用ニ



耐へサルモノトシテ委棄スルヲ得ス然レモ被保險者ハ此  
場合ニ於テハ坐礁、膠沙ノ爲メニ生シタル費用及ヒ海損ノ爲  
メノ請求權ヲ保有ス

第九百六十八條 使用ニ耐へサル船舶ノ積荷ハ船長カ他ノ船  
舶ヲ以テ之ヲ到達港ニ送達スル能ハサルキニ限り委棄スル  
ヲ得若シ船長カ其積荷ヲ送達スルヲ得タルキハ保險者  
ハ總テノ海損及ヒ運送賃ノ増額ト積荷ノ救助、積換、倉入其他  
ノ事由ニ因リテ生シタル總テノ費用トヲ負擔ス

第九百六十九條 被保險者ハ災害ノ通知ヲ得タル後又ハ第九  
百六十六條ニ定メタル期間ノ滿了後三日内ニ委棄ノ理由タ  
ル事實ヲ保險者ニ通知シ且六个月内ニ其委棄ヲ申込ムノ義  
務アリ  
若シ其申込ノ承諾ヲ得サル場合ニ在テ前項ノ期間ニ委棄ノ

訴ヲ起サ、ルキハ被保險者ハ其訴權ヲ失ヒ保險契約ヨリ生  
スル通常ノ請求權ノミヲ主張スルヲ得

第九百七十條 保險者ハ別段ノ契約アルニ非サレハ委棄ノ申  
込ヲ受ケタル後三个月内ニ被保險額ヲ拂渡スヲ要ス然レ  
モ委棄ノ辯明ニ供スル證書ノ交付ヲ受ケス且總テ委棄シタ  
ル物ニ係ル他ノ保險、冒險貸借、登記ヲ經タル債權其他ノ債權  
ノ通知ヲ受ケサル以前ニ拂渡ヲ爲スヲ要セス  
右ニ掲ケタル證書ノ旨趣ニ對シテハ反對證據ヲ舉クルヲ得

第九百七十一條 被保險者ハ詐欺ノ委棄申込ヲ爲シタルキハ  
其保險上ノ權利ヲ失ヒ且委棄シタル物ニ係ル債權ヲ自ラ支  
拂フヲ要ス

第九百七十二條 委棄シタル物ニ付テノ被保險者ノ權利ハ其

委棄ノ承諾又ハ有効ナリトノ判決ニ因リテ保險者ニ移ル  
船舶ノ委棄ニハ救助セラレタル運送貨物ノ運送賃全額ヲ包  
含ス但其運送賃ノ負擔スル總テノ義務ハ之ヲ扣除ス

第九百七十三條 被保險者ハ委棄申込ノ後ト雖モ被保險物ヲ  
救助シ又ハ取戻ス爲メ及ヒ一層大ナル損害ヲ避クル爲メ成  
ル可ク注意ヲ爲スノ義務アリ又右ノ目的ノ爲メ支出シタル  
費用ハ救助セフレタル物ノ價額ニ至ルマテ保險者之ヲ負擔  
スルヲ要ス

第九百七十四條 掠奪セラレ又ハ國ノ處分ニ因リテ抑留セラ  
レタル場合ニ在テハ被保險者ハ此事實ヲ保險者ニ通知シタ  
ル後六个月内ニ判決又ハ沒收ノ言渡ナキハ始メテ委棄ヲ  
申込ムヲ得掠奪ノ場合ニ在テハ被保險者ハ己ムヲ得サル  
キニ限り豫メ通知ヲ爲サス且保險者ノ委任ナシト雖モ贖戻

ヲ爲スヲ得然レモ保險者ハ其贖戻ヲ自己ノ計算ニテ引受  
クルト否トヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

第九百七十五條 一旦申込ミタル委棄ノ効力ハ後日ニ至リ船  
舶ノ救助又ハ歸航ニ因リテ變スルヲ無シ

### 第九章 時効

第九百七十六條 船舶債權者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救  
助ニ因リテ生シタル債權ハ船舶所有者、船長又ハ船員ノ一身  
ニ對スル請求權ナルキト雖モ之ヲ主張スルヲ得ル日ヨリ  
起算シ一十年ヲ以テ時効ニ罹ル

第九百七十七條 喪失又ハ毀損ニ付キ船長及ヒ保險者ニ對ス  
ル請求權ハ留保ナク運送貨物ヲ受取リテ其運送賃ヲ支拂ヒ  
タル時消滅ス又海損又ハ救助ニ因リテ生シタル債權ハ留保  
ナク運送貨物ヲ引渡シテ其運送賃ヲ受取リタル時消滅ス

有効ニ留保ヲ爲スニハ運送貨物ヲ受取り又ハ引渡シタル後二十四時内ニ之ヲ爲スヲ要ス

### 第三編 破産

#### 第一章 破産宣告

第九百七十八條 商ヲ爲スニ當リ支拂ヲ停止スル者ハ自己若クハ債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ裁判所ノ決定ヲ以テ破産者トシテ宣告セラル但此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得

前項ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スヲ得

第九百七十九條 支拂停止ハ其停止ヲ爲シタル本人ヨリ又商事會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役又ハ清算人ヨリ支拂停止ノ日ヲ算入シテ五日内ニ其營業所又ハ住所ノ裁判所ニ書面ヲ以テ又ハ口述ヲ調書ニ筆記セシメテ之ヲ

届出ツ可シ此届出ニハ支拂停止ノ事由ヲ明示シ及ヒ貸借對照表并ニ商業帳簿ヲ添フルヲ要ス

貸借對照表ニハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 總テノ動産、不動産其他債權ノ列舉及ヒ價額

第二 總テノ債務

第三 利益及ヒ損失ノ概要

第四 毎月ノ一身上ノ費用及ヒ家事費用ノ支出額

第九百八十條 破産決定書ニハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 支拂停止ノ時期

第二 破産主任官及ヒ一人又ハ二人以上ノ破産管財人ノ

#### 選定

第三 破産財團ノ保全ニ必要ナル處分ニ付テノ命令

第四 破産者ノ債務者又ハ財團ニ属スル物ノ占有者ニ對

スル拂渡差押ノ命令

第五 破産者ノ總債權者ニ對シ其請求權ヲ短クモ三個月長クモ六個月ノ期間ニ破産主任官ニ届出ツ可キ旨ノ催告

第六 調査會ノ期日及ヒ債權者集會ノ期日ノ指定

破産決定書ハ之ヲ檢事ニ送致ス可シ

第九百八十一條 破産宣告ハ即時ニ裁判所ノ揭示場并ニ破産者ノ營業場ニ貼附シ及ヒ其地ノ新聞紙ニ載セテ之ヲ公告スルヲ要ス其宣告ハ假執行ヲ爲スヲ得

第九百八十二條 破産者ノ財産ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルモ前條ノ手續ヲ除クノ外其後ノ手續ヲ停止ス其手續ノ停止ハ之ヲ公告スルヲ要ス然レモ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル破産者ノ財産アルヲ

證明スルモハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ即時其手續ヲ再施ス

破産手續ノ停止ハ其繼續スル間ハ第千四十九條ニ掲ケタル効力ヲ有ス

第九百八十三條 破産主任官ハ總テノ破産手續ヲ指揮シ及ヒ監督スルヲ要ス其命令ハ假執行ヲ爲スヲ得然レモ此命令ニ對シテハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スヲ得

第九百八十四條 檢事ハ職權ヲ以テ破産者ノ罰セラル可キ所爲ノ有無ヲ捜査シ且此カ爲メ取引帳簿其他ノ書類ノ展閱ヲ求ムルヲ得

第二章 破産ノ効力

第九百八十五條 破産宣告ニ依リ破産者ハ破産手續ノ繼續中自己ノ財産ヲ占有シ管理シ及ヒ處分スルノ權利ヲ失フ

破産宣告ノ日ヨリ以後ハ破産者ノ爲シタル支拂其他總テノ  
 權利行爲及ヒ破産者ニ爲シタル支拂ハ當然無効トス  
 破産者ノ動産、不動産ニ關スル訴及ヒ執行ハ特リ管財人ヨリ  
 又ハ管財人ニ對シテ之ヲ起シ又ハ繼續スルヲ得  
 第九百八十六條 破産者ノ營業ノ用ニ供スル動産ニ對シテ不  
 動産貸賃ノ爲メニスル執行ハ三十日間之ヲ猶豫ス但貸賃人  
 カ其貸賃物ヲ取戻スノ權利ヲ有スルハ此限ニ在ラス  
 第九百八十七條 各箇債權者ハ優先權ノ存スルニ非サレハ破  
 産處分中破産者ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スヲ得ス  
 第九百八十八條 辨濟期限ノ未タ至ラサル破産者ノ債務ハ破  
 産宣告ニ依リテ辨濟期限ニ至リタルモノトス  
 爲替手形ノ引受人又ハ引受ナキ爲替手形ノ振出人又ハ約束  
 手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタルキハ其償還義務ニ付テ

モ前項ノ規定ヲ適用ス  
 第九百八十九條 財團ニ對シテハ破産宣告ノ日ヨリ利息ヲ生  
 ズルヲ止ム但抵當權、質權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレ  
 タル債權ハ其擔保物ノ賣拂代金ニ滿ツルマテヲ限トシテ利  
 息ヲ生スルヲ得  
 第九百九十條 支拂停止後又ハ支拂停止前十日内ニ破産者カ  
 其財産中ヨリ無償ノ利益ヲ或人ニ與フル權利行爲殊ニ贈與  
 無償ニテ若クハ不相當ノ報償ヲ以テ義務ヲ負擔スル契約、期  
 限ニ至ラサル債務ノ支拂期限ニ至リタル債務ノ變體支拂及  
 ヒ從來負擔シタル債務ノ爲メ新ニ供スル擔保ハ財團ニ對シ  
 テハ當然無効トス  
 第九百九十一條 前條ニ掲ケタルモノ、外債務者カ支拂停止  
 後破産宣告前ニ財團ノ損害ニ於テ爲シタル總テノ支拂及ヒ

權利行為ハ相手方カ支拂停止ヲ知リタルキニ限り財團ノ計算ノ爲メ之ニ對シテ異議ヲ述フルヲ得然レモ爲替證券ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ爲替手形ヲ振出シ又ハ振出サシムルノ際支拂停止ヲ知リタル振出人又ハ振出委託人ヨリ又約束手形ニ在テハ裏書讓渡ノ際支拂停止ヲ知リタル第一ノ裏書讓渡人ヨリ其支拂金額ヲ償還スルヲ主要ス

第九百九十二條 有効ニ取得シタル抵當權其他適式ノ記入ニ因リテ法律上効力ヲ有ス可キ權利ハ支拂停止後ニ在テハ其取得ノ時ヨリ十五日ヲ過キサルキニ限り破産宣告ノ日マテ記入ヲ爲スヲ得

第九百九十三條 破産宣告ノ時ニ破産者及ヒ其相手方ノ未タ履行セス又ハ履行ヲ終ラサル雙務契約ハ孰レノ方ヨリモ無

賠償ニテ其解約ヲ申入ル、コヲ得

賃貸借契約又ハ雇傭契約ニ在テハ解約申入ノ期間ニ付キ協議調ハサルキハ法律上又ハ慣習上ノ豫告期間ヲ遵守ス可シ

第九百九十四條 契約者ノ一方ノ義務不履行ノ爲メ他ノ一方ニ於テ契約ヲ解除スルノ權利又ハ既ニ給付シタル物ヲ取戻スノ權利ハ財團ニ對シテ之ヲ行フヲ得ス

第九百九十五條 相殺ノ權利アル債權者ハ期限ニ至ラサル債權又ハ金額未定ノ債權ト雖モ財團ニ對シテ其効用ヲ致サシムルヲ得

債權カ支拂停止後ニ生シ又ハ取得シタルモノナルキハ支拂停止ヲ知リタル場合ニ限り相殺ヲ許サス

第九百九十六條 債務者カ債權者ニ損害ヲ加フルノ目的ヲ以テ爲シタル權利行為ハ相手方カ情ヲ知リタルキニ限り其日

附ノ如何ヲ問ハス之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第三章 別除權

第九百九十七條 債務者ノ動産又ハ不動産ニ對シテ抵當權、質權其他ノ優先權ヲ有スル債權者ハ財團ヨリ先ツ辨償ヲ受ケタルニ非サレハ其擔保物ノ賣拂代金ヨリ費用、利息及ヒ元金ノ支拂ヲ受クル爲メ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得若シ其實拂代金ノ剩餘アルキハ買主之ヲ財團ニ拂込ム可シ

第九百九十八條 優先權及ヒ其順序ハ民法及ヒ特別ノ法律ニ依リテ定マル

第九百九十九條 優先權ヲ有スル者其擔保物ノ賣拂代金ヨリ完全ナル辨償ヲ受ケサルキハ其未済ノ債權ハ他ノ債權者ト平等ナル割合ヲ以テ財團ニ對シ之ヲ主張スルコトヲ得

第一千條 債務者カ其支拂停止後ニ遺産ヲ取得シタルキハ遺産

債權者及ヒ受遺者ハ遺産トシテ仍ホ現存スル遺産物ヨリ又ハ未タ債務者ニ支拂ハレサル遺産ニ屬スル金錢ヨリ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第一千一條 破産者ノ財産ニシテ民事訴訟法ニ從ヒ強制執行ノ爲メ差押フルコトヲ得サルモノハ之ヲ財團ニ加フルコトヲ得ス但債權者ニ優先權ノ屬スルモノニ付テハ第九百九十七條ノ規定ニ從フ

第四章 保全處分

第一千二條 裁判所ハ破産宣告ト同時ニ債務者ノ動産ノ封印及ヒ債務者ノ即時勾留若クハ監守ヲ命ス

右處分ハ破産宣告前ト雖モ若シ債務者カ逃走シ若クハ逃走セントシ又ハ其財産ヲ隱匿スルキハ其地警察官廳ニ於テ債權者ノ申立ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

商事會社ニ在テハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ身體及  
 七財産ニ對シテ右ノ處分ヲ行フ  
 第一千三條 債務者カ第九百七十九條ノ規定ヲ踐行シ且別ニ勾  
 留又ハ監守ヲ受ク可キノ事由ナキハ其勾留又ハ監守ヲ實  
 施セサルヲ得然レモ後日職權ヲ以テ之ヲ實施スルヲ妨  
 ケス  
 債務者ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其住地ヲ離ル、  
 一ヲ得ス又裁判所ハ何時ニテモ債務者ノ引致ヲ命スルヲ  
 得  
 第一千四條 勾留若クハ監守ノ事由最早存セサルハ裁判所ハ  
 其決定ヲ以テ債務者ヲ釋放ス可シ然レモ債務者ヲシテ裁判  
 所又ハ管財人ノ呼出ニ應シ何時ニテモ出頭ス可キ爲メノ擔  
 保ヲ供スルノ義務ヲ負ハシムルヲ得

取上ケタル擔保ハ之ヲ財團ニ歸セシム  
 第一千五條 管財人カ債務者ノ財産ヲ財産目錄ニ載セ且之ヲ占  
 有シタルキハ直チニ其封印ヲ解ク可シ  
 第一千一條ニ依リ財團ニ加フルヲ得サル物及ヒ財團ノ爲メ  
 ニスル即時ノ換價又ハ繼續利用ヲ封印ノ爲メ妨ケラル、物  
 ニハ封印ヲ爲サ、ルヲ得此等ノ物ハ直チニ財産目錄ニ載  
 セ管財人ノ之ヲ占有スルヲ要ス  
 債務者ノ商業帳簿ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ且其帳簿ノ現  
 狀ハ破産主任官之ヲ認證ス  
 特ニ高價ナル物ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ又ハ一時之ヲ裁  
 判所ニ引取ルヲ得  
 第一千六條 破産者ニ對シテ債務ヲ負ヒ又ハ財團ニ屬スル物ヲ  
 占有スル者ハ其支拂又ハ交付ヲ管財人ニノミ爲ス可キヲ得



拂渡差押ノ命令ヲ以テ催告セラレタルモノトス  
別除權ヲ行ハント欲スル者ハ其旨ヲ管財人ニ申出ツ可シ若  
シ管財人ヨリ其物ノ評價ヲ爲サンコトヲ求ムルキハ之ヲ承諾  
スルコトヲ要ス  
債務者ニ宛テタル電信、書狀其他ノ送達物ハ之ヲ管財人ニ交  
付ス可シ其管財人ハ開封ノ權ヲ有ス然レモ其旨趣カ財團ニ  
關係ナキキハ管財人ヨリ債務者ニ引渡スコトヲ要ス  
破産裁判所ハ此カ爲メ郵便局、電信局其他ノ運送取扱所ニ必  
要ナル命令ヲ發ス可シ  
第一千七條 破産主任官ハ破産者及ヒ其家族ニ財團ヨリ給養ノ  
扶助料ヲ與フルコトヲ得  
第五章 財團ノ管理及ヒ換價  
第一千八條 各裁判所管轄區ニハ職務上義務ヲ負フ可キ破産管

財人ノ名簿ヲ備置キ破産裁判所ハ各箇ノ場合ニ於テ其名簿  
中ヨリ管財人ヲ選定ス  
第一千九條 管財人ノ勤勞ニ對スル報酬ハ財團ヨリ第一ニ之ヲ  
支拂ヒ其額ハ破産裁判所之ヲ定ム  
第一千十條 裁判所ハ何時ニテモ管財人ヲ易ヘ又ハ他ノ管財人  
ヲ加フルコトヲ得  
第一千十一條 管財人ハ其行爲ニ付テハ代理人ト同一ノ責任ヲ  
負フ若シ管財人二人以上アルキハ共同ニ非サレハ行爲ヲ爲  
スコトヲ得ス但破産主任官カ或ル行爲ニ付キ各箇ニ特別ノ委  
任ヲ與ヘタルキハ此限ニ在ラス  
第一千十二條 管財人ハ破産宣告後即時ニ財團ヲ占有シ且其管  
理及ヒ換價ニ着手スルコトヲ要ス  
管財人ハ其職務ノ爲メ破産者ノ補助ヲ求ムルコトヲ得破産主

任官ハ此カ爲メ破産者ニ報酬ヲ與フルヲ得  
第千十三條 管財人ハ破産主任官ノ監督ヲ受ケ且其指揮ニ從  
フノ義務アリ若シ管財人ノ行爲又ハ決斷ニ對シテ異議ヲ述  
フル者アルキハ破産主任官命令ヲ以テ之ヲ決ス此命令ニ對  
シテハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スヲ得  
第千十四條 財産目録ハ裁判所職員又ハ其地警察官吏ノ立會  
ヲ以テ管財人之ヲ作り若シ必要アルキハ破産者ヲモ立會ハ  
シム  
破産者ニ屬スル總テノ財産ハ財團ニ組入ル可カラサルモノ  
ト雖モ其價額ヲ明示シテ之ヲ財産目録ニ記入スルヲ要ス  
必要ナル場合ニ在テハ其價額ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシ  
ム  
財産目録及ヒ之ニ關スル調書ノ認證アル謄本ハ公衆ノ展閱

ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ  
檢事ハ其見込ニ因リ職權ヲ以テ財産目録ノ作成ニ立會フヲ  
得  
第千十五條 破産者ニ屬セサル財産ヲ財團ヨリ取戻ストハ係  
ル争訟ハ破産裁判所之ヲ裁判シ不動産ニ付テハ其所在地ヲ  
管轄スル裁判所之ヲ裁判ス  
第千十六條 管財人ハ破産主任官ノ定メタル三十日以内ノ期  
間ニ破産者ヨリ差出シタル届書及ヒ貸借對照表ヲ調査シ若  
シ破産者ヨリ之ヲ差出サ、リシキハ自ラ貸借對照表ヲ作り  
且其報告書ニ貸借對照表ヲ添ヘテ破産主任官ニ提出ス可シ  
報告書及ヒ貸借對照表ノ認證アル謄本ハ公衆ノ展閱ニ供ス  
ル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ  
報告書及ヒ貸借對照表ハ之ヲ檢事ニ送致スルヲ要ス

第一千十七條 貸方ノ借方ニ超ユルヲ判然ナルキ又ハ協諾契約ノ豫期セラル、間ハ裁判所ハ破産主任官ノ申立ニ因リ且管財人ノ意見ヲ聽キタル後管財人ヲシテ破産者ノ營業ヲ續行セシムルノ決定ヲ爲スヲ得

管財人營業ヲ續行スル場合ニ在テ財團ニ屬スル物ヲ通常ノ營業外ニテ賣却セントスルニハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ且豫メ破産者ノ意見ヲ聽クヲ要ス

第一千十八條 不動産ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ競賣スルヲ要ス

動産ハ競賣スルヲ通例トスト雖モ破産主任官ノ認可ヲ受ケルキハ相對ヲ以テ之ヲ賣却スルヲ得

競賣ノ手續ハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヲ以テ立會テ

第一千十九條 管財人ハ財團ニ屬スル破産者ノ貸方ヲ取立テ及

破産者ノ權利ヲ債務者其他ノ人ニ對シテ主張シ且保全スルヲ要ス

管財人ハ左ニ掲クル行爲ニシテ百圓以上ノ額ニ係ルモノニ付テハ破産者ノ意見ヲ聽キ且破産主任官ノ認可ヲ受ク可シ

第一 訴訟ヲ爲ス

第二 和解契約又ハ仲裁契約ヲ取結フ

第三 質物ヲ受戻ス

第四 債權ヲ轉付スル

第五 相續又ハ贈遺ヲ拒絶スル

第六 消費借ヲ爲ス

第七 不動産ヲ買入ル

第八 權利ヲ拋棄スル

第九 總テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムル

第一千二十條 財團ニ收入スル金錢ハ破産主任官ノ定ム可キ常用支出額ノ外遅延ナク之ヲ供託所ニ寄託スルヲ要ス其金錢ハ破産主任官ノ支拂命令ニ依ルニ非サレハ支出スルヲ得ス

第一千二十一條 管財人ハ其管財中破産者ニ罰セラル可キ行爲アルヲ知リタルキハ之ヲ破産主任官ニ届出ツルノ義務アリ破産主任官其届出ヲ受ケタルキハ之ヲ檢事ニ通知ス

第一千二十二條 破産主任官ハ破産ノ原由事情貸方借方並ニ其對照表其他管理及ヒ破産手續ニ關スル事項ニ付キ破産者其商業使用人雇人其他ノ人ヲ何時ニテモ訊問スルヲ得

第六章 債權者  
第一節 債權ノ届出及ヒ確定  
第一千二十三條 破産者ノ總債權者ハ破産決定ノ公告ニ因リ債

權届出ノ期間ニ其債權ヲ破産主任官ニ届出ツ可キ旨ノ催告ヲ受ケタルモノトス其届出ニハ各債權ノ合法ノ原因及ヒ請求金額若シ優先權アルモノハ其權利ヲ明記シ且證據書類又ハ其謄本ヲ添フ可シ  
他所ニ住スル債權者ハ裁判所所在地ニ代人ヲ置ク可シ  
債權及ヒ代人任置ノ届出ハ書面ヲ以テ又ハ調書ニ筆記セシメテ之ヲ爲スヲ得書面ヲ以テスル場合ニ在テハ二通ヲ差出スヲ要ス  
所在ノ知レタル債權者ハ右ノ外特ニ裁判所ヨリ書面ヲ以テ其債權届出ノ催告ヲ受ク然レモ其書面カ債權者ニ達セサルモ此カ爲メ損害賠償ノ請求ヲ爲スヲ得ス  
第一千二十四條 届出ハ之ヲ受取リタルキ直ニハ順次番號ヲ付シテ二箇ノ表ニ記載ス可シ其一ニハ優先權アル債權ヲ掲ケ

他ノ一ニハ通常ノ債權ヲ掲ク此債權表ハ公衆ノ展閱ニ供ス  
ル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ  
管財人ハ其使用ノ爲メ届出書及ヒ債權表ノ謄本ヲ受領ス  
第一千二十五條 調査會ハ管財人及ヒ成ル可ク破産者ノ面前ニ  
於テ破産主任官之ヲ開キ且其調査ヲ作ル可シ債權者ハ自身  
又ハ代理人ヲ以テ此會ニ参加スルヲ得  
破産主任官ハ債權者ニ取引帳簿若クハ其抜書ノ提出ヲ命ス  
ルヲ得調査ノ結果ハ債權表及ヒ提出シタル債務證書ニ附  
記シ且各債權者又ハ其代理人ニ告知スルヲ要ス  
調査會ハ届出期間ノ滿了後十日乃至十五日間ニ之ヲ開クヲ  
通例トス  
届出期間ノ滿了後ニ届出テタル債權ハ調査會ニ於テ之ヲ調  
査スルヲ得然レモ其調査ヲ爲スコニ付キ異議ノ申立アリ

タルキ又ハ調査會ノ終リタル後債權ヲ届出テタルキハ其債  
權者ノ費用ヲ以テ新ナル調査會ヲ開ク  
第一千二十六條 債權ノ確定ハ承認又ハ裁判所ノ判決ヲ以テ之  
ヲ爲ス  
調査會ニ於テ管財人ヨリモ又債權ノ確定シ若クハ貸借對照  
表ニ掲ケタル債權者ヨリモ異議ヲ申立テサルキハ債權ハ承  
認ヲ得タルモノトス  
管財人ノ債權ニ係ル承認又ハ異議ハ破産主任官其管財人ニ  
代ハリテ之ヲ爲ス  
第一千二十七條 異議ヲ受ケタル各債權ハ若シ其債權者之ヲ取  
消サルキハ破産裁判所公廷ニ於テ破産主任官ノ演述ヲ聽  
キ成ル可ク合併シテ其判決ヲ爲ス可シ其辯論及ヒ判決ハ原  
告、被告ノ出頭セサルキト雖モ之ヲ爲ス但此判決ニ對シテハ

故障ヲ申立ツルヲ得ス  
第一千二十八條 判決ハ成ル可ク債權者集會前ニ之ヲ爲スヲ  
要ス若シ之ヲ爲スヲ能ハス又ハ判決ニ對シテ控訴ヲ爲シタ  
ルキハ裁判所ハ異議ヲ受ケタル債權者ノ右集會ニ加ハルヲ  
ヲ許ス可キヤ否又幾許ノ金額ニ付キ加ハルヲ許ス可キヤ  
否ヲ決定ス  
債權者ノ優先權ノミカ異議ヲ受ケタルキハ其債權者ハ通常  
ノ債權者トシテ右集會ニ加ハルヲ得  
第一千二十九條 債權者正當時期ニ届出テス又ハ債權ノ確定セ  
サル債權者ハ以後ノ確定ニ因リテ爲ス可キ財團ノ配當ニノ  
加ハルヲ得然レモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權及ヒ  
届出並ニ調査ノ爲メ別段ノ期間ヲ定メラレタル在外國債權  
者ノ債權ニ付テハ以前ノ配當ニ於テ其債權ニ歸スル割前ヲ

留存ス  
第二節 特種ノ債權者  
第一千三十條 主タル債權者ノ破産ニ於テ届出テタル債權ハ協  
議契約ノ場合ト雖モ保證人其他ノ共同義務者ニ對シ其全額  
ニ付キ之ヲ主張スルヲ得又保證人又ハ共同義務者ハ主タ  
ル債權者ノ破産ニ於テ其償還請求ヲ届出ツルヲ得然レモ  
主タル債權者ノ爲メニスル協議契約ノ効果ニ從フ  
第一千三十一條 二人以上ノ共同義務者カ破産シタルキハ其各  
義務者ノ破産ニ於テ債權ノ全額ヲ届出ツルヲ得  
各自ノ破産財團ノ間ニ於ケル償還請求權ハ之ヲ主張スルヲ  
得然レモ債權者カ受取ル割前ノ額カ主タルモノ及ヒ從  
タルモノヲ合セタル債權ノ總額ヲ超過スルキハ其超過額ハ  
共同義務者中他ノ共同義務者ニ對シテ償還請求權ヲ有スル

者ノ財團ニ歸ス

第一千三十二條 左ニ掲クル債權ハ届出及ヒ確定ニ關スル規定

ニ從フヲ要セス

第一 裁判費用、管理費用其他破産手續上ノ費用

第二 公ノ手數料及ヒ諸税

第三 管財人カ財團ノ爲メニ負擔シタル義務ヨリ生スル

債權

右債權ハ破産主任官ノ指圖ニ從ヒ通常ノ方法ヲ以テ財團ノ

現額ヨリ之ヲ支拂フ

第一千三十三條 破産者ニ科シタル罰金及ヒ破産手續ニ加ハリ

タルニ因リテ債權者ニ生シタル費用ハ財團ニ對シテ之ヲ請

求スルヲ得ス

第一千三十四條 婦ハ其夫ノ財團ニ對シテハ法律、明約又ハ疑ナ

キ慣例ニ依リ婦ノ特有ニ歸スル所有權ヨリ生スル債權ノミ  
ヲ主張スルヲ得

### 第三節 債權者集會

第一千三十五條 債權者集會ハ破産主任官之ヲ招集シ及ヒ之ヲ

指揮ス其招集ハ會議ノ事項ヲ明示スル公告ヲ以テ之ヲ爲ス

其集會ハ管財人、債權ノ確定シタル債權者及ヒ第一千二十八條

ニ依リ參加スルヲ得ヘキ債權者ヨリ成立ス然レモ優先權

ノ確定シタル債權者ハ其優先權ヲ拋棄シタル限度又ハ優先

權ヲ行フニ當リ不足アル可シト推定セラル、限度ニ於テノ

ミ參加ス

債權者ハ代理人ヲ差出スヲ得

破産者ハ之ヲ集會ニ呼出スヲ得

第一千三十六條 決議ハ出席シタル債權者ノ過半數ヲ以テ爲ス

ヲ通例トス其過半数ハ出席員ノ有スル債權額ノ半ヨリ多キ額ニ當ルヲ要ス

第一千三十七條 集會ニ於テハ破産主任官ハ破産手續ノ從來ノ成行ニ付テノ報告ヲ爲シ管財人ハ管財ノ處理、其結果及ヒ財團ノ現況ニ付テノ報告ヲ爲ス

集會ハ右ノ報告ニ付テ決議ヲ爲シ若シ破産主任官又ハ管財人ノ意見アリタルハ其意見及ヒ債權者ノ爲シタル申立又ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ破産者ノ爲シタル申立ニ付テ決議ヲ爲ス可シ此等ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第七章 協諸契約

第一千三十八條 法律上ノ義務ヲ履行シタル破産者ニシテ有罪破産ノ判決ヲ受ケス又其審問中ニ在ラサル者ハ破産主任官

ノ認可ヲ受ケ第一ノ集會ニ於テ債權者ニ協諸契約ヲ提供スルヲ得又十分ノ理由アルキハ以後ノ集會ニ於テモ之ヲ提供スルヲ得然レモ其提供ハ一回ニ限ル

第一ノ集會ハ普通ノ調査會ヨリ四週日後ニ之ヲ爲ス協諸契約ノ申立書ハ少ナクモ集會ノ二十日前ニ之ヲ裁判所ニ差出シ裁判所ハ之ヲ公衆ノ展閱ニ供シ且其旨ヲ公告ス可シ

第一千三十九條 協諸契約ヲ承諾スルニハ出席シタル債權者ノ過半数ノ承諾ヲ要ス其過半数ハ議決權アル總債權額ノ四分三以上ニ當ルヲ要ス

管財人及ヒ議決權ヲ有スル債權者又後ニ至リ債權ノ確定シタル債權者ハ協諸契約ニ對シ十日内ニ理由ヲ附シタル異議ヲ裁判所ニ申立ツルヲ得

第一千四十條 債權者ノ承諾シタル協諸契約ハ裁判所ノ認可ヲ



得テ始メテ法律上有効トス其認可又ハ棄却ニ付テノ決定ハ破産主任官ノ演述ヲ聽キ前條ノ期間滿了後直チニ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ債務者及ヒ異議申立ノ權利アル者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第千四十一條 協諧契約ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ棄却ス可シ

第一 第千三十八條及ヒ第千三十九條ノ規定ヲ踐行セザル時

第二 協諧契約ニ依リ或ル債權者カ其承諾ナクシテ偏頗

ノ處置ヲ受ケ損害ヲ被ラレル時

第三 協諧契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタル時

第四 協諧契約カ公益ニ觸ルル時

第千四十二條 協諧契約ハ破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ判決ヲ受ケタル時ハ當然消滅シ其審問中ハ免訴又ハ無罪ノ宣告

ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

前條第三號ニ掲ケタル理由アル時ハ協諧契約認可ノ後ト雖

モ尙ホ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第千四十三條 協諧契約ノ確定シタル時ハ管財人ハ直チニ其

執務ヲ罷メ且其執務ニ付キ計算ヲ爲ス可シ

破産者ハ協諧契約ニ別段ノ定ナキ時ニ限り任意ノ管理及ヒ

處分ノ爲メ其財産ヲ取戻スコトヲ得

協諧契約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ爲ス

第千四十四條 協諧契約カ棄却セラレ又ハ後ニ至リ消滅シ若

クハ取消サル、又ハ不履行ノ爲メ解除セラレ、又ハ破産

手續ヲ再施シ直チニ財團ノ換價及ヒ配當ヲ爲シテ終局ニ至

ラシム其再施シタル手續ニハ再施マテノ間ニ債權ヲ得タル

者モ參加スルコトヲ得

不履行ノ場合ニ在テハ協諧契約ノ爲メ立テタル保證人ハ其義務ヲ免カレヌ

### 第八章 配當

第千四十五條 第千三十二條ニ掲ケタル債權及ヒ優先權アル債權ヲ支拂ヒタル後ニ殘レル財團ハ他ノ債權者間ニ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ配當ス

破産者カ資本ヲ分テ數箇ノ營業ヲ爲シタル場合ニ在テハ各營業ニ對スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團ヨリ優先權ヲ以テ辨償ヲ受ク

第千四十六條 配當ハ普通ノ調査會ノ終リタル後ハ配當ニ足ル可キ財團ノ生スル毎ニ管財人ノ調製シテ破産主任官ノ認可ヲ受ケタル配當案ニ依リテ之ヲ爲ス其案ハ破産主任官之ニ署名シ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ備置キ且其旨ヲ

第千四十七條 前條ニ掲ケタル期間ニ配當案ニ對シテ異議ヲ

申立ツル者ナキハ又ハ其異議ノ落着キタルキハ管財人ハ各債權者ヲシテ其債務證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ

記入シテ支拂ヲ爲ス若シ債務證書ノ提出ヲ爲ス可ハサルキハ破産主任官ノ許可ヲ得テ債權表ニ依リ支拂ヲ爲ス可ヲ得執レノ場合ニ於テモ債權者ハ配當案ニ受取證ヲ記スルヲ要ス

第千四十八條 財團ノ換價及ヒ配當ヲ全ク終リタルキハ債權者集會ヲ開キ此集會ニ於テ管財人ハ終局ノ計算ヲ爲ス可シ此計算ノ濟了シタルキハ裁判所ハ直ニ破産主任官ノ申立

ニ因リテ破産手續ノ終結ヲ決定ス此決定ハ之ヲ公告ス可シ  
第千四十九條 破産手續終結ノ後ハ辨償ヲ受ケサル債權者ハ  
破産手續ニ於テ確定シタルニ因リテ得タル權利名義ニ基キ  
其債權ヲ債務者ニ對シテ無限ニ行フコトヲ得

第九章 有罪破産

第千五十條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産  
宣告ノ前後ヲ問ハス履行スルノ意ナキ義務又ハ履行スル能  
ハサルコトヲ知りタル義務ヲ負擔シタルキ又ハ債權者ニ損害  
ヲ被ラシムルノ意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一分ヲ  
藏匿シ若クハ轉匿シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳  
簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造、變造シタルキハ詐欺破産ノ刑  
ニ處ス

第千五十一條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破

産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲クル行爲ヲ爲シタルキハ過怠  
破産ノ刑ニ處ス

- 第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用、博奕、空取引又ハ不相  
應ノ射利ニ因リテ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分  
ノ債務ヲ負ヒタルキ
- 第二 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル取引ヲ爲  
シテ支拂資料ヲ調べタルキ
- 第三 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲シテ或ル  
債權者ニ利ヲ與ヘ財團ニ損害ヲ加ヘタルキ
- 第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ藏匿シ毀滅シ又ハ全ク  
記載セサルキ
- 第五 破産者カ第三十二條、第九百七十九條又ハ第千三條  
第二項ニ規定シタル義務ヲ履行セサルキ

第一千五十二條 前二條ノ罰則ハ商事會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役及ヒ清算人ニモ之ヲ適用シ又第一千五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行爲ヲ行フノ際犯者ヲ助ケ又ハ有罪行爲ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス

第一千五十三條 債權者集會ニ於ケル議決ニ關シ債權者ニ賄賂ヲ爲シタル者ハ其雙方ヲ二個年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果

第一千五十四條 破産宣告ヲ受ケタル債務者又ハ破産シタル商事會社ノ無限責任社員若クハ取締役ハ復權ヲ得ルニ至ルマテハ取引所ニ立入ルヲ仲立人ト爲リ合名會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ又ハ株式會社ノ取締役ト爲ルヲ清算人、破産

管財人若クハ商事代人ノ職ヲ執ルヲ商業會議所ノ會員ト爲ルヲ其他商業上ノ榮譽職ニ就クヲ得ス

第一千五十五條 復權ヲ得ルニハ協諧契約ノ調ヒタルト否トヲ問ハズ破産者カ元債、利息及ヒ費用ノ全額ヲ債權者總員ニ辨償シタルヲ又所在ノ知レサル爲メ未タ辨償ヲ受ケサル債權者ニ全額ヲ辨償スルノ準備及ヒ資力アルヲ證明ス可シ復權ノ申立ニハ債權者ノ受取證其他必要ナル證據物ヲ添フ可シ  
然レモ協諧契約ノ場合ニ在テハ第一項ノ證明ヲ爲スヲ無クシテ取引所ニ立入ルヲ得又商事會社ニ付キ協諧契約ノ調ヒタル者ハ無限責任社員若クハ取締役ハ亦其證明ヲ要セス  
シテ會社ヲ繼續スルヲ得

第一千五十六條 復權ノ申立アリタル者ハ破産裁判所ハ異議ア

ル者ヲシテ二个月ノ期間ニ異議ヲ起サシメンカ爲メ裁判所  
ノ揭示場ト取引所トニ其旨ヲ揭示シ且裁判所ノ見込ニ因リ  
新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ捜査ヲ爲サシメンカ爲  
メ之ヲ檢事ニ通知ス可シ  
裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復權ノ申立ヲ許可スルト  
否トヲ決定ス此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得確定  
シタル決定ハ之ヲ公告ス  
棄却セラレタル申立ハ一年ノ滿了前ニハ再ヒ之ヲ爲スヲ  
得ス

第一千五百七十七條 復權ハ債務者ノ死亡後ト雖モ之ヲ許ス  
第一千五百七十八條 復權ハ詐欺破産ノ爲メニ判決ヲ受ケタル破産  
者又ハ重罪、輕罪ノ爲メニ剝奪公權若クハ停止公權ヲ受ケテ  
其時間中ニ在ル破産者ニハ之ヲ許サス

過怠破産ノ場合ニ在テハ復權ハ刑ノ滿期ト爲リ又ハ恩赦ヲ  
得タル後ニ非サレハ之ヲ許サス

第十一章 支拂猶豫

第一千五百九十九條 商ヲ爲スニ當リ自己ノ過失ヲクシテ一時其支  
拂ヲ中止セサルヲ得サルニ至リタル者ハ商事上ノ債權者  
ノ過半数ノ承諾ヲ得テ其營業所若クハ住所ノ裁判所ヨリ右  
債權者ニ對スル義務ニ付キ一年以内ノ支拂猶豫ヲ受クル  
ヲ得  
第一千六十條 支拂猶豫ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ添附スルヲ要  
ス

第一 支拂中止ノ事由ノ完全ナル明示

第二 貸借對照表、財産目錄及ヒ住所ト債權額トヲ明示シ  
タル債權者名簿

第三 債權者ニ主タルモノ及ヒ從タルモノ、完全ナル辨償ヲ爲シ得ルノ方法、期間及ヒ此カ爲メ供スルヲ得ル擔保ノ證明  
右申立及ヒ添附書類ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ且債權者ノ集會期日ヲ定メテ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルヲ要ス債權者ハ集會ノ爲メ各別ニ招集ヲ受ク  
支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之ヲ許可スルヲ得  
第一千六十一條 集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラレタル主任判事ノ上席ヲ以テ債務者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辯論ヲ爲ス其申立ヲ承諾スルニハ第一千三十六條ニ掲ケタル過半数ヲ要ス其辯論及ヒ議決ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第一千六十二條 裁判所ハ承諾ヲ得タル支拂猶豫ノ認否ニ付キ主任判事ノ演述ヲ聽キテ決定ヲ爲ス此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得  
支拂猶豫ハ申立ニ因リ前數條ノ手續ニ從ヒ一回ニ限り之ヲ延長スルヲ得然レモ其期間ハ一年ヲ超ユルヲ得ス  
第一千六十三條 債務者有効ナル支拂猶豫ヲ得タルキハ猶豫期間中其以前ニ取結ヒタル商取引ヨリ生スル債權ノ爲メニ強制執行及ヒ破産宣告ヲ受クルヲ無シ但猶豫契約ノ履行及ヒ業務ノ施行ニ關シテハ主任判事ノ監督ヲ受ク  
債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ右猶豫ノ爲メニ變更スルヲ無シ  
第一千六十四條 支拂猶豫ノ承諾ヲ得ス若クハ裁判所之ヲ棄却シタルキ又ハ後日ニ至リ債務者ノ詐欺若クハ不正ノ爲メ若



方石